

業務資料No. 260

ブラジルの日系企業要覧

—工業技術移住者受入企業—

海外移住事業団

RY

国際協力事業団	
受入 月日 84. 8. 10	703
登録No. 02855	28
	EM

JICA LIBRARY



1024534[8]

ま え が き

広大な国土と豊かな資源を有するブラジル国の経済社会開発には、外国資本、先進技術と移住者が重要な役割を演じております。

ブラジルの主要都市及び衛星都市は、工業地帯として発展しており、欧米諸国の一流企業、日本の大手企業が軒を並べ、また移住者が興した現地企業等もブラジル工業界発展の原動力として活躍しております。

本資料は、1969年8月発行した「ブラジル日系企業」の改訂版として作成したものです。

成長の激しいブラジルにあって、調査期間に多くを費すことは、折角調査した内容も旧態に属することも予測されますので、工業技術移住者を雇用している企業の一部紹介となっております。

工業技術移住、企業移住を計画する方に対する業務の参考資料として活用願います。

最後に、調査にあたりご協力を賜った各企業関係者に対し、心よりお礼申し上げます。

1974年1月

海外移住事業団

振興部長 中島長市郎

目 次

<漁 業>

1. コベスブラ北ブラジル漁業(株) 1
2. ブラジル大洋漁業(株) 2

<建 設 業>

総合工事業

- ボラン建設(有) 5

設備工事業

1. ジャック電気商工(株) 7
2. テルモプラン空調企画設計(有) 9
3. デンバプラス電信(有) 10
4. フジプラス電設工業(有) 11
5. ボビエル設備工事(有) 12
6. メイデン施設工事(有) 14

<製 造 業>

食料品製造業

1. イグアスイインスタントコーヒー(株) 17
2. トーメン製油(有) 19
3. ブラズメントール商工(株) 21

繊維工業

1. カサパーバ製麻(株) 24
2. サフロンテイジン(株) 25
3. ブラジル鐘紡(株) 27
4. ブラジル倉紡(株) 29
5. ブラジル東洋紡(株) 30
6. ブラジル三洋毛織(有) 32
7. ブラジルユニチカ(有) 34
8. ブラ拓製糸(株) 35

家具・装備品製造業

- 前田木工所(有) 38

パルプ・紙，紙加工品製造業

パペロッキ商工(株)39

化学工業

1 人河内製薬(株) 41
2 サンスイプラスチック工業(株)42
3. ブラジルイハラ化学工業(株) 44
4 ブラジル富士写真フィルム(有) 45
5 ブラジル北興化学農畜産工業(有)46
6 フレテック商工(有) 48
7. 三井肥料(株) 49

窯業

ブラジル特殊陶業(株) 53

鉄鋼業

1 ミナス・ジエライス製鉄所(株) 55
2 宿屋鋳物(株) 56

機械製造業

1 池森機械(有)59
2. 加藤精機(有) 61
3 パルジニヤ組立(有) 62
4 ブラジル久保田鉄工(有) 63
5. ブラジル初田工業(株) 65
6 ブラジル豊和工業(株) 67
7. ブラジルN.S.K商工(有) 72
8 ブラジル三菱重工業(株) 73
9 ブラジルヤンマー(株) 77
10 ボリスピン商工(株) 80
11 前川製作所(有) 83
12. 宿屋ボール盤工業(株) 84

電気機械器具製造業

1. カンダ電子工業(有) 86

2. 児玉機械製作所(有)	88
3. サドキン電球工業(株)	90
4. シエルナ電子工業(株)	93
5. シンクロナイズ電子工業(有)	94
6. チェリー電子工業(株)	97
7. 日立ライン電機工業(株)	99
8. ブラジル東芝(株)	101
9. ブラジル日本電気(有)	104
通信関連機械器具製造業	
モトラジオ商工(株)	106
輸送用機械器具製造業	
1. ブラジル石川島造船所(株)	110
2. 昭和工業(有)	112
3. 中田商工(株)	114
4. 新潟プラス(株)	116
5. ブラジルトヨタ自動車(株)	117
時計製造業	
ブラセイコー(株)	121
その他	
1. 鬼塚商工(有)	123
2. 佐藤電気メッキ(合)	125
3. 日光電気メッキ工業所(合)	126
<サービス業>	
調査業	
アイコン・インターナショナル・コンサルタント(有)	128

〈 漁 業 〉

1. コペスブラ北ブラジル漁業(株)
2. ブラジル大洋漁業(株)

1 コペスブラ北ブラジル漁業(株)

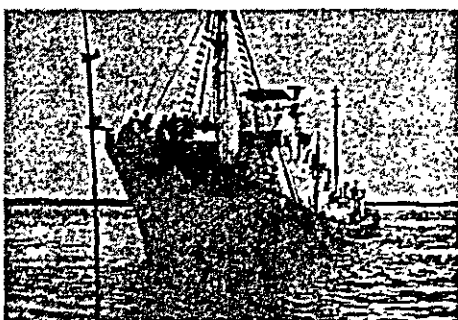
従来レシーフェ港は東大西洋のマグロ漁業基地として本邦漁船の出入が頻繁であったため、日本冷蔵(株)の進出することとなった。

当時サントス港を基地とする大洋漁業(株)と前後して1958年6月レシーフェ市に現地会社を設立した。

コペスブラ社ではマグロ、赤鯛を漁獲していたが、資源の枯渇と販売消費量等の関係でパラíba州ジョンベソア市のカペデーロを基地として6月～11月の間、捕鯨に専念している。

同基地での捕鯨漁獲は1969年754頭、1970年803頭、1971年975頭、1972年677頭を挙げている。最近ではブラジル国内全域が食肉不足でかつ値段が高騰している折柄、同社の鯨肉は安価で栄養価がありブラジル市民の好評を得ている。

またベレン市には支店を設け、えび漁の基地を設けており、1972年には255トンの漁獲があった。これらは主にアメリカ向け輸出(200トン)されている。



出発する漁船



水揚げ現場

会社概要

1. 会社名

CIA. DE PESCA NORTE DO BRASIL "COPESBRA"

2. 所在地

Av. Barbosa Lima, 149, S/316, Recife

3. 創立

1952年2月ブラジル人より漁業会社を買収し、1958年6月COPESBRAとして設立発足

4. 資本金 CR\$ 1,500,000,000 (69,852,000円)

5. 経営者

社長 上田清久

副社長 石神功

総務部長 早川鉄三

工場長 斉藤 昌弘

6 事業内容

・捕鯨、えび漁獲

鯨 肉 生肉、塩漬肉（バイア州、ペルナンブコ州、パライーバ州）

油 なめし皮用（南ブラジル方面）

骨 飼料肥料（トメアスー、東北ブラジル方面）

えび 地元並びにアメリカ方面へ輸出

・農場経営（1973年4月800haの農場を買収、近く牧畜農場にも進出）

7 月平均売上高

CR\$ 750,000.00 (34,500,000円)

8 従業員

本社・工場 日系人、ブラジル人 94名

鯨漁獲期（6月～11月） 180名

9 工場規模

敷地 253m² 従業員住宅 53戸

船舶 捕鯨船 1隻

えび用船 3隻

2 ブラジル大洋漁業(株)

1958年に大統領特別許可による試験操業を開始して以来約15年を経過する大洋漁業は、現在漁業部門として、大洋漁業(株)(COMPANHIA DE PESCA TAIYO)、製氷・冷蔵・冷凍加工部門として、大洋水産工業(株)(TAIYO INDÚSTRIA DE PESCA S.A.)並びにクニャ・アマラル水産工業(株)(CUNHA AMARAL S.A. IND. E COM.)の3社を有している。

大洋漁業の現有船舶は100トン型鋼船10隻、170トン型鋼船1隻を初め、合計17隻である。

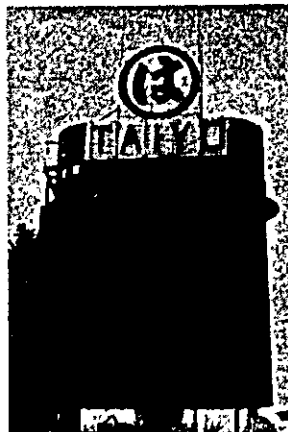
底曳漁業を主体として北はアマゾン河口海域から、南はリオ・グランデ・ド・スール州、ウルグァイ国までを行動範囲として年間11,500トンの水揚高を予想している。

大洋漁業(株)は1967年2月に発令されたブラジル漁業開発計画に基づいて100トン型鋼船10隻を建造購入するプロジェクト(総額5億9000万円)を1969年12月に許可され逐次実施の段階にあったが、その後内外情勢の変化並びに漁業資源調査にもとづき計画の一部を修正した。70トン型木造船10隻追加建造、漁網工場、修理工場の増設強化等を含む修正プロジェクト(総額約17億円)を作成して漁業開発庁(SUDEPE)に提出中である。

(2) 大洋水産工業(株)においても、製氷能力日産30トンへ50トンへ、冷蔵庫貯蔵能力350トンへ800トンへ増設、並びにエビその他の魚を冷凍加工する加工諸設備の増強拡張計画プロジェクト

(約3億7000万円)は既に認可済みであるが、更に今回缶詰工場も増設すべく検討中(総額約7億7000万円)である。

(3) クソニヤ・アマラル水産工業物はリオ・グランデ・ド・スール州リオ・グランデ市に所在する。1876年に設立され、90年以上の歴史をもつ水産会社を1969年末に大洋漁業が南ブラジル漁業基地として買収したものである。エビ、ベスカダ、メルルザその他の魚類の冷凍加工設備を増強するプロジェクト(総額約6億円)を1969年3月漁業開発庁(SUDEPE)より認可されてから着々と工事を進めている。



ブラジル大洋漁業

会 社 概 要

- 1 会 社 名
COMPANHIA DE PESCA TAIYO
- 2 所 在 地
Rua Otavio Correã , 115, Santos , Est. de São Paulo
- 3 創 立
1959年5月
- 4 資 本 金
CR\$ 3,290,897.00(151,381,262円)
- 5 経 営 者
代 表 大垣 繁一
取締役社長 内山 良文
専務取締役 芳賀 幸男
常務取締役 WEIMAR DA SILVA CASTRO
- 6 従 業 員
300名
- 7 工 場 規 模
本社敷地 4,000m²
建 物 3,000m²

大 洋 水 産 工 業 (株)

- 1 会 社 名
TAIYO INDÚSTRIA DE PESCA S.A.

- 2 所在地
Rua Otavio Correâ, 115, Santos, Est. de São Paulo
- 3 創 立
1958年1月
- 4 資 本 金
CR\$ 6,988,482.00(321,470,172円)
- 5 經 営 者
取締役社長 大垣 繁一
財務取締役 春日 健一
取 締 役 清水 保次
- 6 従 業 員
40名
- 7 工 場 規 模
本社敷地 4,000m²
建 物 3,000m²

クニヤ・アマラル水産工業(株)

- 1 会 社 名
CUNHA AMARAL S.A. IND.E COM.
- 2 所 在 地
Av. Portugal, 262, Rio Grande, Est. de Rio Grande Do Sul
- 3 創 立
1876年4月
- 4 資 本 金
CR\$ 4,856,216.00(223,385,936円)
- 5 經 営 者
取締役社長 村田 哲
取 締 役 清水 保次
ロベルト小清水
- 6 従 業 員
80名
- 7 工 場 規 模
本社敷地 16,500m²
建 物 6,000m²

〈 建設業 〉

— 総合工事業 —

ボラン建設(有)

— 設備工事業 —

1. ジャチック電気商工(株)
2. テルモプラン空調企画設計(有)
3. デンパプラス電信(有)
4. フジプラス電設工業(有)
5. ボビエル設備工事(有)
6. メイデン施設工事(有)

総合工事業

ポラン建設(有)

現取締役渡辺氏は日本大学土木学科を卒業して間もなく産業開発青年隊の一名として移住した。

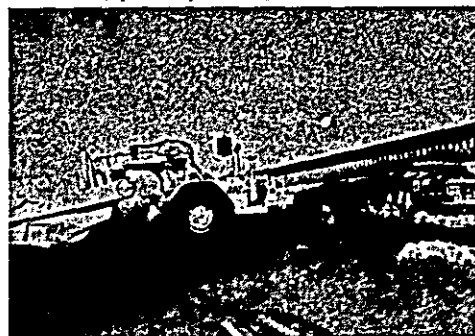
1964年10月「有限会社渡辺建設」を設立、その後発展的解消させ、1969年他の日本人2名とともに共同出資し現在の会社を発足させたものである。

同社の主要業種は、舗装を含む道路工事及び橋梁工事である。同社の受注先の主流はサンパウロ市をはじめとする近在市役所である。

最近は日系企業の進出に伴う工場建設にかかわる工事にも多くの受注があって今後一層の飛躍が期待される。



ポラン社工事現場



工事現場

会社概要

1 会社名

CONSTRUTORA PORÁ LTDA.

2 所在地 (事務所)

Rua Marconi, 48, 10^o and., Conjuntos 103 e 104, São Paulo
(倉庫) Rua Santa Maria, 85, Itaquera, São Paulo

3 創立

1969年10月

- 4 資 本 金
CR\$ 1,015,000.00 (46,690,000円)
- 5 経 営 者
取 締 役 渡辺 昭次
- 6 事 業 内 容
埋立整地, 道路(舗装を含む)工事
橋梁工事, 水道工事, 一般住宅建築, 工事建設
- 7 従 業 員
180名(日系人4名)
- 8 受 注 先
① サンパウロ市役所, その他の市役所 10市役所
② 外国系企業 5社
③ 日系企業 13社
- 9 主 要 資 産
① 車 輛 類
トラック・ジープ・一般車等合計 43台
② 機 械 類
トラクターを含む各種土木・建設機械・機器類 40機
③ 修理場兼格納倉庫

設 備 工 事 業

1 ジャチツク電気商工(株)

同社は、1955年11月ブラジル在住の日系人資本、宣伝業者、日本からの電気技術移住者を加えて電飾看板、電気機械、製造、加工を業とする電気工事会社として設立された。

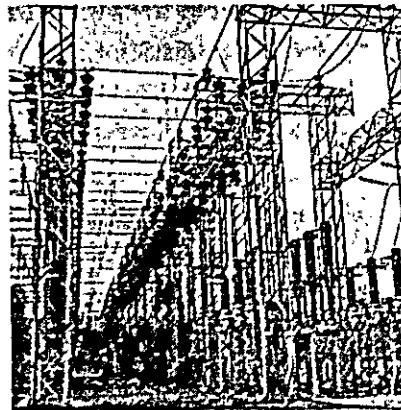
電飾看板は、ブラジル宣伝広告業界に一時代を創り出したが、業務の多角化方針により1958年にはオルゴール分野にも進出、その後麻生セメントが共同出資者として参加するに及び、電気配線工事、電気機械一般の修理・設計、空調配管工事等多角内容企業へと転換してきている。

(1) 電気配線工事

1950年代後期に進出した日本企業、ユニチカ、東洋紡、都築紡、鐘紡、豊和工業、ヤンマーなどの電気工事は、同社の設計施工になっており、1970年までの10年間はFORD、BENZ、PHILIPS、JOCKEY CLUBE、等の現地大手企業の電気工事を行なっている。

近年の企業進出ブームに備え、本社麻生セメント(株)より電気技術者の派遣と工業技術移住者の導入を行ないつつ電気工事部門の強化を計ってきている。

同社は現在、ブラジルでの永年の経験と実績を基盤として信用ある工事を重ね、顧客の評判も良い。



ジャチツク電気商工(株)変電所



設 計 室

(2) 配・分電盤、照明器具等の製作

ブラジルでは一般的に電設資材の品質が悪く、納入時期も遅れがちであるため全体の工期が遅れる事がしばしばである。

同社は工場をもっていることにより、配線ダクト、ケーブルラック、プルボックス、ジョイントボックス、蛍光灯器具等の製作を開始し工期短縮の効果を挙げている。現在は自家用のみ(受注工事分)製作しているが、近い将来には一般市場に販売する計画もある。

(3) 空調、配管工事

現在ブラジルは建設ブームであり、工場の新設・増設等が盛んであり、サンパウロは活気に満ちている。工場設備において空調・配管工事の需要も多くなってきたが、特に空調工事については今後の成長が期待されている。これは電気工事との関連もあり顧客より依頼されることも多い。

ジャチック社は総括計画施工を行なう総合設備会社として、最近三豊製作所、日本特殊陶業、都築紡等の工事を行なった。

(4) 電飾看板メーカーとして活躍

サンパウロを訪れる人達の目にとまるものとしてO ESTADO DE SÃO PAULO新聞社の電光ニュースや各種の電飾看板があるが、FORD, BENZ, PHILIPS 社等の大型の電飾看板は全てジャチック社が設計制作したものである。また同社の電飾看板はリオ・デ・ジャネイロやポルト・アレグレ等の大都市をはじめ、ベルー、カナダ、メキシコ、ニューヨーク等にも輸出された実績をもつ。

会 社 概 要

1 会 社 名

JATIC ELÉTRO MECÂNICA INDÚSTRIA E COMÉRCIO S.A.

2 所 在 地

Rua Engenheiro Mesquita Sampaio, 523, Chacara Santo Antonio, Santo Amaro, Est. de São Paulo

3 創 立

1955年11月

4 資 本 金

CR\$ 2,402,000.00 (110,492,000円)

5 経 営 者

取締役社長 麻生 太郎

取締役副社長 西村 完

専務取締役 長 孝雄

取 締 役 麻生 典太

6 生 産 品 目

電気設備工事設計施工、配管設備工事設計施工、空調設備工事設計施工

電飾看板・蛍光灯器具・配分電盤・プルボックス・オルゴール等の製作

7 従 業 員

225 名

8 工 場 規 模

① 土地面積 2,000m²

② 建坪面積 1,700m²

③ 工作機械

旋 盤	4台	折曲げ機	2台
フライス盤	3台	シャーリング	1台
セ ー バ ー	1台	油圧プレス	1台
プ レ ス	5台	その他専用機	3台
ボ ー ル 盤	9台		

2 テルモプラン空調企画・設計(有)

1963年加屋野淳氏により創立された空気調和設備の専門設計事務所である。同氏はサンパウロ大学その他で教職を歴任した後空調設備の設計並びに設計管理を目的として同社を設立し、1966年にEDUARD KRAAG氏の経営・技術参加を得て現在ではサンパウロ市で最初の専門設計事務所として業界の信頼に込えている。

同社はブラジリア首都建設公団(NOVACAP)と設計契約を締結し、サンパウロ州その他の諸州の業務とともに首都ブラジリアの建設に伴う設計業務の増大が今後も予想される。

現在日系一世、二世の技術者も多く働いており今後益々設計の質の向上を背景とした業界の信頼を基礎にユニークな設計事務所としてその発展が期待される。

会 社 概 要

1 会 社 名

THERMOPLAN-PLANEJAMENTOS TERMICOS LTDA.

2 所 在 地

Rua Barão de Tatui, 386, Santa Cecilia, São Paulo

3 創 立

1963年8月

4 資 本 金

CR\$ 300,000.00(13,800,000円)

5 経 営 者

代表取締役 加屋野 淳(ジョージ・アツシ・カヤノ)

取締役 EDUARD KRAAG

6 事 業 内 容

冷房・暖房・換気等一般空気調和設備並びに特殊空気調和設備の計画・設計及び設計管理業務

7 従 業 員

27 名

8 主 要 取 引 先

ブラジル政府, 銀行関係, 建設会社

3 デンバブラス電信(有)

日本の約23倍にも及ぶ広大な国土と無尽蔵といわれる天然資源, さらに人的資源をフルに活用するためには, 通信によって結ぶことが不可欠となる。

同社は, 日系電気工事施工会社であるエレクトロブラネット社の工事技術経験者が集まって1972年5月設立された。

ブラジル国内および国外における通信, 電話施設に対する調査設計, 施工事業の工事請負を主体とした事業を行なっている。

営業特色として, 一般電気工事請負, その他多角的に会社発展を図ると共に青年技術者の技術向上とスタッフ養成を図っている。

最近, NEC 社の工事請負が急増し優れた多くの日本人技術者に参加を呼びかけている。

会 社 概 要

1 会 社 名

DENPABRAS SOCIEDADE TÉCNICA E ELETROTELECOMUNICAÇÃO LTDA.

2 所 在 地

Rua Cardeal Arcoverde, 2628, Pinheiros, São Paulo

3 創 立

1972年5月

4 資 本 金

CR\$ 220,000,000 (10,120,000円)

5 経 営 者

取締役会長 下村 認

取締役社長 山浅不二夫

専務取締役 高松 四郎

技術取締役 服部 光男

6 事 業 内 容

通信・電話工事請負

建築・設備工事請負

機械・鉄骨組立工事請負

上記調査設計一般及び専門技術者派遣

電気材料・機械材料販売

通信・電話機販売

7 従 業 員

技術職員 102 名

事務職員 6 名

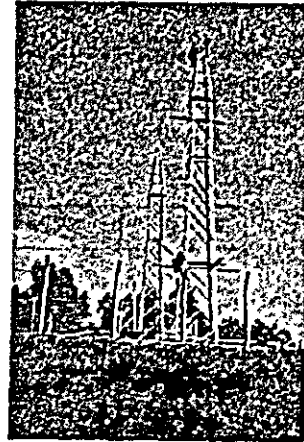
8 主 要 取 引 先

ブラジル日本電気, ブラジル戸田建設, 下村建設

4 フジプラス電設工業(有)

同社は、1964年に設立されたソニエール電気工事設計会社に、電気施工を専門とするエステック社と、同じく電気関係事業に従事するコテップ社が合流して、1967年8月に新発足した。

フジプラス社の主な事業は、電灯・電力送配電線工事の設計施工、発電所工事の設計施工、有線無線通信工事の設計施工、給排水衛生施設・蒸気・圧空・ガス・油配管工事の設計施工、空気調和設備工事設計施工などで、とくに日本からの進出企業、コロニア企業には、大、小型を問わず実施している。



フジプラス社 送電線工事風景

会 社 概 要

1 会 社 名

FUJIBRAS INSTALAÇÕES INDÚSTRIAS LTDA.

2 所 在 地

Av. Conselheiro Rodrigues Alves, 1021, Vila Mariana, São Paulo

3 創 立

1967年8月

4 資 本 金

CR\$ 38,000.00 (1,748,000円)

5 経 営 者

代表取締役社長 久保田義蔵
総務担当取締役 岡 正敏
営業担当取締役 清水 伊重
工事担当取締役 東郷 滋雄、谷田部 猛
財務担当取締役 投石 正雄
購入担当取締役 須佐 俊雄

6 事 業 内 容

各種工事設計施工請負

7 従 業 員

本 社 45名
現場関係 357名

8 主 要 取 引 先(主要工事先の一部)

ブラジル日本電気、ブラジル石川島造船所(株)、ブラジル初田工業、ブラジルヤンマーディーゼル、
(株)、ブラジル東洋紡績(株)、WALITA電機(株)、その他多数

9 売上高の推移

年 度	売上高 単位：CR\$
1967	25,000,000
1968	320,000,000
1969	750,000,000
1970	1,750,000,000
1971	4,500,000,000
1972	9,800,000,000
1973	20,000,000,000(予想売上高)

5 ポビエル設備工事(有)

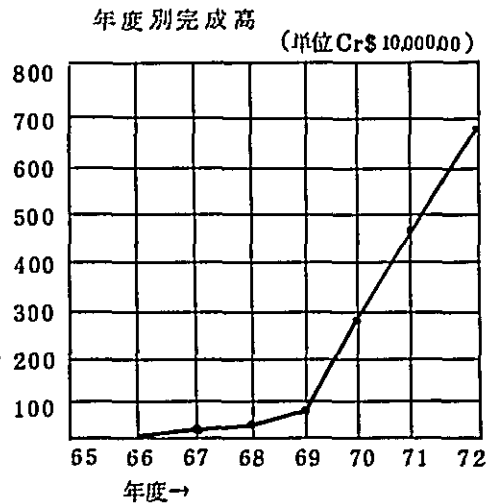
同社はブラジル日系二世技術者を中心に、日本から移住した産業開発青年隊員及び工事技術者が共同して設立し1965年11月営業登録、実質的な営業は1966年4月から開始している。

設立当初は創業に参画した数名の技術者によって屋内電気工事の設計施工等の小規模工事が営業の主体であったが、1968年にはブラジルIBM指定業者となり電子計算機の施設工事を施工できるまでに成長した。また漸次工場施設等の大型工事施工も請負い、その実績は伸展し従業員規模も拡充され(現在は常用人員430名、大学、専門学校、高等学校を履修した技術員45名を数える)、この種の工事会社としては技術員数の構成比率の極めて高い特性を有する会社として業界に認められてい

る。

1970年度よりサンパウロ電話公社の電話施設工事を請負い、延48kmにのぼる工事量の実績を挙げ、1972年2月に協和電設工業KKとの話し合いにより、同部門を同社より分離、協和電設と合併によるボビエル・協和電設LTDAを設立、操業を開始した。

同社は経営基盤の拡充と技術移住者の受入れを促進し、日本とブラジルの技術の交流によりブラジル国の発展に寄与すべく一層の努力と前進を期している。



会 社 概 要

1 会 社 名

BOVIEL ENGENHARIA E INSTALAÇÃO LTDA.

2 所 在 地

Rua Dr. Mario Cardin, 302, São Paulo

3 創 立

1965年11月

4 資 本 金

CR\$ 235,000.00 (10,810,000円)

5 出 資 者 (役員)

出資者代表 山内 淳

出資者(総務) 渡辺 幸弘

・ (設計) 佐野 勝也

・ (建築) 森 公迪

・ (水道) 小久保集己

・ (技術総括) 山下 幸雄

・ (電気) 桜井 文二

6 営 業 種 目

電気工事一般、電信・電話工事、上下水道・ガス工事、建築工事、コンピューター施設工事

測量及び上記設計一般

上記専門技術者派遣

7 月平均受注高

約CR\$ 700,000.00(32,200,000円) - 1973年2月現在

8 主要取引先

ブラジルIBM, サンパウロ電話公社

ブラジル日立, サンパウロライト

HB建築KK

オックスフォード建設KK

9 従業員数

総数 430名

- | | | |
|----------------------------------|-----|------|
| ① 大学又は高等専門学校卒 | 13名 | |
| ② 高校卒 | 32名 | |
| ③ 建設工事一般に関し3年以上の実務経験を有する職員および常務者 | | 172名 |

10 所有工具及び作業機械

- ① 電気・電設工事用器具一式
- ② 建築用機械器具一式
- ③ 作業車 3台 トラック 3台
- ④ 営業用乗用車 10台
- ⑤ 資材置場(2,500m²)

6 メイデン施設工事(有)

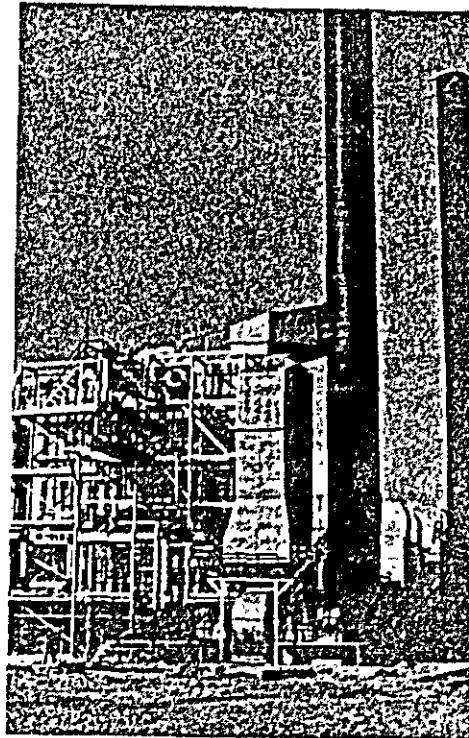
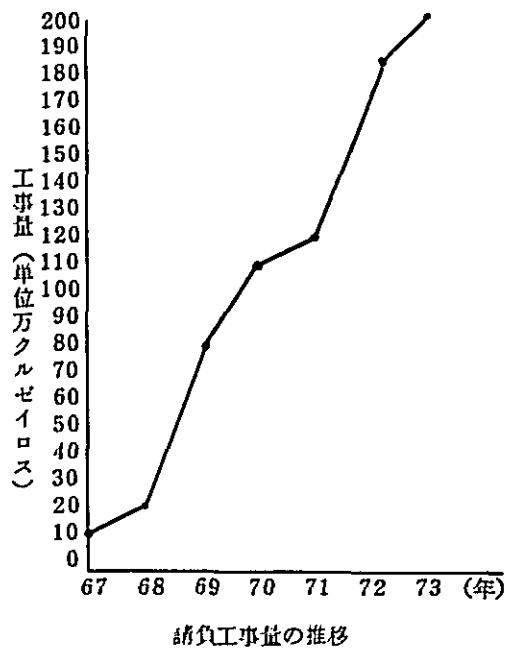
三菱重工のミナス・ジエライス工場拡張工事を請負ったサンパウロ建設会社の従業員がその工事主任を中心として独立し、1967年4月に工事会社を設立した。

会社は、三菱重工の下請として事業を行っており、最初の工事は80トンP/Hボイラーの現地据付工事である。

以来、ボイラーの据付工事という特殊分野であるため年々業績を挙げてきている。

またこれに並行し、三菱ミナス工場の拡張工事の設計施行を依頼され土木建築工事方面にも事業を拡大した。なお、これに伴う鉄骨製作のため三菱工場内に製缶工場を設け現在に至っている。

将来、日本からの進出企業等と業務提携を結び総合的な工事会社として発展させる考えである。



MEI DEN社によるボイラー工事風景



MEI DEN社工場内部

会 社 概 要

- 1 会 社 名
"MEIDEN" MONTAGENS E INSTALAÇÕES INDUSTRIAIS LTDA.
- 2 所 在 地
(1) 本社 Rua Josê Bonifácio, 278, 2^o and. Sala 209, São Paulo
(2) 支店 Rua Rio Grande do Norte, 51, Varginha Est. de Mato Grosso
- 3 創 立
1967年4月
- 4 資 本 金
CR\$ 10,000.00 (資産CR\$420,000.00)
(460,000円) (19,320,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役社長 武井 良造
取締役副社長 猪口 光盛 (経理部長兼務)
・ 工事部長 浅妻 信博
・ 営業部長 清水 泰正
- 6 事 業 内 容
① 産業機械 (ボイラー等) 各種配管工事等現地工事
② 土木建築設計施行
③ 各種製缶物の製作
- 7 月平均売上高
CR\$ 180,000.00 ~ CR\$ 200,000.00 (8,280,000円~9,200,000円)
- 8 従 業 員
本社及び支店
事務系 7名
営業 3名
工 員 110名 (工事量により増える)
- 9 主要取引先
ブラジル三菱重工業株式会社
その他ヨーロッパ系数社
- 10 工 場 規 模
1,000m²

同社は現地工事が主体であるため現行作業に必要な最小限の建物改備にて製缶作業を行なっている。

〈 製 造 業 〉

食料品製造業

1. イグアス・インスタントコーヒー (株)
2. トーメン製油 (有)
3. プラスメントール商工 (株)

繊維工業

1. カサバーバ製麻 (株)
2. サフロンテイジン (株)
3. ブラジル鐘紡 (株)
4. ブラジル倉紡 (株)
5. ブラジル東洋紡 (株)
6. ブラジル三洋毛織 (有)
7. ブラジルユニチカ (有)
8. ブラ拓製糸 (株)

家具・装備品製造業

前田木工所 (有)

パルプ・紙、紙加工品製造業

バベロッキ商工 (株)

化学工業

1. 大河内製薬 (株)
2. サンスイプラスチック工業 (株)
3. ブラジルイハラ化学工業 (株)
4. ブラジル富士写真フィルム (有)
5. ブラジル北興化学農畜産工業 (有)
6. ファテック商工 (有)
7. 三井肥料 (株)

窯業

ブラジル特殊陶業 (株)

鉄鋼業

1. ミナス・ジェライス製鉄所 (株)
2. 宿屋鋳物 (株)

機械製造業

1. 池森機械 (有)

2. 加藤精機(有)
3. バルジニヤ相立(有)
4. ブラジル久保田鉄工(有)
5. ブラジル初田工業(株)
6. ブラジル豊和工業(株)
7. ブラジルN・S・K商工(有)
8. ブラジル三菱重工業(株)
9. ブラジルヤンマー(株)
10. ポリスピン商工(株)
11. 前川製作所(有)
12. 宿屋ボール盤工業(株)

電気機械器具製造業

1. カンダ電子工業(有)
2. 兎玉機械製作所(有)
3. サドキン電球工業(株)
4. シェルナ電子工業(株)
5. シンクロナイズ電子工業(有)
6. チェリー電子工業(株)
7. 日立ライン電機工業(株)
8. ブラジル東芝(株)
9. ブラジル日本電気(有)

通信関連機械器具製造業

モトラジオ商工(株)

輸送用機械器具製造業

1. ブラジル石川島造船所(株)
2. 昭和工業(有)
3. 中田商工(株)
4. 新潟鉄工(株)
5. ブラジルトヨタ自動車(有)

時計製造業

ブラセイコー(株)

その他

1. 鬼塚商工(有)
2. 佐藤電気メッキ(合)
3. 日光電気メッキ工業所(合)

食 料 品 製 造 業

1 イグアス・インスタントコーヒー(株)

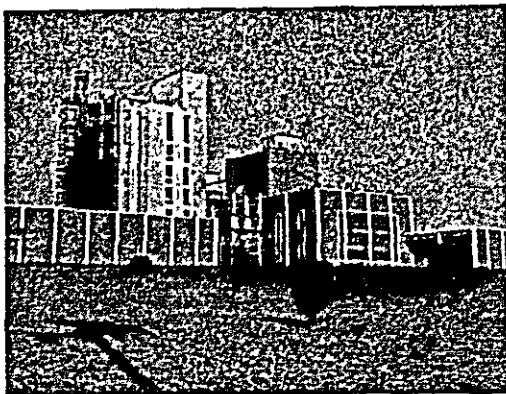
同社は日系コロニアと、パラナ州コルネオ・プロコピオ市を中心としたコーヒー関係農場主、コーヒー精選業者、倉庫業者、輸出業者等の有志により、1967年6月設立された。

1968年5月23日付商工大臣決議第59号によって同社は政府より年間21万俵使用の割当ての特恵が与えられている。これは、次の要件を満たすものについて政府が検討して許可するのであるが、その要件は、

- (1) コーヒー生産中心地区に工場を設置すること
- (2) 世界の最も進歩した技術による製法であること
- (3) 過半数はブラジル資本によって構成されていること

である。提出された72社案中、認可された5社案の中に同社案も入った。

1970年には中央銀行指令によって公開株式会社として登録され、1971年7月工場の落成式が行なわれて生産開始となった。



イグアッスー・カフェソルベル株式会社 工場全景



冷凍真空乾燥式インスタント・コーヒーイグアッス
市販及輸出製品

50grs 200grs 100grsの順(左より)

会 社 概 要

- 1 会 社 名
COMPANHIA IGUAÇU DE CAFÉ SOLÚVEL
- 2 所 在 地
(本社) Cornélio Procópio, Est. do Paraná Km-88 Rodovia Melo Peixoto
369
(支社) Av. Brigadeiro d'Almeida Antonio, 2020, 3ª and., São Paulo
- 3 創 立
1967年6月
- 4 資 本 金
CR\$ 39,375,000.00 (1,811,250,000円)
- 5 経 営 者
取締役社長 宮本 邦弘
取締役副社長 芦沢 克, 宮本 明夫
専務取締役 九十九利雄
常務取締役 Antonio Severo De Castro
江坂雅信, 藤川一弘, 大家好, 高橋・ロドルフ・正剛
- 6 生 産 品 目
ソルベール・コーヒー(インスタントコーヒー)
① フリーズ・ドライ・コーヒー
◦ Freeze Dry Solúvel Coffee
◦ 冷凍真空乾燥式インスタント・コーヒー
◦ 顆粒状インスタント・コーヒー
② スプレイ・ドライ・コーヒー
◦ Spray Dry Solúvel Coffee
◦ 熱気乾燥式インスタント・コーヒー
③ レギュラー・コーヒー
- 7 従 業 員
- | | 事務員 | 工場員 | 附属職員 | 奮員 | 建築工員 | 計 |
|-------|-----|-----|------|----|------|-----|
| 本社・工場 | 43 | 269 | 55 | 10 | 98 | 475 |
| 支 社 | 15 | | 5 | | | 20 |
| 計 | 58 | 269 | 60 | 10 | 98 | 495 |
- 8 輸 出 販 売 先
アメリカ, カナダ, ノルウェー, スウェーデン, 西ドイツ, フランス, イギリス, スイス, オーストリア, ギリシャ, オランダ, ベルギー, 日本, 香港, 台湾
- 9 1972年度販売額
CR\$ 24,765,604.48 (1,139,217,800円)

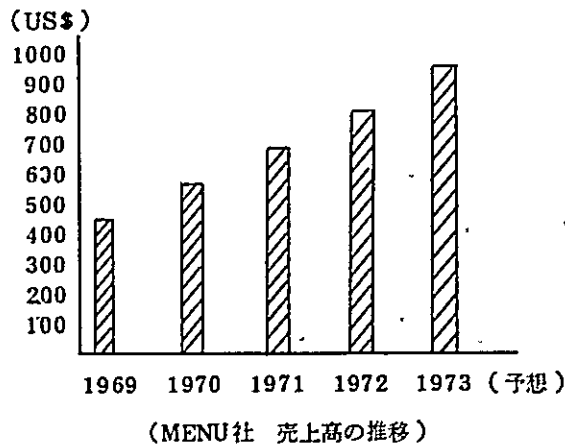
1973年から生産量の倍増とともに国内市場に“イグアス”コーヒー・リオフリザード(フリーズ・ドライ)がデビューした。

10 工場規模

- ① 敷地 133,169m²
- ② 建物 21,094m²

2 トーメン製油(有)

1968年株式会社トーメンは取引先BRASMEN S.A.社の依頼により植物油製造工場並びに繰綿工場を買取りSUPERFINE ÓLEOS VEGETAIS LTDAを設立した。1969年2月より本格的



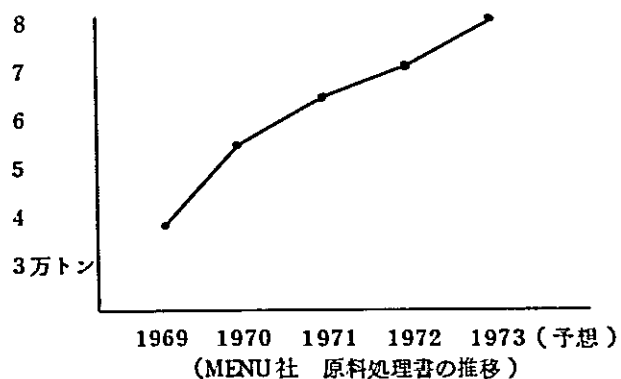
操業を開始、以来毎年1回20日間の定期修理期間を除き、24時間3直交替フル操業を継続している。その間幾多の合理化設備を行ない現在その処理能力は1969年と比べて2.5倍に達し主力製品綿実サラダ油はサンパウロ州・ミナス州・マツグロン州の一般家庭を対象にMARK“MENU”(メ-ヌ-)印として広く愛用されている。綿実粕は国内有力配合飼料メーカー並びに海外からの注文も多く製造が間に合わぬ程である。

1971年社名をÓLEOS“MENU”

INDÚSTRIA E COMÉRCIO LTDA(略称MENU社)に変更、商品のイメージアップを図った。1973年には地元棉花栽培業者からの要望もあり繰綿工場の全面操業を開始した。

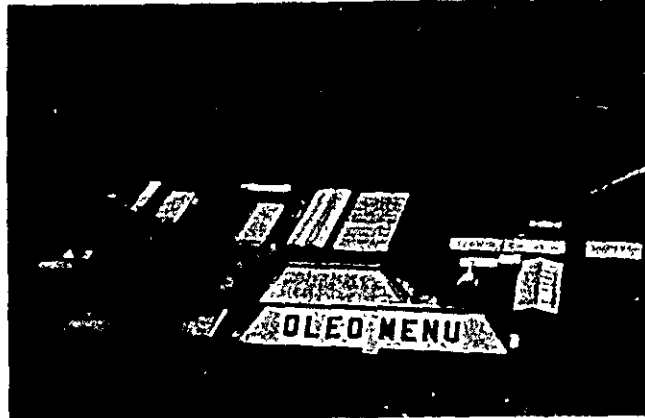
株式会社トーメン(資本金100億ドル)のブラジル進出は1937年にさかのぼる。当時ALGODO-EIRA DO SUL LTDAの社名のもとに、繰綿工場経営並びに棉花の対日輸出等活発な活動をしていた古い歴史があり、現在はTOMEN DO BRASIL LTDAに社名を変更、各分野にわたり総合商社としての機能を発揮している。

MENU社は株式会社トーメンの100%出資の子会社として別個に設



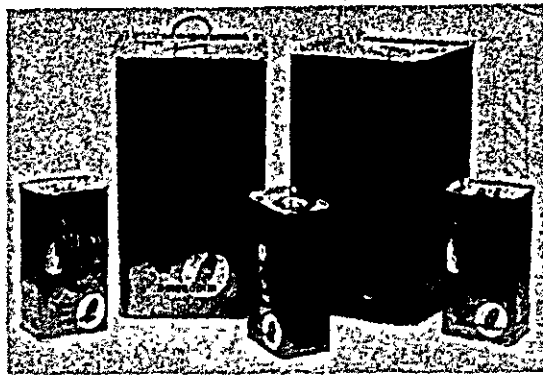
立された独立法人である。設立当時ブラジルには多くの製油工場があり過当競争の様子を呈していたが、その後、順調な発展を続けサンパウロ州ノロエスタ地方の経済発展に寄与している。

現在ブラジルでは日本からの資本・技術導入を歓迎しているが、MENU社としては、日本からの技術移住者をできるだけ多く迎え入れ農産物加工の分野ばかりでなく、



トーマン(有)の子会社OLEO MENU社の全景

食品工業の方面にも発展する方針である。



"MENU"印の棉実サラダ油

会 社 概 要

1 会 社 名

OLEOS "MENU" INDÚSTRIA E COMÉRCIO LTDA.

2 所 在 地

(本社) Av. Brigadeiro Luis Antonio, 2344, 5^o and.,

(工場) Rua Afonso Pena S/N Guararapes Nob. Est de São Paulo

(倉庫) Rua Benjamin de Oliveira, 283, Bras, São Paulo

3 創 立

1968年5月

4 資 本 金

CR\$ 3,977,600.00(182,969,600円)

5 経 営 者

社 長 中山 健次

取締役 岡多 加之

小田切 武

6 生 産 品 目

棉実サラダ油, 棉実粕, リンター, ステアリン, 精棉

7 月平均売上高

CR\$ 5,000,000.00(230,000,000円)

8 従 業 員

本 社 18名

工 場 128名

9 主要取引先

○ SUPERMERCADO PÃO DE AÇUCAR S.A.

○ SUPERMERCADO PEG PAG S.A.

○ GONZALVES SE S.A.

○ SOCIL PROPECUARIA S.A.

○ PURINA DO BRASIL ALIMENTOS LTDA.

○ DURATEX S.A.

○ CIA. NITRO QUIMICA BRASILEIRA

○ S.A. INDÚSTRIAS REUNIDAS FRANCISCO MATARAZZO

10 工 場 規 模

敷 地 290,000m²

建 物 20,000m²

3 ブラズメントール商工(株)

1936年頃日系農家によって始められたハッカ栽培はソロカバナ地方プレジデnte周辺に広く栽培された。その後、バラナバネマ河流域に移動し1955年頃からバラナ州の原始林開拓と共に作付けが新たに植付けされる所となり現在ではブラジル生産ハッカ油の90%がバラナ州で生産されている。

同社はこのハッカ歴史とともにソロカバナ地方、アルバレスマッシュェード市にハッカ結晶及び精製工場を設置、更にバラナ州マリンガ市新工場を設置して現在に至っている。

会 社 概 要

1 会 社 名

BRASMENTOL S.A. COMÉRCIO E INDÚSTRIA

2 所 在 地

(本社) Praça João Mendes, 42, 9^o and., São Paulo

(ハッカ工場) Rua Guarani, 223, Maringa, Est. do Parana

その他ハッカ原油買付所がパラナ州に7カ所ある。

(落花生工場) Av. Castero Branco, 3588, Umuarama, Est. do São Paulo

(支店) Av. Das Americas, 122, Alvares Machado, Est. de São Paulo

3 創 立

1958年11月

4 資 本 金

CR\$ 4,200,000.00 (193,200,000円)

1973年5月に100%増資 CR\$ 8,400,000.00 (386,400,000円)

5 経 営 者

取締役社長 鴨川 茂夫

取締役副社長 吉雄 弘

財務取締役 井上 税雄

営業取締役 林 志烈

専務取締役 福田 晋一

6 事 業 内 容

ハッカ原油の売買精製、ハッカ結晶・脱脳油の輸出、落花生その他の農産物の売買及び殺虫剤・農機具の販売

○ 1971年度輸出総額 CR\$ 4,504,950.00 (207,227,700円)

国内市場取引高 CR\$ 3,621,074.00 (166,569,404円)

○ 1972年度輸出総額 CR\$ 6,210,000.00 (285,660,000円)

7 従 業 員

本社及び支店 25 名

ハッカ工場及び職員 40 名

ハッカ原油買付人及び所員 50 名

落花生工場及び職員 35 名

計 150 名

8 販 売 先

○ ハッカ結晶及び脱脳油の輸出 — 日本、世界各地 (日本取引先 — 丸紅, 安宅産業, 山本香料, 小坂産業 etc)

○落花生の輸出先 — 欧州

○国内 — 有名製菓会社に落花生の販売

(KIBON S.A., LACTA S.A., CHOCOLATE PAN, ADUNTI STA etc.)

9 工場規模

① ハッカ工場

土地敷地 2,200m²

工場建物 1,800m²

本社建物 350m²

ハッカ精製機械 20 台

その他機械 7 台

車輛運搬具 40 台

② 落花生工場

土地敷地 2,100m²

工場建物 1,300m²

電気選択及び選別機械 4 台

その他の機械 2 台

車輛運搬具 5 台

織 維 工 業

1 カサパーバ製麻(株)

(1) 3億円を投入して設備の近代化を促進

従業員600名を必要とした非能率的な工場設備を、1966年合理化計画により製麻布および製麻袋製造機械をアイルランドから購入し、現在半数(300名)で操業可能となり、近代化が行なわれつつある。

麻布・麻袋の原材料である黄麻(ジュート)は、コショウとともに日本人の手によってインドからアマゾンに移植栽培されたアマゾンの二大産菜である。

このジュートによって作られる麻袋は綿・豆・米・コーヒー等の農産物の包装に欠くことのできないものであり、その他乾肉・羊毛などの包装にも使用されるためブラジルでも重要な産菜の一つになっている。

(2) 株式を公開、一般の資本参加により、さらに近代化を促進する計画

1910年製の旧式設備を一掃し、最新式完全自動機械設備を導入した同社はさらにつきのように第2次計画として50万ドルの拡張計画を推進中である。

- ① 普通一般使用の麻布および黄麻袋増産のための現存機械設備一切の拡張
- ② 黄麻・ラミ-または類似繊維を主原料とする紙氈の裏張り、またはカーテン用等特別サイズの織物設備の購入
- ③ 黄麻・ラミ-・シザ-ル-あるいは類似繊維を使用する一般繩紐製造のための設備機械購入
- ④ 他繊維工業または他種工業への多角拡張

そのため資本金も3億円以上に増資する予定である。

また同社は、他の製麻布・麻袋会社に先行して現地アマゾンに支店を開設、梱包工場を有している。この工場はアマゾン河口のベレーン市より800kmのPARINTINSにあり黄麻生産者より直接買付ならびに梱包作業(プレス)を行なっている。

会 社 概 要

1 会 社 名

CIA. DE ANIAGEM DE CAÇAPAVA

2 所在地

(本社) Rua Florencio de Abreu, 352, 10^o and., São Paulo

(工場) Av. Das Saudades, 16-30, Caçapava, Est. de São Paulo

3 創立

1961年9月

4 資本金

CR\$ 6,000,000.00 (276,000,000円)

5 経営者

取締役社長 吉雄 武

・ 副社長 吉雄 弘

専務取締役 鶴川 茂夫

6 生産品目

麻布・麻袋 月産230トン

7 従業員

300名

2 ブラジルサフロンテイジン(株)

日本の紡績業界のブラジル進出は、東洋紡がサンパウロに1955年4月工場を建設して以来、倉紡(リオ・グランデ・ド・スール州)、鐘紡、日紡、三洋毛織(サンパウロ)等の大手が相次ぎ進出し可能性のある地域としては東北伯地方を残すのみとなっていたところ、帝人(株)がサルパドール工業地帯に目をつけSUDENEへ設立計画書を提出し、1967年SUDENEの認可とともに工場建設に着手した。

工場はバイヤ州アラツ工業団地に建設され、1972年2月より操業を開始した。

サフロン帝人(株)は帝人(株)とブラジルの有力企業集団であるサフラグループとの現地合機生産会社であり、ポリエステル長機維、同短機維の製造、販売及びそれに付帯する一切の事業を行なっている。

同社は昭和50年前半をメドに、重合、紡糸の設備をそれぞれ倍増する予定である。この結果、重合設備が現在の日産能力15トンから30トンへ、また紡糸設備が15トンから27トンとなる。

会社概要

1 会社名

SAFRON - TEIJIN S.A. INDÚSTRIAS BRASILEIRAS DE FIBRAS

- 2 所在地
VIA SENTR S/N, CENTRO INDUSTRIAL DE ARATÚ MUNICIPIO
SIMÕES FILHO, EST. DA BAHIA
- 3 創 立
1967年3月 サフロンS.A設立
1970年3月 サフロンテイジンS.Aに社名変更
- 4 資 本 金
CR\$ 106,777,000.00 (4,911,742,000円)
- 5 経 営 者
社 長 HENRIQUE FLEJUSS
副社長 野村 忠(帝人役員)
生産担当取締役 石井 勝美(帝人側より出向)
販売担当取締役 大倉 史郎(同上)
財務担当取締役 ORLAND PATTO
人事総務取締役 JOSÉ MAIA
非常勤取締役 郡司不二夫(丸紅側より出向)
- 6 事 業 内 容
合成繊維の製造販売
ポリエステル長繊維 350トン/月
ポリエステル短繊維 165トン/月
- 7 月平均売上高
約CR\$ 10,000,000.00
- 8 従 業 員
713名(不請負者の従業員を除く)このうち帝人からの出向者29名
- 9 主 要 取 引 先
長繊維 KARIBE MEIATEX
短繊維 FIELTEX FILOBEL
- 10 工 場 規 模
○敷 地 400,000m²
○重合設備 2系列
○短繊維紡糸延伸設備 半系列
- 11 設 備 規 模
○長繊維設備 10トン P/DIA
○短繊維設備 5トン P/DIA
上記は設備標準能力であり、実生産量はこれを若干上廻っている。

3 ブラジル鐘紡(株)

鐘紡のブラジルにおける歴史は古い。1928年、時の政府の要請により子会社南米拓殖(株)を設立、アマゾン開発に乗り出したのがその第一歩である。第二次大戦を経て現在その姿を変えてトメアス産業組合にその血は流れている。

ブラジル鐘紡(株)は、1956年11月9日に会社を設立し新工場をサンパウロ市からリオ・デ・ジャネイロ市に向かって90kmのサン・ジョゼ・ドス・カンポス市に建設した。

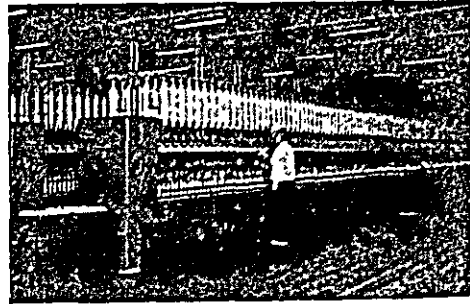
誕生時1万鍾の工場もその間17年を経て現在5万2千鍾となり、さらにピラスンガ、レエメに繰綿工場もっている。

製品の綿糸は、生産の55%を国内向けとし、主としてサンパウロ州サンタ・カタ

リーナ州の各地の織物工場の需要に応じ、45%は北米を主体とした輸出に向けている。同社の北米向け輸出は、1965年に始められ、ブラジルから北米向けへの輸出は不可能であるとの当時の一般通説に敢然と挑戦して為し遂げたものであり、その時の実績を認められて、アメリカがブラジルに与えた綿糸クォータの60%以上を占めており、ブラジルの外貨獲得に多大の協力をしている。

また、同社はその設立時より現地日系コロニアに株式を公開し、コロニアとの共存共栄の思想を具現化した先駆者でもある。つまり1956年同社が有限会社より株式会社に改組の際、同社の株27.3%を公開し、現地コロニアの資本参加を得ることに成功した。

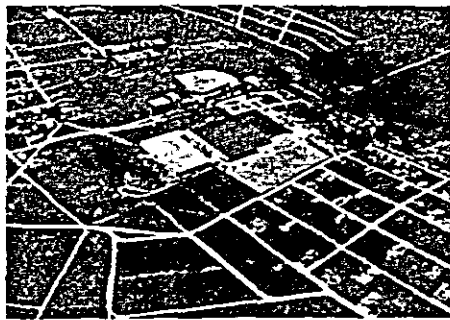
鐘紡本社のブラジルに対する将来構想は雄大であり、目下日本に於いて展開中の繊維、化粧品、食



鐘紡工場紡機

品、薬品、住宅環境事業を5つの柱とした所謂「ペンタゴン」経営を機をみて順次ブラジルにも実施を目指している。現在その第一弾として、パラ州トメアスにKANEBO QUIMICA社による食品事業を経営中であり、第二弾としてジュンディアイ市に織布・加工一貫のKANEBO TEXTIL社の工場を建設中であり、更にパラナ州、コルネリオ・プロコピオ市にKANEBO SEDA社の製糸工場も建設中である。

工場所在地のサン・ジョゼ・ドス・カンポス市は、鐘紡進出当時、人口4万人、ブ



鐘紡工場全景

ラジル企業のみしかなかったが、外国系企業の進出も増大し、人口は24万になり、同市の市長は重要都市の指定を受けて大統領の指名をもって任命することになっているほどである。

企業としては、GENERAL MOTORS(自動車)、JOHNSON AND JOHNSON(薬品)、ERICSON(電器)、ALPARGATA(製靴)、KODAK(写真)、EATON(電器)、PARAIBA、RODOSA、MATARAZZO(繊維)、松下電器、日立電気(電器)、鐘紡等の企業の他に約20社が既にあり、更にブラジル屈指の規模といわれる国営PETROBRAS、多国籍企業のPHILIPS、日系のSONYも進出を決めて整地の段階に入っている。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
FIAÇÃO E TECELAGEM KANEBO DO BRASIL S.A.
- 2 所 在 地
(本社・工場) Colônia Paraíso São José Dos Campos, Est. de São Paulo
- 3 創 立
1956年11月
- 4 資 本 金
払込資本金 CR\$ 19,813,706.00(911,430,476円)
日本鐘紡(72.7%) CR\$ 14,410,872.00(662,900,112円)
- 5 経 営 者
代表取締役 別投 道昌
・ (生産) 麻生 賢哉
・ (営業) 土井 年男
・ (財務) 平野 達夫
- 6 生 産 品 目
綿糸、精綿、製造販売
- 7 従 業 員
902名
- 8 販 売 先
北米及び欧州へ輸出及び国内販売
- 9 工 場 規 模
敷 地 306,594m²
建 物 41,044m²
主要設備 紡績 52,000錠
精綿 3セット

4 ブラジル倉紡(株)

ブラジル南端に位置するリオ・グランデ・ド・スール州の首都ポルト・アレグレ市より国道116号線約20kmの地点にあるサブカイア・ド・スール市に倉紡紡績が進出、純毛糸、合繊糸を生産している。同市のあるリオ・グランデ・ド・スール州はブラジル羊毛の殆んどを生産している(1970年末現在の州内飼育頭数13392900頭で、同年の粗羊毛生産量は30,627,245kgとなっている)。したがって同社は、同社の主原料である羊毛生産地方の真只中に工場を建設したことになる。それだけに倉紡の進出は州政府も非常な熱意を示し、機械設備の無為替輸入許可、免税措置等について特別の配慮を払った。また、郡税(地租、家屋税)も10年間免税の恩典に浴している。

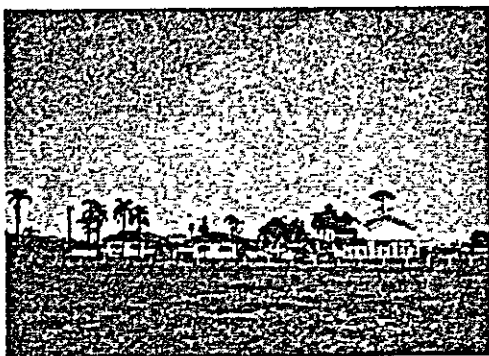


作業中の女子工員

製品の販売先は約30%が輸出(日本、西独その他)、約70%がブラジル国内市場への販売である。国内市場のうち約90%はサンパウロあとはリオ・デ・ジャネイロ、残り10%はリオ・グランデ・ド・スール州となっている。

機械施設は当初の5600鍾から現在12,400鍾で更に近く15,000鍾に増設する計画である。

ブラジル国内には約10社の紡毛工場があるが、同社はその上位を保っている。



従業員宿舎

会 社 概 要

- 1 会 社 名
LANIFÍCIO KURASHIKI DO BRASIL S.A.
- 2 所 在 地
Av. Senador Lucio Bittencourt, 1680, Sapucaia do Sul, Est. do Rio Grande do Sul
- 3 創 立
1957年8月
- 4 資 本 金
CR\$ 10,000,000.00 (460,000,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役 人見 博
常務 馬淵 敏夫
- 6 生 産 品 目
織糸, メリヤス糸, 手編毛糸
- 7 従 業 員
550 名
- 8 主 要 販 売 先
三羊毛織, LADY織物, SANTA BRANCA, SÃO PAULO TEXTIL
- 9 工 場 規 模
敷 地 132,000m²
建 物 14,000m²
紡 機 12,500錠

5 ブラジル東洋紡(株)

東洋紡績は1955年4月、戦後日本からの進出企業第一号としてブラジルにTOYOBO DO BRASILを設立した。以来18年間、ブラジル繊維工業の中心地アメリカーナ市にあって順調に発展を続け、ブラジル繊維業界に貢献するとともに従業員の生活水準の向上に努力してきた。

1972年にはKING S.A. INDUSTRIAS TEXTEISという染色会社の株を100%取得して経営を引継ぎ、新経営陣のもとに綿混糸、ポリエステル加工糸の染色加工場の増設にも着手し、同社も1973年より操業を開始している。

また、この糸染工場の完成と同時に将来有望視されているニットの染色仕上加工場の増設を決定しその工事が進行中である。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
TOYOBO DO BRASIL S.A.
- 2 所 在 地
(本社・工場) Praça Toyobo S/NO. Americana, Est. de São Paulo
(サンパウロ事務所) Rua Conde do Pinhal, 8, 12^º and., São Paulo
- 3 創 立
1955年4月
- 4 資 本 金
CR\$ 25,250,000.00(1,161,500,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役 外山 従道
工 場 長 山口 義明
- 6 従 業 員
1,200 名
- 7 工 場 規 模
紡機 柵綿糸 24,400 錠
合機糸 34,400 錠
織布 織 機 250 台 .

(参 考)

- 1 会 社 名
KING S.A. INDÚSTRIAS TEXTEIS
- 2 所 在 地
Rua Brasilia, 178, Brooklim, São Paulo
- 3 創 立
1963年(1972年経営権取得)
- 4 資 本 金
CR\$ 8,830,000.00(406,180,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役 増田 富三
工 場 長 萩原 忠
- 6 事 業 内 容
浸染, 糸染
- 7 従 業 員
300 名

8 工場規模

土地 2,700m²

建物 8,500m²

設備 浸染：染色整理設備一式

糸染：染色設備一式

6 ブラジル三洋毛織（有）

同社は戦後ブラジルへの企業進出の草分けの一つであり、1957年1月から操業に入っている。特色としては、中小企業の単独進出であり日本の本社長が自ら永住の覚悟で当初から家族とともに移住して現地事業の確立に当たった点であろう。

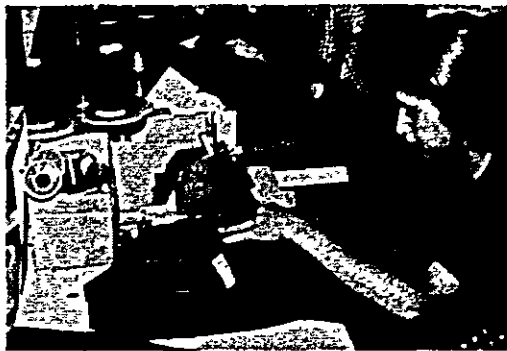
同社の意図するところは多角経営による企業体の安定と発展、企業の国際化への志向である。本業の紳士服地メーカーとしての事業が一応軌道に乗ると、本業の事業拡大の余力を他の方面、即ち現在毛織物メーカーの他に紳士服装店、男子スラックス・シャツの縫製工場、不動産業、牧場経営に注いでいる。



織物部

中でも牧場は1億2千万坪に及ぶ広大な土地を開墾しつつ、造成改良に力を注いでおり、牧牛の数は現在7,000頭であるが年々増大しつつある。

同社が今後重点を置くのは、牧場、縫製、小売店の増設にある。



縫製部

会 社 概 要

- 1 会 社 名
LANIFICÍO SANYO DO BRÁSIL LTDA.
- 2 所 在 地
(事務所) Praça da Liberdade, 61, S-11, São Paulo
(工場) Rua Diamante Preto, 944, São Paulo
(縫製工場) Rua Filisbina Ferreira, 18, São Paulo
(小売部) Av. Liberdade, 144, São Paulo
- 3 創 立
1957年1月
- 4 資 本 金
CR\$ 2,800,000.00(128,800,000円)
- 5 経 営 者
取締役社長 中島重次郎
取締役専務 平松 幸夫
取締役 中島洋一郎
 ' 中島 宏
 ' 中島佑一郎
- 6 生 産 品 目
紳士服地
男子用スラックス、シャツ
- 7 従 業 員
194名
- 8 主 要 取 引 先
RIO, SÃO PAULOの大手既製服、会社及び全ブラジルの小売店
- 9 工 場 規 模
敷 地 1,800m²
建 物 2,100m²
縫 機 60台
ミシン 50台
その他 8台

7 ブラジル・ユニチカ(有)

サンパウロ市より北西約130kmの地点にあるアメリカーナ市には日系紡績企業が2社ある。ブラジル東洋紡とこのブラジル・ユニチカである。

アメリカーナ市は全ブラジル織機の10%を保有する織布業の唯一の中心地であり、工業誘致政策により、機械・タイヤ・金属・合機等の工業発展で工業生産地として伸びつつある。特に繊維業は大小合わせて約500社の工場があり活況を呈している。

ユニチカは現在、綿糸生産一本に絞り、紡績機設備25,400錠、月産300トンの綿糸を生産しているが、1974年末には32,000錠、月産360トンに増設完了の予定である。

製品は70%がサンパウロ市に向けられ、地元アメリカーナ市に15%、その他15%が輸出されている。

会 社 概 要

1 会 社 名

UNITIKA DO BRASIL INDÚSTRIA TEXTIL LTDA.

2 所 在 地

(本社及び工場) Via Anhanguera Km - 125, Americana, Est. de São Paulo

(サンパウロ事務所) Rua Senador Paulo Egidio, 72, 10^o and., São Paulo

3 創 立

1958年6月

4 資 本 金

CR\$ 13,000,000.00 (598,000,000円)

5 経 営 者

代表取締役 青山 清三

取締役 品川 頼一

工場長 片野 堯

6 生 産 品 目

綿糸

7 従 業 員

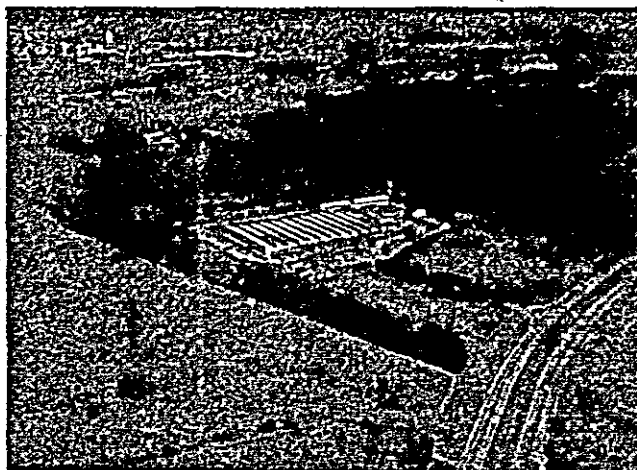
400名

8 工 場 規 模

敷地 200,000m²

建物 13,000m²

紡機 25,400錠

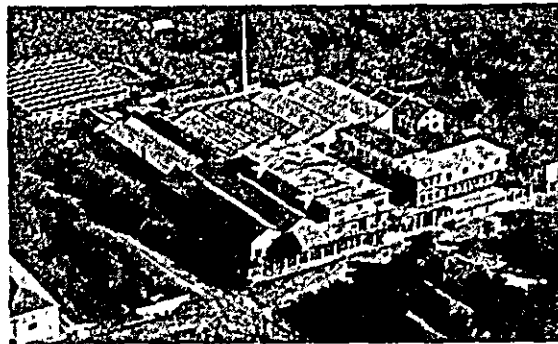


ブラジル・ユニチカ(有)工場全景

8 ブラタク製糸(株)

ブラジル在住日本人の工業面への進出企業としては古い歴史をもつものの一つである。

当時、日本からの移住者のなかには養蚕経験者が多かったこともあり、集団移住地入殖者に対し養蚕奨励が行なわれ、ブラジル拓殖組合では小規模な製糸工場を創設したが1941年移住者が共同出資して買収、有限会社として発足させたものである。



ブラタク製糸(株)全景

(1) 業界一の実績と歴史

同社の生産高は年々順調な伸長をみせ、32年間に及ぶ社歴とともに業界第1位を誇っている。

製品の20%はスイス、アメリカ、60%は日本に輸出し20%が国内消費でサンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、ペトロポリスの各方面の織物工場に送られ、高級婦人服・下着・縫糸・ネクタイ等の原糸となっている。

戦前の養蚕農家はほとんど日系であったが今日では完全に逆転しブラジル人の方が多く益々増加する傾向にあるが、地方別養蚕農家数の推定は別表のとおりである。

地方別養蚕農家数

地 方	農 家 数	日 系 の 数	ブラ拓に納品する農家数
Bauru Duartina	700	150	300
Galia	350	40	280
Bastos	85	80	85
Nordeste	150	30	150
Parana	150	120	150
そ の 他	400	100	235
計	1,835	520	1,200

(2) 養蚕から工場生産まで一貫して合理化を推進

同社の従業員850名のうち、生糸生産技術の研究・開発・指導を担当する社員は日系人であり、日本の高校・大学で専門教育を受けた技術者が多数これに従事している。

しかも、これらの技術者は日本の工場技術者のように工場生産技術の改善・管理ばかりでなく、養蚕農家の指導育成にもあたり蚕種製造→養蚕→生糸までを一貫して増産、

養蚕農家・生糸加工工場（企業・従業員）・消費者の三者の共存共栄をモットーとして経営にあたっている。

同社では従業員確保とその生活安定のために、100戸以上の社員住宅を建設し親子ぐるみ就労できる態勢をしている。



工場内部

会社概要

1 会社名

FIAÇÃO DE SEDE BRATAC S.A.

2 所在地

(本社) Rua Roberto Simonsen, 62, 9^o and., São Paulo

(工場) Rua Gal. Osório, 700, Bastos, Est. de São Paulo

3 創立

1941年4月

4 資本金

CR\$ 11,000,000.00 (506,000,000円) (本年更にCr\$ 800,000.00増資計画)

5 経営者

代表取締役 天野 賢治

専務 谷口 章

技術担当 谷内 利男

取締役 崎田 春一

6 生 産 品 目

生 糸

7 従 業 員

日系 520 名, ブラジル人 330 名, 計 850 名

8 工 場 規 模

敷 地 20,000m²

建 物 10,000m²

耕 地 240アルケール (茶畑 160~170 アルケール, その他ユ-カリ畑, 20 家族が耕作担
当)

設 備 製糸工場, 撚糸工場, 修理工場, 養蚕場, 木工工場,

家具・装備品製造業

前田木工所(有)

サンパウロには日系の木工所が30～50社あるといわれているが、同社はその中でも、注文家具、室内装飾、農機具部品等のメーカーとして特異な存在となっている。

サンパウロとサンベルナド・デ・カンポの両市には、ユダヤ系の家具メーカーが多数あって小資本の日系人メーカーの入り込む余地はなかなかない状態にあるが、日系木工業者は日本人の特性である器用さを活用し注文家具メーカーとして応接セット、台所家具、寝室家具などの製作に従事、成果をあげている。

進出企業、新規事務所又は工場の開設に伴う建築ブームはブラジル躍進を裏付けるものがあるが、同社では日本進出企業の室内装飾、間仕切等に関する注文を一手に引受けている状況である。

特に進況著しいYAOHANデパートの内装は同社によるものである。

また、ブラジル・サンヨーのラジオスピーカーケースも受注したが、日本企業の現地進出、その後の事業拡張とともに同社の果たす役割は今後も大きい。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
MARCENARIA MAEDA LTDA.
- 2 所 在 地
Rua Dos Estudantes, 519, Liberdade, São Paulo
- 3 創 設 1963年4月
- 4 資 本 金 CR\$ 70,000,000(3,220,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役 前田 保
専務取締役 高井義信
- 6 生 産 品 目 家具製造, 室内装飾, 各種木工
- 7 月 商 CR\$ 200,000.00(9,200,000円)
- 8 従 業 員 24名
- 9 工 場 規 模
敷 地 540m²
建 物 360m²
木工機械 25台

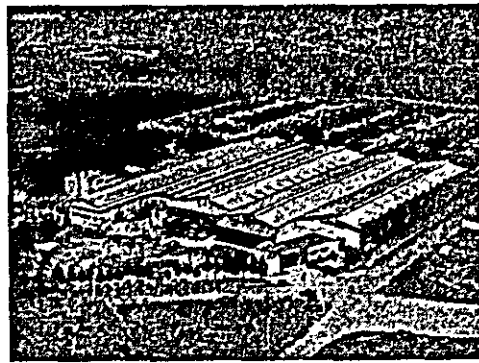
パルプ・紙，紙加工製造業

1 パペロッキ商工(株)

同社は創立10周年を迎えて，新しく総合ダンボール工場としての設備と態勢を整えるとともに，将来原料の確保を目的に1970年に姉妹会社「レフロスタドラ"OK"」を発足させた。カステロ・ブランコ国道沿いにアメリカ松の植林を開始。現在では第一農場1200アルケールから第二農場の450アルケールを開拓中である。

いずれ1万アルケールの自己植林を足場としてパルプ工場の建設を目標にしている。

この植林事業と並行して，1973年度の第1期計画として日産100トンの抄紙機の増設案も進行中である。そのため，株式を公開して同年中に資本金を850万クルセイロスに増額することを決定済みです。



「パペロッキ商工」工場全景

会 社 概 要

1 会 社 名

PAPELOK S.A. IND.E COM.

2 所 在 地

(事務所) Rua Don Rodo, 34(Ponte Pequeno), São Paulo

(本社,工場) Rua Das Murures, São Miguel Paulista Est.de São Paulo

3 創 立 1963年12月

4 資 本 金 CR\$ 5,000,000.00(230,000,000円)

5 経 営 者

社 長 田中義数

副 社 長 宮本邦弘

専 務 森 清

取 締 役 田中 進

オズワルド・ラザレチ

6 生 産 品 目

ダンボール函板 月産 1,800トン

7 月平均売上高 CR\$ 320000000(147200000円)

8 従業員事務所 30名

工場 300名

9 主要取引先

SANBRA, ARNO, AVON, RODHIA, MARTINI, ORNIEX, CERAMICA, SÃO
CAETANO

10 工場規模

敷地 40,000 m²

建物 15,000 m²

化 学 工 業

1 大河内製薬(株)

(1) 南米唯一のジアスターゼメーカー

同社の主製品であるジアスターゼは大河内製薬の創立者故大河内辰夫氏が、ジアスターゼの発見者として有名な故高峰譲吉博士にアメリカで師事、その後ブラジルに渡って40年間にわたる永年の研究の末、製造・生産に成功したものである。

現在、この種の工場としては南米唯一のものである。総合酵素剤としてのコージ菌よりのジアスターゼは発見以来半世紀を経過した今日もなお、その特異性の故に総合消化剤の薬として声価を保っている。

同社はジアスターゼを主原料として家庭常備薬、医薬用ならびに工業用及び養鶏飼料補強剤を製造してきたが、更にプロテアーゼ、セルラーゼ、ペクチナーゼを開発した。また、各種酵素の総合的製造に主眼をおくほか、ブラジルの豊富な原料から化学薬品を製造すべくその開発に鋭意研究を続けている。

同社で生産している家庭常備薬は奥地農家には常備薬として愛用されているほか、目薬、虫下しセメンエン、解熱剤ネットール、下痢剤アンチジアレアなどが市販されている。

医薬の精製ジアスターゼは、リオ・デ・ジャネイロとサンパウロの各製薬会社に販売されている。工業用原料としてのジアスターゼは織物工業の抜糊剤グルコースの製造に、製パン製薬用としてはブ



大河内製薬本社

ロテアーゼとともに使用され、国内はもとよりイタリア、スペイン、チリーに輸出されている。

また、同社の養鶏飼料補強剤はヒナの育成、産卵の向上、産卵期の延長、強健な母体の維持に効果がみとめられ徐々に販売を拡張しつつあるが、養鶏界の要求に応じビタミン、アミノ酸、ミネラルに加えて各種酵素剤を配合した総合補強剤スーベル・アミノサンとスーベル・アミポンを開発した。家畜飼料部の研究室では更に各種酵素と未知成長因子を主原料とする酵素剤の



製パン、製薬会社への技術指導

開発にあたっている。

(2) 近く工場を移転拡張

サンパウロ市近郊リベロン・ピーレスに111,000㎡を工場用地として購入、近く新工場を建設し移転する計画である。新鮮な空気と良質な水の確保がサンパウロ市内では困難となりつつあるからである。新工場への移転により同社が生産及び開発両面で飛躍的に発展するであろうし、牛豚の飼育実験にも便を得、家畜飼料部はブラジルの畜産界に貢献することが期待される。

会 社 概 要

1 会 社 名

LABORATORIO OKOCHI LTDA.

2 所 在 地

Rua Climaco Barbosa, 179, São Paulo

3 創 立 1931年6月

4 資 本 金 約CR\$ 1,000,000.00(46,000,000円)

5 経 営 者

代表取締役 長沢好実

経理担当取締役 長沢 広

販売担当取締役 遠山越次

6 生 産 品 目

① 家庭常備薬 ポリビタミンナ、ポリジアスターゼ、ジアスタミーナ、ポーエストスカー
ル、サロメチール、ピシノール、エンブラストロ

② 医薬工業用原料

③ 養殖用飼料補強剤 アミノサン、アミボン、AD₃、カール、SMB

7 従 業 員 56名

8 工 場 規 模

敷 地 2,000 ㎡

建 物 2,000 ㎡

2 サンスイ・プラスチック工業(株)

同社は1966年、特殊ホース類専門の製造工場として、資本金6万クルセイロスで設立され、1968年1月日本より機械導入を行なって操業を開始した。

ブラジルでは、農業機械については、世界の大手メーカーが早くから進出しほとんどが国産化されているが、機械の補助設備であるホース類はほとんどが輸入に頼っていた。同社は、「このホースを

自分達の手で」という農業者の出資を主体として発足したものである。

現在、同社の生産品目は、噴霧機用高圧ホース、送水ホース及びタウパウリン製の倉庫、エンセラードそれにコンテナである。噴霧機用消毒ホースは継続的な技術の向上により、耐高圧性と弾力性というホースとしての最も重要な要件を満たし、特に、過去2～3年で生産総量10万メートルであったものが、月産40～50万メートルとなっている。これは、ブラジルの主要産物であるコーヒーのサビ病対策上不可欠のものであり、今後もその需要は伸びていくものと思われる。

消毒用ホース、送水ホース、タウパウリン等の製品はブラジル全土に広がる500の販売店を通じ国内に販売されているが、初田工業、JACTO、コチア産菜組合、南ブラジル産菜組合等同社の大きな需要者には直接販売のシステムをとっている。

ブラジルにおけるプラスチック工業はまだ創始期を脱していないが、それだけに同社の役割は一層大きく、競争相手としてKELSON, VNLEAN, PLANIVIL, HANSEN等があるが、同社の消毒ホース、送水ホースは独占に近いといわれている。

ブラジルで強い地位を築きつつある同社では、日本、ドイツに劣らぬ製品を生産することが現在の課題になっている。常に最新の機械と技術を入れるべく同社は日本及びドイツに人材の派遣も行なっている。

なお、1966年6万クルゼイロスで発足した同社の現在資本金は330万クルゼイロスであり、1973年度中に更に、120万クルゼイロスの増資をして新規に販売出張所を設ける計画がある。

会 社 概 要

1 会 社 名

SANSUY S.A.-INDÚSTRIA DE PLÁSTICOS

2 所 在 地

(本社) Rua Belchior de Pontes, 162/184, Butantã, Est. de São Paulo

(工場) Rodovia Regis Bittencourt, Km-26, Embú, Est. de São Paulo

3 創 立 1966年3月

4 資 本 金 CR\$ 3,300,000.00(151,800,000円)

5 経 営 者

社 長 山本辰雄

専 務 所 助信

財務理事 横山靖夫

常 務 久胡斗志雄

技術理事 本田 剛

工程理事 名和 勇

営業理事 成戸義則

6 月 産 売 上 高 CR\$ 3,200,000.00~3,300,000.00(147,200,000円~151,800,000円)

7 従 業 員 事務所 50名

工場 280名

8 販 売 先

初田工業，ジャクト農機，コチア産業組合，南ブラジル産業組合

9 工 場 規 模

機 械 25 台 (総価格 CR\$5,000,000.00)

大部分は日本よりの輸入機械

3 ブラジルのイハラ化学工業 (株)

(1) 沿 革

旧社名三井・イハラ農薬株式会社。1972年7月，クミアイ化学工業(株) (本社東京，社長望月喜多氏，資本金12億6千万円，年間売上240億円) (前身イハラ農薬) が同社の筆頭株主となってから社名をブラジルのイハラ工業(株) (略称イハラプラス) と変更した。

商標は従来通り，(IHARA)印を継続使用している。

1972年11月増資して資本金は6314,330クルゼイロスとなった。出資会社としては，クミアイ化学工業(株)，住友化学工業(株)，武田薬品工業(株)，東邦化学工業(株)，日本曹達(株)の日本側5社と，ブラジルの側よりCODAI (コチア農産加工開発株式会社) がある。

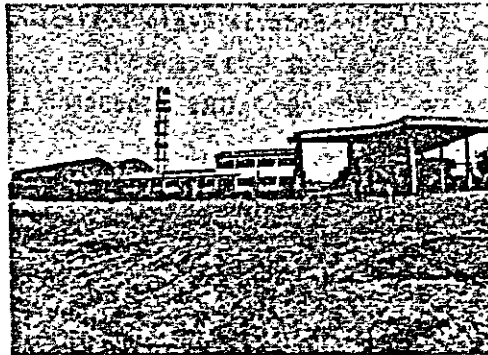
同社は，日系同業者に先駆けて1965年ブラジルに進出した。

(2) 特 色

日本の農薬技術及び製品の品質は世界最高と定評があるが，同社はその技術と品質をブラジルの日系農家のみならず広く全農家に提供している。

上述の出資会社の供給する商品も同社を通じてブラジルに提供されている。

クミアイ化学の除草剤「サターン」，稻熱病防除剤「キタジン」，住友化学の低毒性殺虫剤「スミチオン」 「液体肥料」日本曹達の殺菌剤「ミルベックス」，殺菌剤「セルコピン」，武田薬品の殺虫剤「パダン」等のほか，ダイヤモンド・シャムロック社 (アメリカ) の殺菌剤「ダコニール」等，世界の一流農薬を豊富に取揃えているなどブラジルへ進出している欧米の化学工業各社も遠く及ばぬところと目されている。



工場 全 景

会 社 概 要

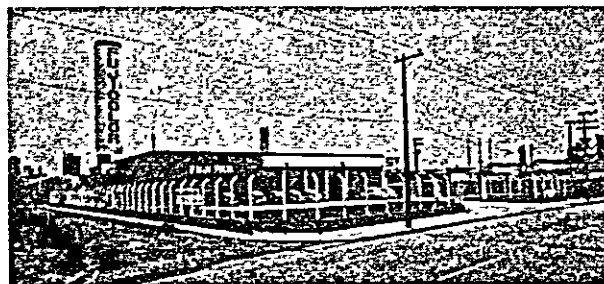
- 1 会 社 名
IHARABRAS S.A. INDÚSTRIAS QUÍMICAS
- 2 所 在 地
Av. Henry Ford, 673, Osasco, Est. de São Paulo
- 3 創 立 1965年4月
- 4 資 本 金 CR\$ 6,314,330.00(290,459,180円)
- 5 経 営 者
取締役社長 西久保美彰
専務取締役 望月引久
取 締 役 谷垣皓美
" 宮本邦弘
" 村上寛太郎 他
- 6 生 産 品 目 農薬, 肥料, 動物薬
- 7 月平均売上高 CR\$ 2,000,000.00(92,000,000円)
- 8 従 業 員 95名
- 9 販 売 先 コチア産業組合 他
- 10 工 場 規 模
敷 地 48,520 m²
建 物 7,000 m²

4 ブラジル富士写真フィルム(有)

1958年8月,日本の総合映像産業である富士写真フィルム(株)のブラジル現地法人として富士フィルム製品を輸入・卸売を目的に発足した。アマチュア写真材料を中心に市場に浸透し,現在ではブラジル写真市場の20%のシェアを占めるに至っている。

また,カラー写真の発展及びレベルアップのために最近超近代設備を持つカラー現像所を設立した。

近い将来には,インダストリアル写真材料(レントゲンフィルム,グラフィックアーツフィルム)を中心としてブラジルにおける加工製造を行なうべく準備を進めている。



工 場 全 景

会 社 概 要

- 1 会 社 名
FUJI PHOTO FILM DO BRASIL LTDA.
- 2 所 在 地
(営業本所) Rua Major Diogo, 128, São Paulo
(営業支所) Rua São Cristovão, 777, Rio de Janeiro
(現像所) Av. Das Nações Unidas, 6799, São Paulo
- 3 創 立 1958年8月
- 4 資 本 金 CR\$ 4,992,888.00(229,672,848円)
- 5 経 営 者 代表者 白崎武男
- 6 事 業 内 容
写真材料・光学機器の輸入卸販売, カラー現像・プリントサービス
- 7 月平均売上高 CR\$ 3,000,000.00(138,000,000円)
- 8 従 業 員
サンパウロ営業所 100名
リオ営業所 20名
現像所 57名
- 9 主要取引先 写真材料店
- 10 ブランド名
FUJI FILM(企業ブランド)
FUJI COLOR(カラーフィルム)
FUJI CHROME(カラーフィルム)
FUJICA(カメラ, 映写機等光機製品)
NEOPAN(アマチュア用白黒フィルム)
- 11 工場規模
現像所敷地 3,500m²
建坪 1,000m²

5 ブラジル北興化学農畜産工業(有)

1968年12月北興化学工業㈱, トーメン㈱, 野村貿易㈱の3社の出資により日本の北興化学工業㈱製品, アメリカのCHEVRON製品等農薬の販売を主目的として設立された。

しかし, 単に農薬の販売をするのではなく, 技術指導・普及を中心とした技術販売を行なっている。従って従業員数もセールスマン2名に対し農薬技師1名の割合となっており, これはブラジルの他の農薬販売会社には類をみない。

同社の特長はあくまでも農業技術にあるので農業を基礎としてその上に計画を立てて行く方針である。将来は、現在の農業を1つの柱として、第2に動物薬、更に農場経営と、三角経営を計画している。

また農業経営では既にコーヒー植樹60000本の計画をたて、1973年よりミナス州で、初年度200,000本の植樹作業を開始している。

会 社 概 要

1 会 社 名

HOKKO DO BRASIL INDÚSTRIA QUÍMICA E AGRO PECUÁRIA LTDA.

2 所 在 地

(本 社) Rua Apeninos, 970, São Paulo

(営業所) 1. Rua Voluntários da Pátria, 527, S/10, Porto Alegre, Est de Rio Grande do Sul

2. Rua 10, 46, Santa Helena, Est. de, Goiás

(倉 庫) Rua Benedito Guedes de Oliveira 39, São Paulo

(農 場) Araxá, Est. de Minas Gerais

3 創 立 1968年12月

4 資 本 金 CR\$ 1,500,000,000(69,000,000円)

5 経 営 者

社長(非常勤) 西村 進(北興化学工業株式会社社長)

現 地 代 表 阪野政次郎

・ 副代表 猪生陽一

6 事 業 内 容

① 農 業

HOKKO製品 カスミン(イモチ剤)

CHEVRON製品 Difolatan(殺虫剤), Hamidop(殺虫剤)

その他の製品 剤剤

上記各種農薬の販売

② 農場経営 Café園の経営

7 月平均売上高 CR\$1,200,000,000(55,200,000円)(農業のみ)

8 従 業 員

本 社 38名

営業所 5名

倉 庫 3名

農 場 3名

9 主要取引先

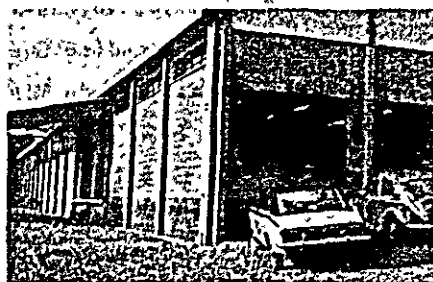
- ① コチア産業組合
- ② 南ブラジル中央産業組合
- ③ BLEMCO IMP. E EXP. LTDA
- ④ AGROCERES
- ⑤ 大農場主への消費者直売

6 ファテック商工(株)

1966年日系養鶏家への技術サービス及び新製品の導入を目的として資本金15,000クルセイロスで設立、ビタミン、プレミックス、消毒剤等を中心にサンパウロ州を市場として操業を開始した。

1968年より日本各社のブラジル代理店として飼料添加剤、消毒剤等の輸入を行なった。なかでも上野製菓のフラミゾール、東邦化学のオパノール、日本天然ガス鉱業の沃素カルシウムは日本で開発された新製品として当地においても確固たる地盤を持つに至った。

1970年養鶏産業の全国的な発展を予測してマナウス、ベレーン、サンルイス、フォルタレーザ、レシーフェ、クリチーバ、ペロオリゾンデ、ポルトアレグレの各市に代理店を設立し全国的な販売網の確立に第1歩を記した。

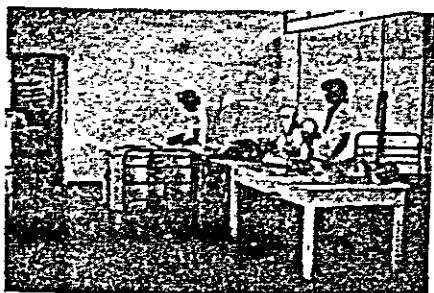


工場外景

1971年製品の需要増大に答えるべくサンパウロ市近郊ゾットラ街道26 Kmのアルジャ市に、土地42,000㎡を購入し、プレミックスブレンド工場10,000㎡を建設開始した。

1972年9月、工場の操業に合わせて日本生物科学研究所(日生研)の動物用ワクチンの輸入を試験的に行なった。

1973年ワクチンの本格的な輸入を開始しており、また、将来当地におけるワクチン製造に関しての調査も開始している。さらに食品飼料分析センターの操業と動物病理センターの開設も行なっている。



工場内部

将来の計画として、1975年には大家畜を含めて家畜飼育センター、SPF動物飼育センター、家畜衛生研究所等のプロジェクトをもっている。また、ブラジルの畜産業の将来を考え単に製品を販売するのみにとどまらず、技術というソフトウェアも合わせたユニークな企業への発展を心掛けている。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
INDÚSTRIA, COMÉRCIO E IMPORTAÇÃO FATEC LTDA.
- 2 所 在 地
(本 社) Rua Dr. Rodrigo Silva, 70, 7^a and, CJ. 74, São Paulo
(工 場) Bairro do Portão S/N^o Arujá, Est. de São Paulo
- 3 創 立 1966年3月
- 4 資 本 金 CR\$ 520,000.00(23,920,000円)
- 5 経 営 者 島野俊彌 但馬康男
- 6 生 産 品 目 動物用医薬品器具機械の製造輸入販売
ビタミンプレミックス 20,000Kg
飼料添加剤 20,000Kg
ワクチン 620,000ドース
消毒薬 7,000Kg
- 7 月平均売上高 CR\$ 800,000.00(36,800,000円)
- 8 従 業 員
事務員 工 員
本 社 7 名
工 場 3 名 12 名
- 9 販 売 先
コチア産業組合, 南ブラジル産業組合, サンパウロ中央会, プリーナ・ド・ブラジル,
アンダーソン・フライトン, セントラルソーヤ, ラッソン・アニヤンゲーラ,
カージル・ド・ブラジル, ソシル・アグロ・ベリアリア, 伊藤種鶏場 etc.
- 10 工 場 規 模
① 敷 地 44,091m²
② 工 場 建 物 1,235m²
③ 機 械 17台
④ 車 輛 7台
⑤ 現在建設中の工場 420m²

7 三井肥料(株)

(1) ブラジル農業への三大資材の一つ, 肥料の純国産化

三井肥料は, サンパウロから約 300 Km, ブラジルにはめずらしい温泉のある風光明媚の観光地
ポッサス デ カルダス市郊外に, 工場を設立, 日本のノウハウによる焙成磷肥の生産を目標に, 1968

年5月年産3万tの規模で創業した。

この肥料工場は、ブラジル政府の要望により、三井系各社で農業重要資材（肥料、機械、農薬、その他）を国産化し、ブラジルの農業に貢献しようとする計画の一つとして建設されたものである。

原料は総て国産のもので、附近のアラーシャ地区に所出する“リン灰石”とバロス地区にあるニッケル工場の“ニッケル鉍残滓”を原料とし、これを電炉で加熱熔解、その後冷水で急激に冷却し製品とする。

大要は図にある通りである。

同工場は、上記二大原料に恵まれていることと、電力源をミナスジェライス州政府の協力で、高圧13万8千Vを工場まで無料で導入出来た事、さらに水資源が豊富である等、工場立地として自然的、経済的に最適条件を有している。

5年余の普及活動の結果、当初年産3万tで始まった工場は、1973年末現在、年産9万tに拡大されて居り、近く12万tにする計画である。

熔解の生産と並行し、1969年8月よりサンパウロ州の首都に於て、微量要素入り配合肥料の生産も始め、1973年末現在年産11万tの工場を持つに至る。

又、現地資本との合併により、年産9万tの化成肥料工場を、1974年10月完成目標に建設中である。

(2) 販売は日系に始まり今ではブラジル人農業者に広く浸透

熔解の普及販売を主目的とする三井肥料の販売は、創業当時日系に85%を供給していたが、1973年末現在、日系30%、ブラジル人系70%と、ブラジル人農業者の需要を喚起し、今後一層ブラジル人のシェアは増大する傾向にある。特にブラジルの国土が最も必要とするタイプの肥料が熔解であり、今後の需要増加は益々期待される。

会 社 概 要

1 会 社 名

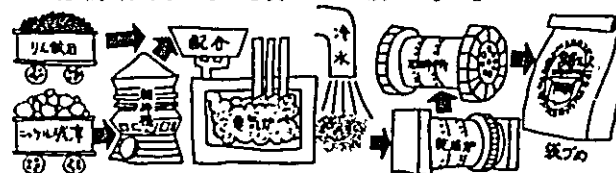
FERTILIZANTES MITSUI S.A. INDÚSTRIA E COMÉRCIO

2 所 在 地

(本社、YOORINI工場) Estação Bauxita Poços de Caldas, Est. de Minas Gerais

(注)

原料はりん鉍石とニッケル鉍残滓で、これをくたいて混合し、開放式電気炉に入れて1,500°Cの高熱で熔融した後、これを冷水で急冷し、さらに乾燥、粉砕したものを袋につめて製品とする。



Yoorin の製造過程



工場全景



工場内部

(営業中央事務所) Av. Paulista, 2073, 16^o and, Horsa II, EDF. Conjunto Nacional, São Paulo

(配合肥料工場) Av. Juguare, 1263, São Paulo

- 3 創 立 1966年4月
- 4 資 本 金 CR\$ 14,205,274.00 (653,442,604円)
- 5 経 営 者
代表取締役 末吉賢人
総務担当取締役 中城正憲
営業担当取締役 岩崎秀雄
工 場 長 宮沢就孟
- 6 生 産 品 目 熔成磷肥 (YOORIN), 配合肥料および日本の特殊肥料の輸入販売
- 7 従 業 員 350名
- 8 工 場 規 模
- ① 本 社 工 場 敷 地 195,975m²
建 物 5,600m²
設 備 3,000 KVA電炉 3基
3,000 KVA~5,000 KVAトランス 5基
- ② 配 合 工 場 敷 地 16,000 m²
建 物 10,000 m²
設 備 年産11万トン配合設備一式

窯 業

ブラジル特殊陶業(株)

1959年8月、スパークプラグ及び特殊磁器では世界的なメーカーである名古屋市の日本特殊陶業(株)が、当時モザイク・タイルを製造していた現地法人会社モジ製陶(株)を買収して社名をブラジル特殊陶業と改め、タイルの他にNGKの商標でスパークプラグの生産を開始したのが同社の始まりである。

現在ではこの他にも工業用特殊磁器の生産も行なっている。工場はサンパウロ市より東方50Kmのモジ・ダス・クルーゼス市にあるが、工場敷地も狭くなり最近の需要にも応じきれなくなったため、モジ市より9 Km離れた場所に60万Km²の土地を確保し、プラグ、タイルとともに大幅増産の計画中である。



NGK 本社・工場

同社の製品はスパークプラグ、建築用モザイク・タイルや、工業用特殊製品があり、更に、日本特殊陶業(株)の生産である特殊プラグ、セラミックチップ、サーメットチップ、圧電素子等の輸入販売も行なっている。



プラグ製造

会 社 概 要

1 会 社 名

CERÂMICA E VELAS DE IGNIÇÃO NGK DO BRASIL

2 所 在 地

(本社-工場) Rua Prof. Flaviano de Mello 434-Mogi das Cruzes,
Est. de São Paulo

(サンパウロ事務所)

R. Humaita, 476, São Paulo

3 創 立 1959年8月
4 資 本 金 CR\$ 16,500,000.00(759,000,000円)

5 経 営 者
取締役社長 佐伯 実
業務取締役 小林 裕太
 ' 岡林 鐘雄
 ' 成富 武典
取 締 役 小林 朗
 ' 富永 恒人
 ' 永田 陸郎

6 生 産 品 目
スーパープラグ 月産 2,000,000個
建築用モザイクタイル 月産 30,000m²
工業用特殊製品 月産 7,000Kg

7 従 業 員
ブラジル系 506名
日系(2世) 171名
日系(1世) 144名
派遣社員 4名
計 825名

8 工 場 規 模
(1) 敷 地 31,800m²
(2) 建 物 15,800m²

鉄 鋼 業

1 ミナス・ジェライス製鉄所(株)=ウジ・ミナス製鉄所=

ウジ・ミナス製鉄所は、日伯経済協力を如実に示している日伯合併事業であり、日本としても第二次大戦後初めての海外に対する大規模投資で、日本の一流メーカーが参加した日本ウジ・ミナス株式会社を設立し事業完遂体勢を整えて実行に移している。

1957年6月3日、日伯合併製鉄会社設立に関する協定が調印され、1958年1月25日から諸建設の活動が開始され、1965年10月、当初計画の鋼塊年産50万トン設備が完成、更に第二次計画年産100万トンも達成され、現在は年産140万トンの生産態勢に入っている。

1968年度以降黒字に転じ、昨年度は、前々年度に引続き約80億円の純利益を計上、鉄材はすでに海を越えて海外市場にまで及んでいる。

同社の建設ならびに操業のため日本から派遣されていた技術者、職員は殆んど帰国し、現在は新日本製鉄から6名の技術者が6か月交代で駐在しているだけで、すべての維持管理はブラジル人の手によって運営されている。

同社の厚鋼板は造船・ボイラー・重機械・橋梁等に、薄鋼板は各種タンク・容器・車両・一般構造物・製鋼等に活用され、国内市場ばかりでなく、アメリカ・日本・アルゼンチン・ウルグァイ・ベネズエラ等の諸国にも輸出されているが、更に国家鉄鋼計画の一環として年間鋼塊生産能力を240万tに増強する為、拡張計画を実施しており、75年頃に完了する予定である。

東北ブラジル・北ブラジル方面の工業開発も着々と推進されつつある同国の基幹産業として、日本の優れた技術と最新の設備そして合理化された経営と洗練された従業員のパワーによって、同社は南米における最も優れた製鉄所として成長・発展するであろう。

会 社 概 要

1 会 社 名

USINAS SIDERURGICAS DE MINAS GERAIS S.A. USIMINAS

2 所 在 地

(本 社) Rua Dos Timbiras, 2349, Belo Horizonte, Est. de Minas Gerais

(製 鉄 所) Município de Ipatinga, Est. de Minas Gerais

(サンパウロ事務所) Av. Paulista, 2073, Edifício Horsa II, 6^º and, São Paulo

(リオ事務所) Rua Da Candelaria, 60, 7^ª and, Rio de Janeiro, Est. da Guanabara

3 創 立 1958年1月

4 資 本 金	CR\$ 1,208,880,000.00 (55,608,480,000円)
5 経 営 者	
代表取締役	AMARO LANARI JUNIOR
取締役会事務局長	高橋時中
取 締 役	LUIZ VERANO
	ADEMAR DE CARVALHO BARBOSA
	CARLOS VAZ DE MELO MEGALE
	JOSÉ BARROS COTA
6 生 産 品 目	鉄鉄, 厚鋼板, 薄鋼板
7 従 業 員	6,000名
8 株 主	
	ブラジル経済開発銀行 73.13%
	日本ウジミナス株式会社 18.73%
	ブラジル連邦政府 6.47%
	リオ・ドーセ株式会社 1.42%
	そ の 他 0.25%

2 宿屋 鋳 物 (株)

1936年、埼玉県出身移住者宿屋忠八氏は、清七氏、三郎氏と共同して宿屋兄弟商會を設立し、東洋製作所として事業を始めたが、経営の合理化、生産ラインの能率化を図るため、1952年に同所の中心事業であった鋳物部が独立、宿屋鋳物物が誕生した。

(1) ダクタイルロール・メーカーとして異色を發揮

日系コロニアの経営する企業としては創立1936年であるからもっとも古く、すでに33年の歴史を有している。

普通鋳物工場からの新規事項を企画して過去10年間にわたって研究・試作を繰返していた、ダクタイルロールが1968年に完成した。

ダクタイルロールは、伸鉄工場、製紙工場、ゴム工場、製粉工場、製鉄工場などで多目的に使用されているが、ブラジルでは、AÇO VILLARES社があるのみで相当量を輸入に頼っている。

同社では競争の多い普通鋳物工場から特色ある専門製品を開発する計画をたて、その第1目標に困難なロール技術の開発に取組んだ。そのため社長の宿屋忠八氏自身東京の日本ロール、大谷ロールの工場を視察する一方、長男の智昌氏に新潟鉄工・関東特殊製鋼で1年間実地研修を受けさせた。智昌氏は同社の鋳造生産技術の指導にあっているが、ダクタイルロールの完成も氏に負うところが大きい。

このダクタイルロール鋳物の特性は硬度が特殊鋼に近く、耐熱性・耐酸性に優れているところから

既述のとおり、各種工場の生産機械の中核として活用されている。

(2) 第2工場を建設中

ブラジル人は新しいものにはすぐに飛びつかない性質がある。同社がダクティルロール鋳物を完成させた当初もなかなか商談に応じてくれなかった。

しかし、現在では、他の中南米諸国(アルゼンチン、ウルグァイ、ボリビア)に輸出するまでになっている。ブラジルのロールに対する潜在需要は大きく、特に、建築材料、工作機械資材としての伸鉄鋼材の需要は将来性がある。同社は伸びる需要に対応すべく、目下、サンパウロ市より80 Kmのアチバイア市近郊に第2工場を建設中である。

この工場の目標は、月産500トン、従業員500人である。現在の全鋳造能力は月産200トン(ロールが40%、その他トラクター部品を主体とするダクティル鋳鉄、工作機械のベット、ピストン部品用の強靱鋳鉄)である。

会 社 概 要

1 会 社 名

FUNDIÇÃO YADOYA S.A.

2 所 在 地

Rua Bartolomeu do Canto, 58, Freguesia do Ó, São Paulo

3 創 立 1952年

4 資 本 金 CR\$ 650,000.00(29,900,000円)

5 経 営 者

代表取締役 宿屋清七

専務取締役 宿屋昭夫

取締役 宿屋義信

6 生 産 品 目

鋳 鉄 品 月産 150トン

ボール盤(35mm~60mm) 月産 60台

7 月平均売上高 CR\$ 600,000.00(27,600,000円)

8 従 業 員 130名

鋳物工場 77名

機械工場 40名

事務所 13名

9 販 売 先

◦XERVITT INDÚSTRIA DE MÁQUINAS LTDA. (自動旋盤)

◦MECÂNICA NATAL S.A. (万能フライス)

◦SEPARADOR ALFA LAVAR S.A. (遠心分離機)

◦HAUPT SÃO PAULO S.A. (工業用ポンプ)

◦BARBER GREENE DO BRASIL IND.E COM. S.A. (建設機械)

◦SOMA-SOROCABANA DE MATERIAIS S.A. (鉄道車輛)

◦ALSTHON DO BRASIL S.A. (バルブ, コック)

10 工場規模

- ① 敷地 2,200m²
- ② 建物 2,200m²
- ③ 新工場用敷地 125,000m²
- ④ 設備
 - キューボラ (4トン, 5トン) 2基
 - 型込機 14台
 - 砂処理機 (ミル他) 5台
 - ショットブラスト 1台

機 械 製 造 業

1 池 森 機 械 (有)

(1) 製紙機械の総合メーカー

現地企業の中で大型機械メーカーとして異色の存在である同社は創立以来31年堅実な歩みをつけている。工場施設の近代化を図る一方、生産方式の合理化も最新の知識と経験をもつ日本からの技術者を中心に積極的に推進しつつある。

生産機種は主として製紙用機械一式であり、ポンプ以外の製紙機器、ボイラーなど全機種を生産、販売している。

新規機械設備としては、ポーランド製の中型中グリ盤、東ドイツ製のラジアルボール盤、国産大型普通旋盤などがある。7年程前に鋳造工場を機械工場および製缶工場に改造した。その結果、鋳物は外注依存の方式をとることになったが、機械のフレーム構造などは鉄骨・鋼板構造に改良して製缶・溶接部門を増強、生産性の向上を図ってきている。

また機械、生産施設の改良に加えて生産工程にも工夫をこらし、作業時間の測定、治工具の開発にも意を注ぎ、販売・購置部門の能率化と企業全体の成績向上を図ってきている。

(2) 試験工場として製紙工場も経営

ブラジルの製紙機械メーカーはわずか5社、製紙刃物工場1社という状態であるが、最新式の機械を作っても容易に製紙工場で受入れない面がある。開発した機械の性能を実際にユーザーに見せるためにサンパウロから130Kmサンタバーバラ市の製紙工場を買収、ダンボール用紙の製造を開始した。この工場では砂糖キビの搾りカス（バガス）を製紙原料に混合して原材料の経済性と紙の「引張り強度」の増加を図るための研究を行なっている。

ブラジルではバガスのほとんどは廃棄され一部分が燃料として製糖工場等で利用されているが、これの製紙原料としての活用が実用化すれば、同社は飛躍的に発展が約束されるであろう。

目下、近接用地に工場を増設中であるが、セルジッペ州に第3工場を建設する計画も進行中である。

ブラジルでは紙幣、証券、小切手等に使用される用紙は全て、外国から輸入されている。これらに使用される用紙は、その丈夫な質、スカシなどの面から高度の技術を要求し、世界でも7~8社がこの製造を行なっているにすぎない。同社は近い将来この方面にも着手する方針をたてている。

製紙がブラジルの貴重な産業であること、更に本計画がブラジルの地域開発政策にも合致する点などから今後期待される。

会 社 概 要

1 会 社 名

MÁQUINAS IKEMORI LTDA.

2 所 在 地

(本 社) Rua 15 de Novembro, 269, 3^ª and., S/304, São Paulo

(機械工場) Rua Antonio Lindro da Silva, 408, Vila Aricandura, São Paulo

(製紙工場) Município de Santa Barbara, Est. de São Paulo

3 創 立 1942年2月

4 資 本 金

(機械工場) CR\$ 2,500,000.00(115,000,000円)

(製紙工場) CR\$ 1,000,000.00(46,000,000円)

5 経 営 者

代表取締役 池森春三

取 締 役 池森 誠

’ 池森順治

’ 池森富二夫

’ 石岡鉄男

6 生 産 品 目 製紙機械, パルプ機械

7 従 業 員 190名(機械, 製紙工場)

8 工 場 規 模

(I) 機 械 工 場

① 敷 地 3,000m²

② 建 物 2,000m²

③ 設 備

普通旋盤 ドイツ製 1台

’ ブラジル製 8台

フライス盤 ’ 3台

プレーナー ’ 3台

セーバー ’ 3台

ボール盤 ’ 8台

溶接機 ’ 7台

正面盤 ’ 1台

特殊旋盤 ドイツ製 1台

中グリ盤 ポーランド製 1台

ラジアルボール盤 東ドイツ製 2台

-その他製缶施設, 木型工場

※近接地に工場増設中

(2) 製紙工場

ダンボール用紙 日産1.5トン用製紙

機械一式(目下同程度のもの更に一式準備中)

2 加藤精機工業(有)

(1) 南米一の金型工場

同社は、Ford Willys, General Motors, ナショナル車輛, ビラチニンガ機械, Bendix, Scania Vabis, Chrysler, Benz, Goodyear 等ブラジル一流企業の自動車および電気洗濯機部品の金型製作工場として、各メーカーにおける金型工場を除外すれば、外注加工工場では南米一の工場施設と技術を誇っている。

従業員はわずか60名であるが、所有工作機械は65台以上におよび、一部ブラジル国産機のほか東ドイツ、西ドイツ、チェコ、日本、アメリカ、ポーランド製の各工作機械が完備しており、最近、同社社長は、電子ナライ装置付フライス盤(Line-A-Mill)を購入するために、アメリカまで出張した。このフライス盤は、南米には初めてというものであり、図面を電子的にキャッチして平面切削加工(曲面が切削可能)を自動的に行なう機能を持つので、彎曲した自動車用金型などの工作に威力を発揮する。金型の試験用に300トンの油圧プレスも設置しているが金型テスト用だけでなく、しばしば加工までも依頼され、金型の設計・製作から製品化まで一貫して受注する場合も多くなった。

(2) 機械作業に重点

ブラジルでは、工作依頼者から金型設計図面が提供される場合は今まで少なかった。したがって同社では、まず金型の設計をし、つぎに加工する。金型工場として設計がもっとも困難な仕事である。

同社では金型設計を厳格に行ない、機械による加工工作に主体をおいて金型製作を進めている。つまり、手仕上げ部門はできるかぎり省略し機械作業による工作によって作業を機械化、単純化、均質化している。

会 社 概 要

1 会 社 名

KATO E CIA. LTDA.

2 所 在 地

Rua Ibitinga, 263, São Paulo

3 創 立 1936年

4 資 本 金 CR\$ 1,200,000.00(55,200,000円)

- 5 経 営 者
 社 長 加藤安友
 副 社 長 加藤富穂
 専務取締役 バウロ・加藤
- 6 生 産 品 目 自動車用金型及び特殊機械の設計と製作
- 7 従 業 員 60名
- 8 工 場 規 模
 敷 地 2,500㎡
 建 物 1,300㎡
 各種工作機械 66台

3 バルジニャ組立(有)

1968年ブラジル三菱重工業㈱の援助により現在の会社が設立された。

同社は鉄構，小型ボイラー，大型ボイラー附属品，タンク，タワー等産業機器及び附属品についてブラジル三菱重工業より直接受注しており，ブラジル三菱重工業の協力会社として業績伸長しつつある。

会 社 概 要

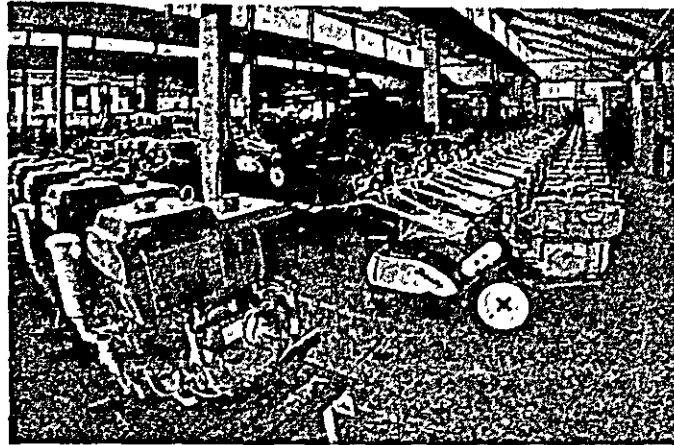
- 1 会 社 名
 VARGINHA MONTAGEM
- 2 所 在 地
 Praça Sol.Nascente S/N Varginha, Est.de Minas Gerais
- 3 創 立 1968年7月
- 4 資 本 金 CR\$ 50,000.00(2,300,000円)
- 5 経 営 者 社長 近藤久雄
- 6 事 業 内 容
 小型ボイラー
 大型ボイラー附属品
 鉄構製品
 タンク・タワー等産業機器
 常備工の供給
- 7 従 業 員 250名
- 8 主 要 取 引 先 ブラジル三菱重工業株式会社
- 9 売 上 高 月平均 約CR\$200,000.00

4 ブラジル久保田鉄工(有)

(1) 沿革

久保田鉄工の対ブラジル取引は1933年の小型ディーゼルエンジンの輸出に始まる。その後、1951年には防除機を、1955年には耕運機を加え、「トバタ」のブランドでブラジル全土に広がった。

上記のような輸出実績に基づき、久保田鉄工は当国に於いて農業機械の国産化を図った。農業機械化を通じてブラジルの経済発展に寄与する目的をもって1957年、現地法人「マルキウ農業機械社」を設立した。1960年には三菱商事の資本参加を得て組立工場の建設に着手。同年5月ノックダウン方式による耕運機の生産を開始した。



主力製品
耕うん機及び小型ディーゼルエンジン

その後需要の増加に伴い、1962年には政府の耕運機国産化法の制定発

令に呼応して、耕運機ならびにエンジンの本格的生産工場を建設、1963年には第2次拡張、1969年には社内用鋳物工場を新設した。

現在も将来の構想に沿って大規模な拡張工事が進められている。

また1965年6月に社名を「ブラジル久保田鉄工有」と改称したが、需要家に馴染の深い「トバタ」のブランドはそのまま残して今日に至っている。

(2) 製品と販売の状況

同社の主力製品は耕運機および小型ディーゼルエンジンであるが、このほか小型防除機や各種鋳物の製造販売並びに田植機、刈取機など親会社の製品の輸入販売を行なっている。

「マイクロラットール」と呼ばれている耕運機の主要用途は農業耕作であるが、長い年月の経験と工夫をもとに製作された付属装置をつけて乗用、芝刈り、除草、穴掘り、その他多目的に活用される。また撒粉機、噴霧機、ポンプ等の搭載も可能である。

利用範囲はサンパウロ、リオ・デ・ジャネイロを初めとする都市近郊野菜地帯や果樹園、サンタ・カタリーナ州の水田米作地帯、パラナ州のコーヒー園などを中心としてブラジル全土に広くわたっている。

小型ディーゼルエンジンは耕運機に搭載されるほか、家畜飼料用カッター、ポンプ、発電機等の各



機 械 工 場 内 部

種農機具や漁船の動力源としても用いられ、ミナス州、ゴヤス州、北ブラジルの牧畜地域を中心に全土にわたって展開している。同社の販路は全国約500の代理店に依っている。代理店のある地域では、常時アフターサービス要員が巡回サービスにあたり

り、また各販売店の技術者養成のために社内に技術講習所を設置して教育訓練を施している。このようにして販売からアフターサービスまで一貫して強力な販売サービス網を形成している。

近年になってラテンアメリカ諸国、アフリカ諸国への輸出も活発で、ブラジルは将来の、久保田鉄工の中南米市場への拠点をめざしているが、ブラジル久保田鉄工ではただ単に親会社の製品を導入するのではなく、ブラジルの国土に適した農業機械の開発・改良に不断の努力を積み重ねている。

会 社 概 要

1 会 社 名

KUBOTA TEKKO DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO LTDA.

2 所 在 地

Av. Fagundes de Oliveira, 900, Piraporinha Diadema, Est. de São Paulo

3 創 立

1957年8月

4 資 本 金

CR\$ 6.218,425.00 (286,047,550円)

(久保田鉄工 86.4%, 三菱商事 13.6%)

5 経 営 者

代表取締役社長 宮地 良

営業担当取締役 国村家富

製造 ・ 植田静夫

総務 ・ 馬島尚平

非常勤取締役 瀬古和男

6 生産品目

耕運機	月産 200 台
小型ディーゼルエンジン	・ 800 台
小型防除機	・ 300 台
各種鋳物	・ 200 台

7 月平均売上高 CR\$ 4,500,000.00 (207,000,000円)

8 従業員

社員	90 名
工員	340 名
計	430 名

9 工場規模

- ① 敷地 51,000m²
- ② 建物 13,000m²
- ③ 設備

ア 機械工場

- 各種工作機械 120 台
- 熱処理設備 (高周波焼入機他)
- 塗装設備
- 予備発電設備

イ 鋳物工場

- 3.5 トンキューボラ 1 基
- 2 トンキューボラ 2 基
- 直油熔解炉 2 基
- 焼鈍炉 3 基
- シェルモールド設備
- 金型及び木型製作設備

5 ブラジル初田工業 (株)

(1) 沿革

同社は、古くは現社長今井繁義氏の経営による旧今井商会にその端を発する。この商会は、1948 年より大阪の初田工業 K・K の噴霧機をブラジルに導入して販売していた。その後同商会は「東京貿易」と「ハツメッキ商工」に分離して飛躍をかけた。

1962 年「ハツメッキ商工」は大阪初田工業とノウハウの提携を行ない、技術陣の派遣・協力を得て手動撒粉機を製造。次いで JUJI と称する手動噴霧機を完成した。

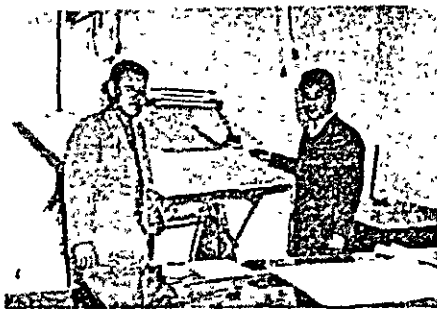
1964 年動力の MODEL SU を製造、1966 年には改良して "DYNUM" 型の生産を開始した。そ

の後漸次輸入部品の国産化を成功させていった。

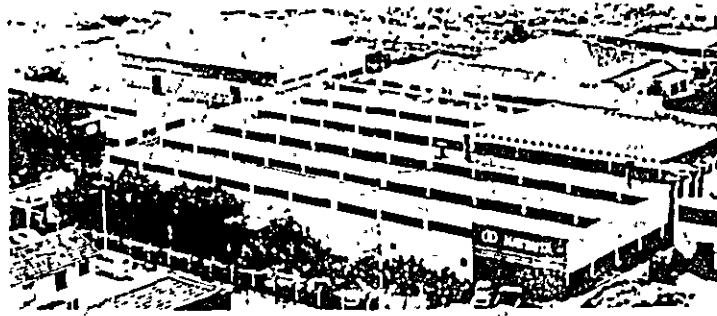
1970年「ハツメッキ商工」の社号を現在のHATSUTA DO BRASILに改称、1971年には、国内需要の増大に因ずるべく

1年がかりで現敷地に工場を新増設した。

1972年ブラジル農業界でそれまで知られていないサビ病がサンパウロ全州のコーヒー園に被害をもたらしていたが、同社ではSpeed-Spray式噴霧機の原型造に成功し製品化を行なってブラジルコーヒー栽培者の要望に答えた。



工場内製図室



ブラジル初田工業(株)工場全景

また同年、日本の習志野タス・モーター社のノウハウを導入し、それまで全面的に輸入に頼っていた2サイクルのガソリンモーターを国産化、活用して噴霧機Blomic AM-8を製造した。更にスエーデンの動力ノコ生産会社PARTNER社と協定を結び、同社の製品を多量にブラジルに導入することになった。

1973年現在、ハツタの製品は350の代理店、販売網を通じブラジル全土で販売されているが、更に南米5カ国や南アフリカにも輸出され、ブラジルに外貨をもたらしている。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
HATSUTA DO BRASIL S.A
- 2 所 在 地
本社・工場 Av.Monteiro Lobato,2700,Guarulhos,Est.de São Paulo
- 3 創 立 1962年12月
- 4 資 本 金 CR\$ 16,400,000.00(754,400,000円)
(ブラジル資本 86%,外国資本 14%)
- 5 経 営 者
代表取締役 今井繁義
取締役副社長 今井 威

経理担当理事 三木忠和
 営業 ・ 岡田 喬
 技術 ・ ルイス・今井
 原料 ・ 吉永 爽

6 生産品目

農業用動力噴霧機

手動噴霧機

その他微粉機を含め17機種

7 従業員 850名

8 工場規模

① 敷地 46,000㎡

② 工場等建坪 22,000㎡

③ 工作機械 250台

④ 設備

ア 鋳造施設

イ ファイバーグラス成型施設

6 ブラジル豊和工業(株)

(1) 沿革と特色

サンパウロ市のシプラン商事(株) (社長は現在のブラジル豊和工業専務) が戦後いち早く名古屋の豊和工業(株)の代理店として、紡機5万錠と、自動織機4,500台を導入したことが契機となって、海外移住振興(海外移住事業団の前身)、東洋紡、日本スピンドル製造の協力を得て1956年7月ブラジル豊和工業(株)が設立された。

1956年12月鋳造工場、機械工場及び附属建物4,150㎡が竣工、翌年6月よりまず自動織機の製造販売を開始した。

創業以来16余年、政変、悪性インフレ等多くの苦難と闘う一方、強力な競争相手である



ブラジル豊和工業(株) モジエ・ダス・クルーゼス工場全景

イギリス系プラット社・ブラザー社、イタリア系FASA社等を抑え、現在市場シェア80%という確固たる地盤を築き得た。

とくに1965年より工業用機械設備基金(FINAME-Fundo de Financiamento para Aquisição de Máquinas e Equipamentos Industriais)の融資制度を積極的に活用し得意先設備機械更新意欲を喚起する事により売上の増大に成功した。

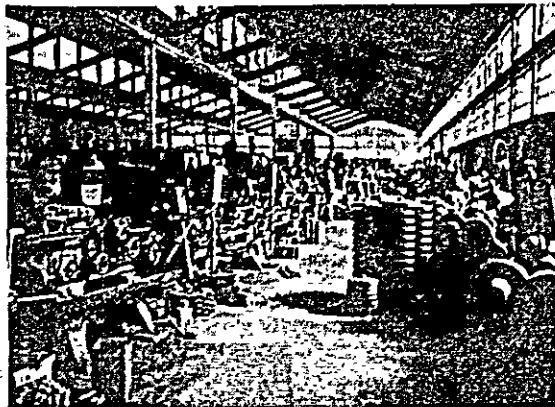
また政府の繊維業界に対する積極的な近代化奨励策と相まって業績は伸長を続けている。1972年度末受注残高は4,800万クルセイロスに達している。

同社設立と同時に、工場の機械設備は全て無為替輸入により日本から導入されたが、以後生産の上昇に伴い毎年該設備の規模は拡大されてきた。更に急激な市場拡大に対処する為昨年、ブラジル開発銀行(フィベメ資金)及び日本輸出入銀行の融資を受け約500万クルセイロスの設備投資を行なって生産能力を高めた。

本年の設備投資は約5,000m²の工場の増築、80台の新鋭工作機械の導入等で総額1,200万クルセイロス程度が見込まれる。そして既に工作機械は発注され新規工場の建設が開始されている。

(2) ノース・アメリカン・ロックウエル社と資本技術提携

新鋭機械の開発を主眼としてノウハウを得るため、1971年末同社はアメリカのノース・アメリカン・ロックウエル社と資本及び技術の提携を行なった。ロ社は資本金3億ドル、従業員115,000人、年間販売高26億ドルの規模を持つ巨大企業であるが、その中の繊維機械部門であるドレッパ一により開発設計されたD.S.L型(シャトルレス)自動織機が本年中に製造販売される運びとなっている。



工場内部

提携後の資本金の比率は豊和工業、東洋紡績、ジブラン商事等日本側が75%、ロ社は25%となり、経営の主体は日本側にある。

(3) 株式を公開

門戸を開放して広くブラジル人投資家の参加を歓迎し資本の結合により両者の共存共栄の目的を達するべく1973年2月株式の一部公開に踏み切った。

公開の結果同社の資本金は1,500万クルセイロスから1,900万クルセイロスに増資され、株式市場低迷の折にも拘わらず短期間に消株となったことは同社が将来性ある有力企業として高く評価されることを示している。

生 産 実 績

製 品	年 度	单 位	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973
			240	594	1,303	2,294	1,696	1,525	1,453	1,069	1,413	1,473	1,267	896	1,249	1,842	2,298
自 動 織 機		台															
精 紡 機		’	—	—	—	—	12	22	30	94	52	133	161	102	159	179	253
然 糸 機		’	—	—	24	—	4	4	—	4	4	5	5	15	—	22	—
梳 棉 機		’	—	—	—	—	—	2	—	10	3	2	20	11	48	27	105
トビ一装置		’	—	—	—	—	159	201	241	339	220	844	400	716	280	796	828
粗 錠 機		’	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14	8	29	51	40
粗 紡 機		’	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10	15	19	36
鋸		屯	894	1,053	2,152	2,580	1,693	1,901	1,720	2,034	1,913	2,934	2,748	2,051	2,937	4,123	5,000

会 社 概 要

- 1 会 社 名 HOWA DO BRASIL S.A. INDÚSTRIA MECÂNICA
- 2 所 在 地
 (本社) Rua Senador Feijó, 69-Edifício Ivaly-São Paulo
 (工場) Estação Engenheiro Cesar de Souxa-Bairro Rio Acima Mogi
 Das Cruxes-Est. de São Paulo
- 3 創 立 1956年7月
- 4 資 本 金 CR\$ 1500000000 (690000000円) (1973年3月1日現在)
- 5 経 営 者 取締役社長 野崎 信義
 専務取締役 藤平 正義
 " 木村 一男
 常務取締役 棚根 正二
 技術担当取締役 八神初太郎
 取締役工場長 川口八洲光
 取 締 役 佐藤 弘之
 " 松本二三男
 " 外山 促道
 " HIRAMA CLEGG
- 6 生 産 品 目 一般紡績機械各種、自動織機並に附属部品及び鋳造
- 7 従 業 員 職員 工員 合計
 本社 87 - 87
 工場 216 1117 1333 ※名古屋豊和工業(株)よりの出向指導員
 合計 303 1117 1420 26名
- 8 販 売 先
- 1 自動織機
- | | |
|---|-------|
| Cia. Nacional de Tecidos Nova América | 1266台 |
| Cia. Industrial Belo Horizonte | 974台 |
| S.A. Indústrias Reunidas F. Mataraxxo | 810台 |
| Cia. Taubate Industrial | 520台 |
| Cia. Fiação e Tecelagem Cedro e Cachoeira | 490台 |
- 2 精紡機
- | | |
|---|------|
| Toyobo do Brasil S.A. Fiação e Tecelagem | 109台 |
| Cia. Nacional de Tecidos Nova América | 108台 |
| Fiação e Tecelagem Kanebo do Brasil S.A. | 80台 |
| Cia. Fiação e Tecelagem Cedro e Cachoeira | 42台 |
| Filobel S.A. Ind. Textil do Brasil | 37台 |

9 工場規模

① 敷地	190000 m ²
② 建物	24115 m ²
③ 本社社屋	1000 m ²
④ 工作機械	291 台
その他の機械	160 台
キューボラ	3 基

10 月間生産能力

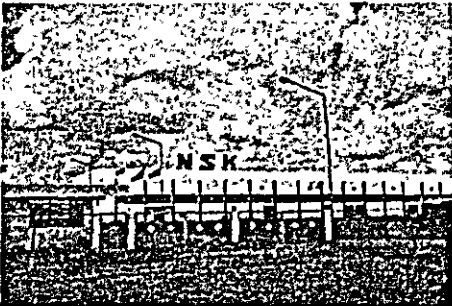
自動織機	250 台
精紡機・捻糸機	12000 錠
梳綿機	12 台
練篠機	12 台
粗紡機	6 台
リング	15000 個
スピンドル	15000 本
鋳造	500 t

7 ブラジルN・S・K商工(有)

1965年、日本精工は輸出市場拡大のためブラジルNSK商工(有)を設立し、1970年現地生産の方針を固めて、ブラジル工業開発審議会の許可申請を行なって、1971年に工場建設を行った。

当初輸入部品による組立加工を、その後金属加工部門の増設を行ない、現在は、N.S.Kの最も得意とする外径100mmまでの単列深溝型ベアリング生産を主力とし、この分野では独自の地位を確保(ブラジル市場の70%)するに至っている。

当面の投資計画としては、完全な一貫生産体制



ブラジルN・S・K商工(有)工場全景



工場内部

を1975年までに完成することであり、既に投下した160万ドルを含め600万ドルを設備投資に充てる予定である。

生産対象以外の品目については将来も輸入販売を続ける計画である。

現在は有限会社であるが、設備投資が一段落し業績が安定するのを待って株式会社への改組、ブラジル株式市場での公開を考えている。

会社概要

1 会社名

NSK DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO DE ROLAMENTOS LTDA.

2 所在地

(本社工場) Rua Vereador João Batista Fitipaedi, 66, Vila Maluf,
Suzano, Est. de São Paulo

(サンパウロ事務所) Rua Diana, 89, Vila Pompeia, São Paulo

3 創立 1970年11月

4 資本金 CR\$ 14,000,000.00(644,000,000円)

(払込資本金 CR\$ 9,411,120.00(432,911,520円))

5 経 営 者

社 長 中西和雄
副社長兼工場長 中村政雄
財務担当重役 篠崎健治
営業担当重役 須藤良雄
業務担当重役 清水文憲
技術担当重役 三巻彦夫

6 事 業 内 容

軸受の製造及び輸入並びに国内販売及び輸出

7 月平均売上高 CR\$ 3,000,000.00 (138,000,000円)

8 従 業 員 スザノ工場 70名
サンパウロ事務所 40名

9 主 要 取 引 先

フェルクスワーゲン, ロバート・ボッシュ, アルノ, ワブサ・オートベサス, コールパッハ電機
ブラジルヤンマー, ブラジル久保田鉄工, ワリタ電機, フォード・ウィルス,
ゼネラル・エレクトリック

10 工 場 規 模

① 敷 地 80,000m²
② 建 物 6,000m²

8 ブラジル三菱重工業(株)

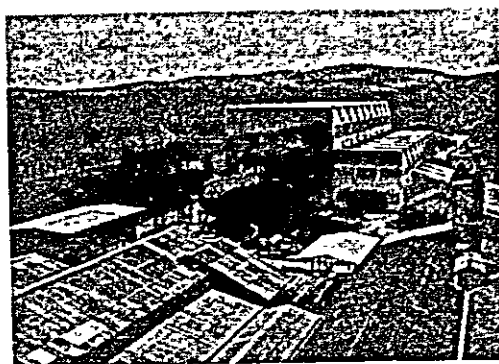
(1) 南米における三菱グループの拠点

同社は(通称CBC)は1955年に資本金25万クルゼイロスでミナス州南部のバルジニャ市に誕生した。

CBC社の当初の製造品目は各種小型ボイラーと熱交換器類にすぎなかった。

その後次々と所有者が変わったが、最後には西ドイツの鉄鋼財閥ティッセン(THY-SEN)に経営権が移った。

1960年に三菱造船, 三菱商事, 三菱電機の3社がリオ州カンポスに設置される15,000KW火力発電設備2基の受注に成功したが, その輸送問題をはじめ将来ブラジル市場への進出を図るには現地にも有力メーカーを確



ブラジル三菱重工業(株)工場全景

保する必要性を痛感した。その頃西ドイツ THYSSEN 社からブラジルの CBC 社売却の提示があり、三菱造船、三菱商事、三菱電機の 3 社は 1961 年 11 月に調査団を派遣し、更に秋、三菱重工と三菱日本重工を加えた 5 社によって CBC 社の買収を決定、1963 年 6 月 CBC 社は三菱グループの南米における一拠点として出発した。

(2) 大型ボイラー、石油化学プラント、産業用重機を中心に更に飛躍を期す

三菱グループの管理経営となった CBC 社は大型ボイラーと産業用重機の製作を特色として現在にいたっている。



本社工場内部

1966 年ロドーザ・ド・ライオン社から蒸発量 80 トンのボイラーを受注、1968 年にはロオディア化学工業社から、当時ブラジル国最大といわれた蒸発量 150 トンのボイラーを受注した。

このように $50\text{T}/\text{H}$ から $150\text{T}/\text{H}$ クラスの VU 型水管ボイラー、ソーダ回収ボイラーの生産能力ではブラジル第一位を占めている。以上の大型ボイラーはアメリカ最大のボイラーメーカーといわれる CE 社 (COMBUSTON ENGINEERING INC.) との技術提携によって製作されている。

また、CBC 社はプラントメーカーとしても、最近若しく活発化しつつある石油化学工業の分野に大きな貢献をしている。

ブラジルの石油化学工業の発展は、1953 年に国内の石油開発を独占事業とするために設立された石油公団ペトロプラス (PETROLEO BRASILEIRO S.A.) が研究開発した石油精製工場の排出ガスや副産物の利用による肥料、合成ゴム、エチレン、プロピレンなどの石油化学原料材工場プラントの開発が進められたことに起因する。

CBC 社はペトロプラスのペロ・オリゾンテ市及びポルト・アレグレ市の精油所にそれぞれ国産としては最初の加熱炉を納入した。またパラナ州サン・マテウス市のシスト精油所には同じく国産最初のシスト石油抽出装置 (乾溜機) 製作の実績がある。

CBC 社はペトロプラスのプラント建設に参加する一方、ウルトラサス株系ウルトラフェルティル肥料工場、石川島造船所、ペロールメ造船所などの船舶用機器、ミナス州ポソス・デ・カルダスの三井肥料工場の国産設備を請負っている。

他方、日本の三菱重工とタイアップしてミナス中央電力 (CEMIG) ならびにエトロスール社リオ・グランデ・ド・スール州パソ・フンド水力発電設備も受注した。

(3) 将来の計画

目下実施中の工場拡張、設備拡充と相まって、製鉄、製紙とセルローズ、セメントプラントなどの設備、大型レーモンドミル、大型アスファルトプラント、火力発電用ボイラーの製作部門の増設が挙げられる。

更に将来一層の発展を画しサンパウロ市近郊に進出を予定している。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
COMPANHIA BRASILEIRA DE CALDEIRAS E EQUIPAMENTOS PESADOS
- 2 所 在 地
(本 社) Praça João Mendes, 42, 18^ª - 19^ª and, São Paulo
(工 場) Alto da Boa Vista, S/N, Varginha, Est. de Minas Gerais
- 3 創 立 1943年6月
- 4 資 本 金 CR\$ 26,500,000.00 (1,219,000,000円)
株主構成 三菱重工 79.6 %
三菱商事 13.4 %
三菱電機 7.0 %
- 5 経 営 者
社 長 勝賀瀬正
営業担当 戸川 昭
総務担当 浅野 明
工場長 篠崎武二
- 6 生 産 品 目 各種水管ボイラー, 化工機器, 産業機械, 建設機械, レーモンドミルなど
ボイラー CR\$ 21,627,376.99
化工機 14,237,267.57
レーモンドミル 2,961,818.00
建設機械(アスファルトプラント
及びフィニシャー) 4,601,337.55
部 品 8,079,310.95
据附作業その他 2,666,301.91
合 計 CR\$ 54,173,412.97 (2,491,976,952円)
- 7 従 業 員
サンパウロ本社およびリオデジャネイロ, サルパドール事務所
150 名
工 場 650 名
計 800 名
- 8 主要取引先
PETROBRAS
Petroquímica União S.A.
Cia. Ciderurgica Nacional

General Elétrica S.A.

USIMINAS

Safron Teijin S.A.

その他多数社

9 工場規模

敷地 168,400m²

建物 27,184m²

主要機械設備

設備天井走行クレーン 主捲50T 補捲10T

プレス 1,200T

焼鈍炉 間口5,000mm 奥行12,500mm

ベンディングローラー 1 1/2 × 3,000mm

主要機械

A) 工作機械

フライス盤 4台

中グリ盤 6台

ボール盤 25台

旋盤 27台

B) 板金機械

プレス 11台

ベンディングローラー 6台

切断機 15台

管曲げ機 6台

レントゲン装置 3台

溶接機 18台

主要新設備

1,800 tプレス

ベンディングローラー

横中ぐりフライス盤(MAF)

ラジアルボール盤

NC管板孔明機

フィンウエルダ

パネルベンダ

フランジ鍛造機

9 ブラジルヤンマー(株)

(1) 沿革

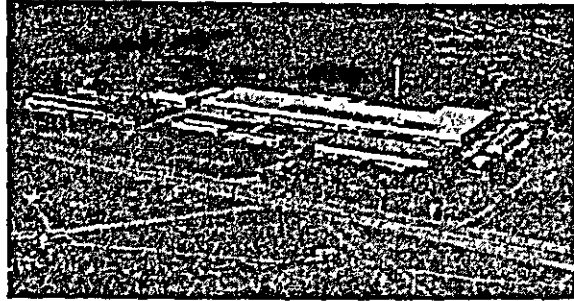
同社は1957年2月創立され、当初の4年間は日本ヤンマーディーゼルのエンジン輸入販売や、ヤンマーイメージの広報・市場調査・販売網の設立を行なうと共に国産化の可能性と諸条件につき調査を進めた。1960年3月大統領直属の自動工業実行グループ(GEIA)の小型ディーゼルエンジン国産計画に対する許可を取得し、同年末サンパウロ市郊外に生産工場を設立した。

1961年から67年までは激しいインフレ、政情不安、経済変動に加え、ブラジルの後進性に基づく諸困難に悩まされたが、当初小型1機種5HP月産200台の規模から1968年には5機種1,200台に伸ばした。

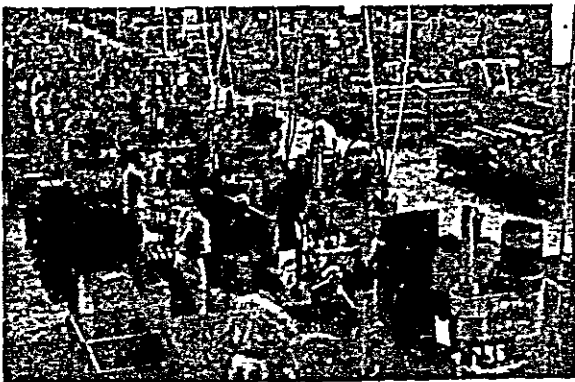
1968年からはブラジル経済の成長発展と景気拡大に伴って需要も飛躍的に伸びたので、これに対処して年々設備の拡大を図った。現在は一部作業の二交替制を実施し月産4,000台を努力中である。

また1971年末以降中型ディーゼル2機種(堅形18HP~36HP)ラインに加え、同年中にはブラジル井関三井農機㈱を買収して耕運機(2機種)の生産を引継いでいる。

1972年には背負式噴霧機の国産化を開始し更に川崎重工との技術提携で小型2サイクルガソリンエンジンの国産化を近々開始して、ディーゼルエンジンを基礎に関連商品の取扱いによる事業の拡大を図りつつある。



ペトロキーズ向 硝酸吸収塔



工場内部

(2) 特色

(1) 発展途上国ブラジルに対する商品の適合性

ブラジル国土の開発や国連食糧農業機構(FAO)の期待に応えブラジルが世界の食糧供給国となるための農業牧畜近代化計画にとって、小型ディーゼルエンジンは不可欠の武器である。

特にブラジル農務省の北東ブラジル灌漑計画には積極的に協力し既にヤンマーポンプ数千台を納入し陸軍国境駐屯隊の

通信電源などにも使用されている。

(イ) 競争力

ヤンマーが国産を開始した当初は輸入競合品に加え、OTTO DEUTZ, BUKH, COLONO, LEON, HAIMER, FARYMANNなどの国産競合銘柄が存在していたが、現在20HP以下の小型ディーゼルエンジン市場におけるヤンマーのシェアは70%に及んでいる。

(ウ) ブラジル企業に占めるランク

ブラジル工業専門誌「O DIRIGENTE INDUSTRIAL」誌が国内主要企業1,000社の資産利益状況の分析結果による企業ランクを毎年発表するが、それによると、ヤンマーは1966年度300位であったのが1972年度は246位を占め、日系企業ではウジミナス、石川島に次ぎ3位となっている。

(ロ) 長期的進出態度と現地優先主義の経営方針

ブラジル社会に役立つ優れた商品を提供するブラジル企業として定着するため、同社は進出以来一度も利潤の償還を行わず全て企業の体質改善と事業規模の拡大に再投資してきた。

また日本側出向者は企業と共に永住の気概をもち、現役員は創立以来の定住者である。10年以上の定住技術者も7名を数え全て現地社員と融和しながら企業の長期計画に取組んでいる。

更に現地責任者に対する大巾な権限の授与、現地法律習慣に適合した制度とその運営、社員の実力主義に基づく平等処遇を登用、現地社会との融和など現地優先主義の経営方針を採っている。

会 社 概 要

1 会 社 名

YANMAR DO BRASIL S.A.

2 所 在 地

(本 社・工 場) Av. Presidente Vargas, 1400, Indaituba, Est. de São Paulo
(サンパウロ事務所) Alameda Barros, 83, São Paulo

3 創 立

設 立 1957年 2月

操 業 1957年11月

工場設立 1960年12月

4 資 本 金

① 払込済公称資本金 CR\$ 37,485,000.00 (1,724,310,000円)

② 留保基金及び積立金 CR\$ 32,903,126.00 (1,513,543,796円)

5 経 営 者

取締役社長 佐藤圭子

取締役副社長 佐藤 隆

取締役工場長 若林雅之助

取締役営業部長 前田保直

6 生産品目

小型ディーゼル(4~13HP)	10機種(4,000台)
中型ディーゼル(18~36HP)	2機種(300cyl)
耕運機	1機種(100台)
背負式噴霧機	1機種(1,500台)
鋤造	(800トン)

7 事業内容 エンジン(ディーゼル・ガソリン)製造,農工その他汎油機械の製造

8 従業員

本社・工場	700名
サンパウロ事務所	40名

9 販売組織

総代理店としてヤンマー販売株式会社(CIA. YANMAR DISTRIBUIDORA DE MÁQUINAS),資本金 CR\$ 16,000,000.00,本社・サンパウロ事務所,ブラジルヤンマー㈱と同じ。
役員兼務あり。傘下に全ブラジル約500店の販売網を有する。

10 売上高

1972年月平均	CR\$6,000,000.00(276,000,000円)
1973年1月~4月平均	CR\$ 8,000,000.00(368,000,000円)

11 工場規模

① 敷地	341,000m ²
② 本社・工場建坪	33,375m ²
③ 設備	
工作機械	350台
鋤造設備	5トンキューボラ他 145点

10 ポリスピン商工(株)

(1) 沿革

1962年1月養鶏器具製作を主体に、金型、下請加工を目的に、戦後移住者3名が共営で開始。途中共営者の交代があったが当初の目的通りの営業を続け、1967年社名を現在名に変更し将来を指して株式会社とした。

その間1966年5月独立採算の加工工場を設立、7月には販売部を独立させ「いずみ」商標をつくって親工場の製品外の商品も取扱うようになった。

1972年1月金型治工具部が有S.P.金型製作所として独立、本社の金型、治工具の設計・製作・機械の補修を主体に他社の仕事も受注している。

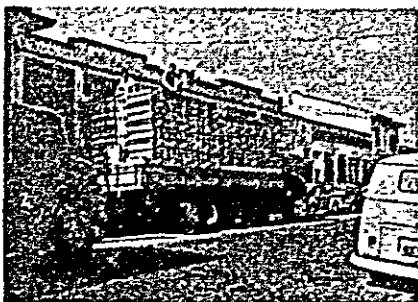
今後徹切盤を主体とする下請部門や事務所の充実を図り、経理・会計・法律・特許等を各社に分け将来再併合して中企業に成長させる意図をもっている。



機械部品工作班

(2) ブラジル養鶏器具界の現況

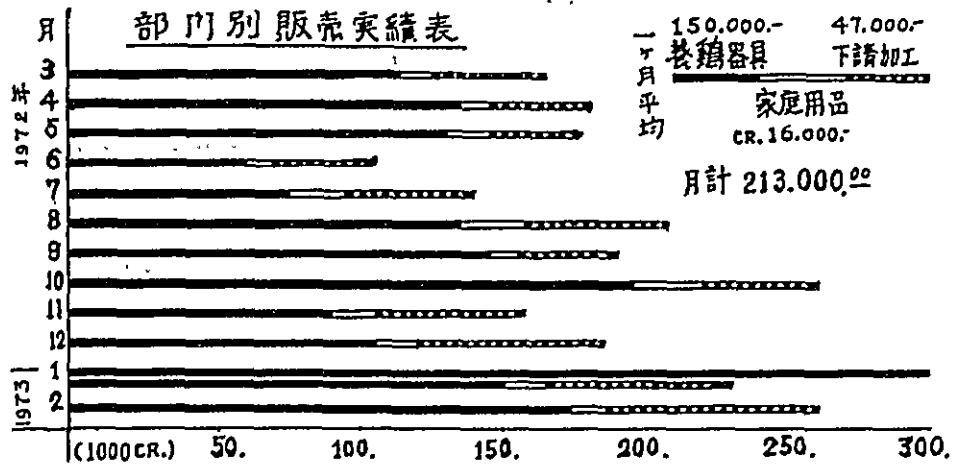
過去10年間に驚くほどの発展をし、3,000羽育成の中型養鶏家は30,000羽となり大型では百万羽を筆頭に十万羽以上が統出している。従って器具工場は1965年頃よりサンパウロ州のみでなく他州にも急増し競争も熾烈を極めた時代を経たが、大型化に伴い量産時代に移ると同時に中企業は電動式新製品へ転換し製品税・流通税免除の影響も併せ、地方の小工場は大量販売に追従できず脱落したため安定期に入った感がある。



不断給餌器の出荷

過去の推移から養鶏界の好不況の波が甚しい事が判り、販売高の安定を図るため、他社の金型製作や家庭用品の製造を続けてきたが、1971年より機械部品の下請加工を強化し基礎売上16万クルセイロスの60%を養鶏器具に、30%を下請加工に、残りを家庭用品にというふうに部門別目標を定めている。

実際には下表のように相当のムラができています。



会 社 概 要

- 1 会 社 名
POLISPIN IND. & COM. S. A.
- 2 所 在 地
 (事 務 所) Rua 21 de Abril, 37, Brás, São Paulo
 (本 工 場) Rua 21 de Abril, 84, Brás, São Paulo
 (金 型 部) Ferramentaria São Paulo Ltda.
 Rua 21 de Abril, 35, Brás, São Paulo
 (販 売 部) "ISUMI" Com & Pep. Ltda.
 Largo 7 de Setembro, 52, São Paulo
- 3 創 立 1962年1月
- 4 資 本 金 CR\$ 600,000.00 (27,500,000円)
- 5 経 営 者
 取締役社長 松酒昌平
 営業担当 相部敬治
 経 理 本多喜八郎
 総 務 松酒喜美子
 本工場長 鈴木義郎
 分工場長 中家 隆
 金型工場長 大熊草治

6 生 産 品 目

1ヶ月最高販売実績

円筒型給餌器	7,003組
円盤型育雛器	371台
足踏式断喙器	45台
手押式配餌器(試作中)	10台
円錐型給水器	4,100組
集卵カゴ	500コ
ホウロウ飯付焼網	5,000コ
金型プレス用,プラスチック用,ベークライト用	

7 従 業 員

役 職 員 20名(全員日系)

工 員 36名(9名日系)

8 主 要 取 引 先

- コチア, 南ブラジル, サンパウロ中央各産業組合
- 柴田商会, DUTRA(飼料店), etc. 器具, 薬品, 飼料店
- SEARS, LAJAS AMERICANAS, 八百半各百貨店
- REFRIGERAÇÃO PARANÁ(冷蔵会社), PUMA VEICULOS E MOTORES(自動車モーター会社)

9 工 場 規 模

① 敷 地	ア 事務所	110m ²
	イ 本工場	1,200m ²
	ウ 金型部	140m ²
	エ 分工場	300m ²
	オ 販売部	20m ²

② 設 備

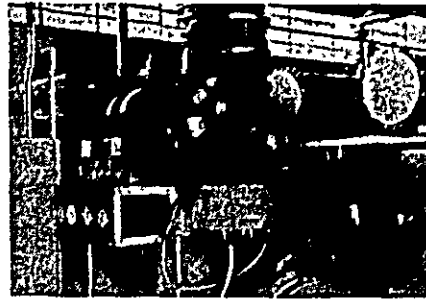
ア 旋 盤	普通6台, 卓上8台, ターレット3台
イ ボール盤	直立3台, 卓上8台
ウ プレス	油圧1台, 偏心11台, 手動3台
エ その他	セーパー3台, フライス盤2台, 機械鋸2台, 帯鋸1台, 点熔接器3台, ホブ盤, 平面研削盤, 円筒研削盤, パンタグラフ, シャーリング, コンプレッサー, 電流熔接器, ガス熔接器 etc.

11 前川製作所(株)

同社は日本の冷凍庫市場の75%、海外ではメキシコで75%、アメリカとカナダで約20%の市場占有率を有する冷凍庫業界のメーカーである。

南米を海外進出の拠点とするため、1968年ブラジルに現地会社を設立した。設立後1年にしてスイス系SULZER、デンマーク系SABROE等の老舗が長い伝統と販売実績をもつところへ食い込み15%の市場を占有した。現在では30%~35%の占有率となっている。

販売地域はブラジル全土にわたり、ブラジル以外の中南米諸国でも"MYCOM"のマークで知られている。



前川製作所コンプレッサー

生産品目は20HP~1,500HPのコンプレッサーを主体としてその附属機器一般も生産しているが将来はコンプレッサーの単産を考えている。このコンプレッサーはこれまでピストン式コンプレッサーであったが、同社はブラジルで最初のスクリーコンプレッサーを導入している。現在生産量は年産200台であるが、将来は600~700台に高める方針である。

目下、工場を拡張中であるが、1973年9月ブラジル政府より無税輸入が認められた日本の機械を設置しコンプレッサーのノック・ダウンを開始した。将来国産化を図っている。またメキシコの工場とも緊密な生産連絡をとり互いに不足を補う合理化計画も検討している。

冷凍機は製氷・冷凍・冷蔵倉庫・冷房コンクリート冷却装置・冷却飲料水・競技場などに活用されるため、各種化学工業、水産・海運、食品工業、食肉工業、冷蔵製氷会場、建設工事、湿度調整などの各工場及びその他の施設等広範囲な需要が期待できる。

完全なアフターケアと納期厳守をモットーに、工場拡張と機械の導入をまけて増産し資本金を倍増する計画である。

会 社 概 要

1 会 社 名

MAEKAWA DO BRASIL REFRIGERAÇÃO LTDA.

2 所 在 地

(事務所) Rua Maria Paulo, 62, P^oe 10^o and., São Paulo

(工場) Av. Dona Ruyce Ferray Alvim, 631, Diadema, São Paulo

3 創 立 1968年7月

4 資 本 金 CR\$ 2,722,000.00(125,212,000円)(近く倍増)

5 経 営 者 株主代表 橋爪 穹

6 営業内容 冷凍機及び冷却装置設計，施工，製作販売，輸出入

7 従業員 100名

8 販売先 (現在成約中の顧客)

① SANDERSON DO BRASIL (オレンジジュース)

② FRIGORIFICO ANGLO (内加工)

③ FRIGORIFICO WILLSON (内加工)

④ CORMASA, COMPANHIA ALIMENTO BRASILEIRA S. A. (内加工)

⑤ PESQUEIRA DE LAGOA (港の漁業港)

12 宿屋ボール盤工業(株)

現社長宿屋三郎氏は、他の兄弟とともに共同で宿屋鋳物㈱を経営していたが、同社の業務(各種鋳物製品、洗濯機械、動力撒粉機その他)のうち機械製作部門が独立、1956年、宿屋ボール盤工業㈱として設立されたものである。

1959年初めて第1号ボール盤が完成、その後改良が加えられ、別表のごとく、ヤドヤ印の各種ボール盤を月平均60~70台生産するボール盤の専門工場となっている。国内市場の占有率は70%、職業訓練校 SENAI、工英高校にも納められて技術教育にも利用されており、注文に追われているが、メキシコ、チリ、ペルー、コロンビア等の南米諸国にも輸出されている。



宿屋ボール盤工業(株)の製品

現在高生産性ボール盤として2HPのものを設計試作中である。ボール盤を基礎としてラジアルボール盤など他の機種も検討しているが、現在の工場は既にスペースがなく敷地を物色中である。また機械の購入も企画している。

(宿屋製パン機一覧表)

型式 仕様	FY-C30	FY-S32	FY-A18	FY-S12	FY-A18	FY-A50	FY-SL38	FY-S25
Capacidade (穴あけ容量)	mm 30	12	(手動式) 38	(自動式) 38	45	50	38	25
Fuso(出軸)	120-190	116-332	80-280	80-280	36-240	43-188	100-180-760	200-680-1300
Caçote 頭部上下移動 ベースの移動	0 208-613	250 1,100-1,350	200 1,100-1,300	250 1,100-1,350	0 1,095-1,250	550 1,080-1,520	230 1,100-1,330	280 880-1,130
Column(柱の太さ)	113	113	140	140	166	216	140	113
Mesa(テーブル)	290-310	420-400	500-460	500	420-400	600-560	500	350
Motor(モーター)	1(CV)	15	15	17	2	3	15	1
Base(台)	610×420	700×450	780×480	860×550	850×540	1,100×600	780×480	630×450
Peso(重量)	230	280	420	520	540	1,300	400	185

会社概要

1 会社名

YADOYA INDÚSTRIA DE FURADEIRAS

2 所在地

Rua Bartolomeu do Canto, 40, Freguesia do Ó, São Paulo

3 創立 1956年

4 資本金 CR\$ 1,200,000.00(55,200,000円)

5 経営者

代表取締役 宿屋三郎

専務 宿屋嘉郎

取締役 宿屋 潔

6 生産品目 各種ボール盤

7 従業員 機械工場 90名

鋳物工場 30名

8 工場規模

① 敷地 2,000 m²

② 建物 2,000 m²

③ 設備

ア 機械

旋盤 12台

中ぐり盤 4台

フライス盤 7台

セーパー 2台

イ 塗装施設 1式

ウ 鋳造施設

3トン半キューボラ 1基

エ クレーン

2トン用 1台

1トン用 3台

500kg 2台

電気機械器具製造業

1 カンダ電子工業(有)

(1) 沿革

ブラジルのラジオ、テレビ等の電子工業界には外国資本のGE、PHILCO(アメリカ系)、PHILIPS(オランダ系)、TELEFUNKEN(ドイツ系)、SANYO(日本系)や、ブラジル資本のSEMP、COLORADO、MOTORADIO、NISSEI等多数のメーカーがある。

カンダ電子工業は、これらの組立生産会社に電解コンデンサー、可変抵抗器、スチコン等を供給している。

同社は東京神田のアンデス貿易(株)の進出企業であり、1963年に同社社員3名が5カ月間にわたる市場調査の結果進出を決定した。以来10年間、年々電子工業の発展とともに順調な伸長をつづけ、トランジスタ-用低圧電解コンデンサー-はじめ可変抵抗器、スチコン等を生産しこれらは何れも業界の一流にランクされている。

(2) 特色

前述のように、ブラジルの電子工業界には世界の一流企業が進出しているが、実際には必要部品の大部分を親会社より輸入して組立る組立工業より始まったため、真空管、トランジスタ-、可変抵抗器、キャパシター、抵抗、コイル等部品の国産化は遅れた。しかし、ここ数年の間に先進諸国の技術援助、企業進出、経済協力により、1973年現在、約70%の国産力を持つに至っている。

また、現ブラジル政府の輸出振興政策と世界の電子工業界における深刻な部品不足のため、この国産化の傾向は更に拍車をかけられる状況にあり一部輸出に向けられる程になるであろう。

カンダ社は既に数年来輸出市場の開拓につとめ、現在では生産品の約30%を中南米向け輸出している。

日本の本社アンデス貿易(株)からの部品、原材料の輸出と、現地生産工場であるカンダ社での完成部品組立・販売及び中南米向け輸出を直結するシステムは、中堅企業の海外進出モデルケースとして注目に値すると思われる。

会 社 概 要

1 会 社 名

INDÚSTRIA ELETRÔNICA KANDA LTDA.

2 所 在 地

Rua São João Batista, 166, Cambuci São Paulo

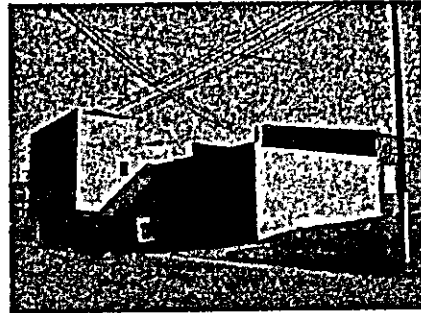
- 3 創 立
1963年3月
- 4 資 本 金
CR\$ 264,000.00 (12,144,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役 針金 勝
工場担当 松尾 暁
営業担当 井上 清
経理担当 鈴木 芳彰
- 6 生 産 品 目
可変抵抗器 月産 15万個
電解コンデンサー 月産 150万個
スチコン 月産 100万個
- 7 月平均売上高
CR\$ 800,000.00 (36,800,000円)
- 8 従 業 員
300名
- 9 主 要 取 引 先
(1) GE
(2) SANYO
(3) SEMP
- 10 工 場 規 模
敷 地 1,200m²
建 物 1,500m²
設 備
機械類 75台
組立工場
可変抵抗器部
電解コンデンサー部
スチコン部

2 児玉機械製作所(有)

サンパウロの衛星都市を構成する所謂A B C D工業都市の中心サントアンドレ市に日系洗濯機メーカーがある。同社と一色機械及び藤本機械である。

下表でもわかるように洗濯機メーカーで洗濯・脱水・乾燥プレス全機種を生産しているのは日系の2社のみである。

同社ではこれら4機種の全部を生産しておりその種類は29種にも及ぶ。生産品の80%は陸海空軍をはじめ、病院、官庁、郵政局等で、他の20%は一般洗染業者向けである。地域的にはブラジル全域と一部はポリビア、パラグアイにも輸出している。工場はサントアンドレのほか、リオ・デ・ジャネイロにもある。



児玉機械製作所工場全景



テレビも備った工場内の食堂

洗濯機メーカー及び生産機種		
会社名	系統	生産機種
児玉機械	日系	全機種
一色機械	日系	全機種
SITEC	日系	プレス機以外の全機種
BANNER	アメリカ系	洗濯機、脱水機、シーツロール
WALLING	ドイツ系	洗濯機、脱水機
PAN COSTURA	アメリカ系	プレスボイラー

会 社 概 要

1 会 社 名

MÁQUINAS CAMPESTRE IND E COM LTDA

2 所 在 地

(本社・工場) Rua Argentina, 227, Pargue da Nação, Santo André,
Est. de São Paulo

(サンパウロ事務所) Rua Dos Estudantes, 74 - 3^o and., S/33,
Liberdade, São Paulo

(リオ・デ・ジャネイロ支店) Rua Delfina Enes, 295, Penha,
Est. da Guanabara

3 創 立

1952年

4 資 本 金

CR\$ 400,000.00 (18,400,000円)

5 経 営 者

代表取締役 児玉 政則

取締役工場長 児玉 政治

6 生 産 品 目

営業用洗濯機, 脱水機, 乾燥機, プレス, その他洗濯機一式

7 従 業 員

本社・工場 65名

サンパウロ事務所 5名

リオ支店 10名

8 工 場 規 模

① 敷 地 60,670m²

② 建 物 1,500m²

③ 設 備

旋 盤 9台

正 面 盤 1台

セ ー バ ー 1台

ボ ー ル 盤 10台

油 圧 プ レ ス 1台 (60トン)

シャ ー リ ン グ 1台

ブ ン ダ ー 1台

溶 接 機 3台 その他塗装施設等

3 サドキン電球工業(株)

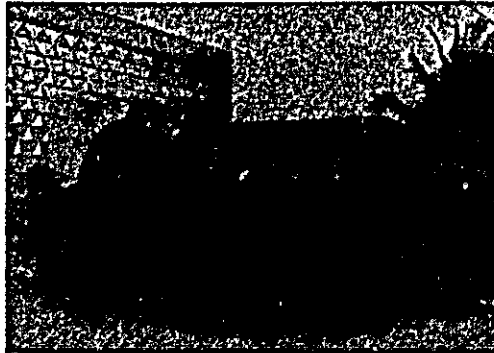
(1) 沿革

同社は、戦後、山本商会(株)が日本より輸入していた装飾用色電球、クリスマス電球などを取引先である佐渡島金属(株)と合併提携の下に、1957年サドキン電球工業(株)として設立され、上記電球の国産化をはかった。

ブラジル国内には、GENERAL ELECTRIC(アメリカ系)PHILIPS(オランダ系)、OSRAM(ドイツ系)、SYERANIA(アメリカ系)など巨大世界企業で古くから進出して、それぞれ強い産業地盤をかためているが、同社はそれらの企業の手がけていない特殊な電球のみに力を入れ、これらの品目ではすこぶる高い市場シェアを保持している。

特に、電話交換球、ミシン球、放電ランプなどは独占的な強さをもっている。

目下、ラテンアメリカ市場への輸出に非常な努力が払われつつある。



サドキンノルデステ電気工業(株)

(2) 東北ブラジルに進出

1965年、同社は東北ブラジル開発庁(SUDENE)の許可を受け、日立製作所、住友商事の技術提携並びに資本参加の下に東北ブラジル地域における最初の電球製造工場として、東北ブラジル・サドキン電気工業(株)をレシーフェ市に設立した。(のちGE、PHILIPSの進出となる)

この東北ブラジル・サドキン電気工業(株)は1968年11月工場建設に着手、日本から技術移住者10名を採用し、1969年4月1日操業を開始した。操業当初は15W、100W球の電球の製造を始めた。そして1972年水銀灯の製造を開始、1972年5月に資本金をCR\$8,000,000.00に増資、1973年2月オズラム(株)と技術・資本提携を行ない今日に至っている。



工場内部

会社概要

- 1 会社名
INDÚSTRIA DE LÂMPADAS SADOKIN S.A.
- 2 所在地
① 本社 Av. Liberdade, 47, 2^ª and., Liberdade Sao Paulo,
② 工場 Bairro Novas Bonsucesso, Km25. Via Presidente Dunta,
Município de Guarulhos, Est. de São Paulo
- 3 創立
1957年9月
- 4 資本金
CR\$ 4,500,000.00(207,000,000円)
- 5 経営者
代表取締役 山本 勝造
取締役副社長 島山 道生
取締役 カロス・井戸
取締役 原田 博
- 6 生産品目
特殊電球・クリスマス球・電話球・色電球・ミシン球・放電ランプ・豆球・各種機械球等月産
100万個
- 7 従業員
250名

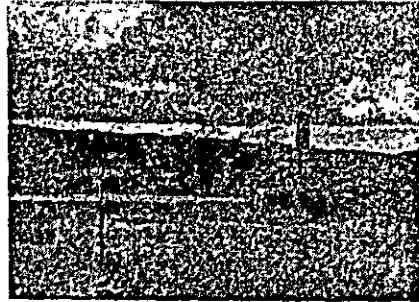
- 8 工場規模
敷地 90,000m²
建物 5,000m²

東北ブラジルサドキン電気工業(株)

- 1 会社名
SADOKIN DO NORDESTE S.A. INDUSTRIAIS ELETRICIAS
- 2 所在地
(本社・工場) Av. Mal Mascarenhas de Moraes, 486, Recife
Est. de Pernambuco
- 3 創立
1965年4月
- 4 資本金
CR\$ 8,000,000.00(368,000,000円)
- 5 経営者 日本人
取締役 山本 勝造
工場長 神原 賢治
- 6 事業内容
家庭電球の製造(15W, 25W, 40W, 60W, 100W)
(120V, 125V, 130V, 220V, 240V)
- 7 月平均売上高
CR\$ 575,000.00(26,450,000円)
- 8 従業員
150名(日系技術者23名)
- 9 主要取引先
ブラジル国内サンパウロ州, バイア州, ミナス州ほか13州に, 12 代理店を設け, 代理店を通じて
小売販売
- 10 工場規模
敷地 13,000m²
建物 6,000m²
(ガラス工場, 電球製造工場, 修理工場, 事務所, 食堂等)
主要機械設備
一般電球製造機械一式 4列
水銀灯製造機械一式 1列
バルブ, ブローイングマシン及びガラス炉他

4 シエルナ電子工業(株)

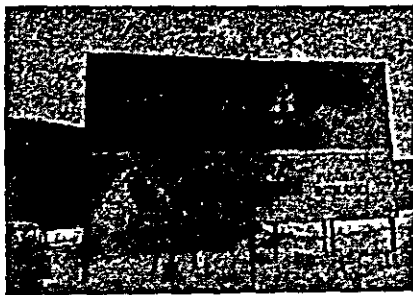
同社は、サンパウロ市に所在するチェリ-電子工業(株)がペーパーコンデンサーを生産していたが将来電解コンデンサー、セラミックコンデンサーを生産するにあたり工場規模が小さいことから、当時東北ブラジル開発庁(SUDENE)の開発計画に既して東北ブラジル地域への進出を図った。そして、SUDENEの投資、工場敷地の選定を画した。電解コンデンサーについてはエルナ社(日本)と、そしてセラミックコンデンサーはKCK社(日本)とそれぞれ技術提携を結び、レシ-フェに工場を設立した。



シエルナ電子工業(株)全景

工場の運営ではCHERRY電子工業から招へいた日系二世のスタッフがシエルナ社の重要ポストを占め同社の発展に貢献している。

シエルナ社から生産・販売される電解、セラミックコンデンサーは、SIMENS社(ドイツ系)、PHILIPS社(オランダ系)、ミリアール社(イタリア系)の同種品目を比較しても性能が優秀であること、又市場占有率は25%を押えており将来50%のシェアを押える生産規模を有しており同社の飛躍発展が期待される。



シエルナ社の看板

会 社 概 要

- 1 会 社 名
CHELNA S.A. INDÚSTRIA ELETRÔNICA
- 2 所 在 地
BR101, Km-10, Recife, Est. de Pernambuco
- 3 創 立
1969年1月
- 4 資 本 金
CR\$ 9,200,000.00 (423,200,000円)
- 5 経 営 者
取締役副社長 内山 司
生産担当重役 藤田 恒久
- 6 生 産 品 目
電子機器用電解コンデンサー、セラミックコンデンサー
- 7 月平均売上高
CR\$ 700,000.00 (32,200,000円)
- 8 従 業 員
本社工場(レシーフェ) 350名
営業所(サンパウロ) 20名
- 9 主要取引先
PHILIPS社, PHICO社, GE, インバイア社, SILVANIA社
- 10 工 場 規 模
敷 地 30,000m²
建 物 10,000m²
主要機械
アルミハク表面処理機, 巻取り組立機, 焼成炉, 旋盤含浸装置

5 シンクロナイズ電子工業(有)

同社は、工業技術移住者として1961年に移住した岡本文郎が、1969年4月に自営独立して設立した企業で、当初小型同期モーターを製作、その後当海外移住事業団の工業融資等の積極的な活用を図り発展してきている。

(1) 機械部品加工部門

機械設備を充実して部品加工部門を併設し、小型研運機部品、自動織機部品等の下請加工に着手

(2) スクラップ処理部門

同社の屑鉄ばかりでなく、大手重工業をはじめ中小企業各社の金属切削・鉄端材等を処理する古鉄（スクラップ）部門を設置しているが、重要な部門になってきている。

(3) 小型モーター製作部門

小型モーター製作充実とともに、今後は同社独自の製品を開発して製作・販売する計画である。



工場内風景

会社概要

1 会社名

ELETRÔNICA SINKRONAIZU LTDA.

2 所在地

Estrada Vila Ema, 3620, São Paulo.

3 創立

1969年8月

4 資 本 金

CR\$ 60,000.00 (2,760,000円) (1973年中に倍額増資予定)

5 経 営 者

代 表 者 岡本 文郎

昼勤工場長 増淵 恒夫

夜勤工場長 杉崎 秀彦

6 事 業 内 容

小型耕運機用部品加工

自動織機用部品加工

小型同期モーター製作

レコードプレーヤー(プロ用)製作

スクラップ売買

7 従 業 員

31 名

8 月平均売上高

CR\$ 700,000.00 (3,220,000円) (1973年3月現在)

9 主 要 取 引 先

ブラジル久保田鉄工, ブラジル豊和工業, ブラジル三菱重工業(CBC), パンデランテス放送局, コメッタ放送局, 西川・小野レコード販売店, アッソピラーレス, コフェーラッソ, モッチマグノ etc.

10 工 場 規 模

借 地 225m²

借家屋 405m²

家屋賃 CR\$ 1,770.00 (住宅付)

主要機械

旋 盤 10 台

フライス盤 3 台

ボール盤 5 台

工具研磨機 2 台

自動鋸機 3 台

その他機械 5 台

11 その他

過去・現在の実績（年間平均）

単位：クルセイロ

	1970年	1971年	1972年	1973年
部品加工部門	8,250	11,678	36,500	45,200
スクラップ部門	0	7,000	12,000	31,000
電機関係部門	12,000	4,000	2,000	600

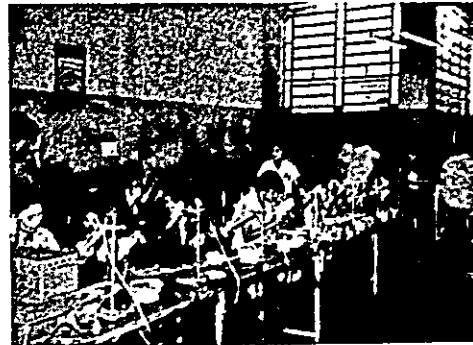
(注) 上記中1973年分は1月より3月までの平均値にて算出

6 チエリー電子工業(株)

オイル含浸チューブラー、ペーパーキャパシターでは業界トップを誇り、テレビ、ステレオ、ラジオ、通信機器等に使用するポリエステルフィルム、及びペーパーキャパシターを主製品としている。近年自動車産業の伸びにともない、ディストリビューター用や雑音防止関係の受注が増加しつつある。その他、自動車用抵抗器、バックホーン等を含めると総売上の約30%が自動車産業に向けられている。

ペーパーキャパシターは、容量0001 μ F \sim 1 μ F \pm 10%、耐電圧400VDC \sim 5,000VDC、ポリエステルフィルムでは容量0.01 μ F \sim 0.5 μ F \pm 10%、耐電圧100VDC \sim 600VDCまで約350種類を生産しており、日産35,000個、月産70万個に達している。

下表は各種キャパシターの主要メーカーの一覧表である。オイルチューブラーでは同社が70%強の市場占有率で、PHILIPS、PHILCO、GE、TELEFUNKEN、SILVANIAの5大メーカーをはじめ、大部分のテレビメーカーに納入している。



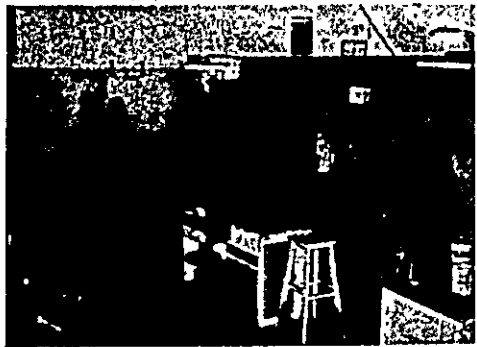
工場内部

キャパシターメーカー一覧表

イブラッペ(フィリップス)	オランダ系	フィルム・セラミック
イコトコン(ジ・メンズ)	ドイツ系	フィルム・セラミック・電解
ミアルプラス	イタリア系	スチロール・セラミック
シュルナ	日系	電解・セラミック

マロリ-	アメリカ系	電解・フィルム
ロギ	ブラジル	電解
カンダ電子工業	日系	スチロール
アルゴス	ブラジル	フィルム・ペーパー
チェリー	ブラジル	ペーパー・フィルム

ブラジルのテレビは23インチと24インチが主力でハイブリッドのためオイルチューブラーは、600VDC ~ 2,000VDCが多く使われている。最近特に機械仕上げによる生産性の向上に力を入れ、110名で月産70万個（1個当りの附加価値は約3倍強になっている）という能率をあげている。生産性向上の要因は、作業改善・工程改良等にもあるが、計測装置を完備し品質管理に重点をおいた結果、不良率が最高1%~3%以下に低下したことに負うところが大きい。



工場内部

将来の計画としてエレクトロニクス業界で50%、自動車業界で50%の見通しをたて、既に新工場用地としてサントアマロのマルジナル近くに16,000m²の土地を購入している。

会社概要

- 1 会社名
INDÚSTRIA ELETRÔNICA CHERRY S.A.
- 2 所在地
Rua Presidente Soares Brantão, 237, São Paulo
- 3 創立
1959年1月
- 4 資本金
CR\$ 1,800,000.00 (828,000,000円)
- 5 経営者
代表取締役 岡本 喜一
専務取締役 森部 一希
常務取締役 小楢山 謙毅

6 生産品目

ペーパー・キャパシター

ポリエステル・フィルム・キャパシター（ラジオ・テレビ・通信機器・自動制御機器等用）

7 従業員

150名

8 工場規模

① 敷地 1,615m²

② 建物 1,700m²（新工場用地16,000m²）

③ 設備

a 受電装置

変圧器 300KVA 1基

入力 3,300V

出力 110V ~ 220V

b 自家発電装置（三相交流）

50KVAディーゼル付 1基

60KVAディーゼル付 1基

c 工作部

ボール盤3, ミーリング1, 旋盤4, シューパ-2, 研削盤2, 切断器2, 加圧器(30トン)
2, 溶接機(電気・ガス)各1, エア-コンプレッサー-1, ファイバ-板切断器1

d 木工部

小型製材器 1式

e 生産部（つぎの各工程設備）

オイル, フィルム・キャパシター-製造, 紙巻工程, 乾燥, 合浸, 皮履, 組立, 検査, 印刷

7 日立ライン電機工業(株)

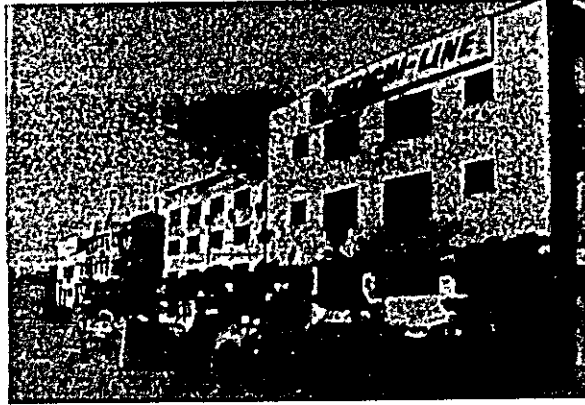
1963年1月, LINE MATERIAL社に資本参加し現在資本比率は日立製作所95%, 残り5%がブラジル現地資本という割合になっている。

この会社の主要製品として, リオ工場で送配電用各種スイッチ類・避雷器等, 高電圧, 高電流から低電圧・低電流用まで各種のものを生産している。

競争相手はSIMENS, AEG, GE, ASEA, BBC, などアメリカ, スウェーデン, スイス, ドイツ系の各社があり製品の改良, 機種増加に努力し年々業績は伸びている。

1972年より空調機の製作・販売を開始し, サンパウロ市近郊のサン・ジョゼ・ドス・カンボス市に245,000m²の土地を購入, 工場も1973年4月に完成, 近く同地の工場も本格操業に入る予定で

ある。



日立ライン電機工業(株)前景

会 社 概 要

- 1 会 社 名
HITACH - LINE INDÚSTRIA ELETÔRICA S.A.
- 2 所 在 地
(本社) Rua Miguel Angelo, 385, Rio de Janeiro, Est. da Guanabara
(電機事業部)
(工場及び営業所) Rua Miguel Angelo, 385, Rio de Janeiro,
Est. da Guanabara
(空調機事業部)
(工場) São José dos Campos, São Paulo
(営業所) Rua General Cauto Magalhães, 222, São Paulo
Av. Rio Branco 85 - 7
- 3 創 立
1936年12月(1963年1月資本参加)
- 4 資 本 金
CR\$ 28,560.00(1,313,760円)
- 5 経 営 者
代表取締役社長 稲塚 保
常務取締役 田中 俊彦
取 締 役 GABRIEL PEREIRA

6 生産品目

計器用変圧器・変流器・各種遮断器・油入開閉器・断路器・ヒューズ・避雷器
水冷式及び空冷式各種空調機

7 従業員

450名

8 販売先

国内各電力会社・民間生産工業並びに建設業者等多方面に亘る。

空調機は工事業者を中心に官公庁・銀行・ビルディング・サービス業・事務所・住宅・工場等

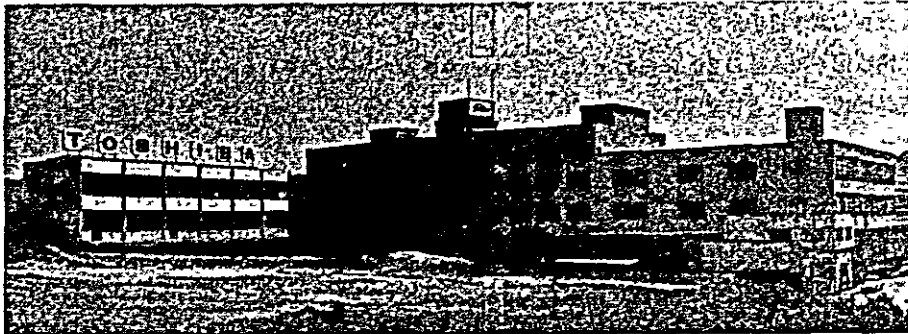
9 工場規模

	リオ工場	サンパウロ工場
敷地	16,000m ²	245,000m ²
建物	18,000m ²	3,000m ²

B ブラジル東芝(株)

発電機製造分野でGE, BROWN BOVERYに次いで第3位の業績を誇っている。

東芝は1967年同業のイルネ社に資本参加して東芝イルネ(株)を設立し、また1968年にはミナス・ジェライスのイマン社との合併企業東芝イマン(株)を設立したが、1973年前述の東芝イルネ社と東芝イマン社が合併して現在のブラジル東芝(株)となったものである。



ブラジル東芝(株)工場全景

この合併により従来の東芝イルネ工場は東芝サンパウロ工場、東芝イマン工場は東芝ミナス・ジェライス工場となって活動を開始した。合併によって、営業資材の入手、生産、労働力などの分野で企業の合理化をはかり、総合重電気企業として更に大きく飛躍することを期している。



工場内景

(1) サンパウロ工場

サンパウロ工場では直交流小型及び中型発電機、特殊モーター、電気ブレーキ、電気溶接機、制御盤が主要な製品となっている。イルネ社と合併した当時は町工場式の無組織的な企業経営であったが、社員及び工員を組織的に働かせる訓練から始め、他方では徐々に東芝の技術を導入してこれまで製造できなかった2,000 KVAの中型発電機などに機種を拡げた。1972年には10,000 KVAのものまで製造可能となっている。

(2) ミナス・ジェライス工場

ミナス・ジェライス工場では配電用柱上変圧器、交電用中型トランスを主に生産している。製品は量産品、又は注文品としてミナス・ジェライス州とサンパウロ州を中心にして、電力会社、水道局等の公共体、及び民間企業に納められている。同社のトランス部門における市場占有率は10%～20%といわれるが、ASEA、SIMENS、AEG、COINZA等の企業や、他に小規模ながら10社程度の競争相手がある。

販路は旧イルネ社の20年にわたる販売活動の成果がそのまま生かされてブラジル全土に及ぶが、量産品は代理店を通じ全国に浸透している。また注文製品は大口需要者用として直接同社より販売されている。

主要な市場はPETROBRAS、SUDENEを初めとする官公庁、造船所、発電所、電力会社などブラジルの電力エネルギーの開発伸長に伴い多様である。

ブラジルにおいては営業拡大、資材確保、加工組立、試験など各分野において日本と異なる問題があり、漸次これらを有機的に関連づけて解決しつつ事業の拡大を計ることが望まれるところ、同社では、既に拡張計画の一環として新用地を購入しており、機種的大型化と多様化を目的に前進中である。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
TOSHIBA DO BRASIL S.A.
- 2 所 在 地
(本社・サンパウロ工場) Rua Rizieri negrini, 183, Via Anchieta, São Paulo
(ミナス・ジェライス工場) KM-15, BR-381, Cidade Industrial de Contageur teles, Belo horizonte, Est. de Minas gerais
- 3 創 立
1973年
- 4 資 本 金
CR\$ 16,750,000.00(770,500,000円)
- 5 経 営 者
取締役社長 磯口 次郎
取締役副社長 上野 立雄
財務取締役 佐藤 栄作
営業 ・ Theobardo Vigiani
製造 ・ 川口 幸男
技術 ・ 小倉 研三
取 締 役 井爪謙太郎
- 6 生 産 品 目
直交流小型及び中型発電機, 特殊モーター, 電磁ブレーキ, 溶接機, 直交流発動機, 制御盤, 調整器, 研磨機
- 7 従 業 員
サンパウロ 430 名
ミナス・ジェライス 170 名
- 8 工 場 規 模
 - ① サンパウロ工場
ア 敷 地 9,315m²
イ 建 坪 9,832m²
ウ 新用地 450,000m²
 - ② ミナス・ジェライス工場
ア 敷 地 14,200m²
イ 建 坪 4,500m²

9 ブラジル日本電気(有)

同社の親会社である日本電気(株)は資本金300億円、従業員数約3万6千人、東京周辺に4大工場を有し、クロスバー交換機、マイクロウェーブおよび衛星通信装置、電子計算機、放送装置、半導体集積回路部品等あらゆる電子通信機器の日本における唯一の総合メーカーであるが、ブラジル政府の諸施策並びに通信拡充計画に呼応し貢献すべく、1968年11月ブラジル日本電気(有)を設立。ゾットラ街道18キロの地点に工場を完成した。

当初は簡単な交換機、マイクロ製作に着手したが、ブラジルだけでも百億の受注トータルといわれ、工場の規模も拡大していく予定である。

主な生産品目はクロスバー方式の各種自動電話交換機である。

会 社 概 要

1 会 社 名

NEC DO BRASIL - ELETRÔNICA E COMUNICAÇÕES LTDA.

2 所 在 地

(本社) Rodovia Presidente Dutra, Km - 18,
Guarulhos, Est. de São Paulo

(支店)①Rua Teofico Otoni, 82, 10^o and., Rio de Janeiro, Est. da
Guanabara②Av. Paulista, 2006, S/501, São Paulo

3 創 立

1968年11月

4 資 本 金

CR\$ 70,000,000.00 (3,220,000,000円) (1973年5月)

5 経 営 者

社 長 川北 泰三

副社長 古川陸紀夫

総務企画 大橋 祐治

財務経理 本郷 礼夫

営 業 細川 良治, OCTAVIO V. JARDIM

工 事 佐藤 朗

6 生 産 品 目

○自動電話交換器 クロスバー方式

機種 NC - 11(192L) 可搬型

NC - 100(300L) 可搬型及局舎型

NC - 230(1,000L) 可搬型及局舎型

NC - 400(無限)局舎型

7 従 業 員

741 名

8 販 売 先

○EMBRATEL - EMPRESA BRASILEIRA DE TELECOMUNICAÇÕES

○C.T.B - CIA. TELEFONICA BRASILEIRA

○TELESP - TELECOMUNICAÇÕES DE SÃO PAULO

○TELEMG - TELECOMUNICAÇÕES DE MINAS GERAIS

○CETEL - CIA. TELEFÓNICA DO ESTADO DA GUANABARA

9 工 場 規 模

敷 地 115,900m²

建 物 20,716m²

設 備

クロスバ方式自動電話交換機，搬送，伝送機製造設備一切完備

通信関連機械器具製造業

モトラジオ商工(株)

1951年1月僅かな資金でラジオ類の修理を中心として始めた事業が、1969年にはブラジルの経済誌ウイゾン誌上の「ブラジルの大企業」のなかに数えられるまでに成長、同社に匹敵する企業はブラジルでも一寸類がない。

同社のカーラジオの市場占有率はブラジルで60%の高率を記録し、家庭用ラジオ、携帯用ラジオ、及びレコードプレーヤーも生産している。また警察無線連絡用を主目的とする通信機の生産まで手がけようとしている。

5年前まで従業員数300名足らずの小企業であったが、ブラジルの自動車生産の伸長とともに順調な発展をつづけ、現在従業員は1200名以上に達している。また一昨年、機械組立工場が完成し継続して本社事務所も建設計画中である。

同社の強みは単に製品の組立だけでなく、部品の大部分にあたるケース、シャーシ、アンテナ、各種コイル、スイッチ等を自社生産するところにある。特に4年前、ブラジルで最初のカラジヲ用押しボタン式周波数変換スイッチを開発したが、更にコンデンサー、ボリューム等の生産の計画も進めている。これらの同社製部品はすでに自社の需要をオーバーし、他の同業有名会社に供給している。特に同社の木工部では、テレビ製造会社よりレコードプレーヤーの箱やスピーカー用ケース等の大量注文に応じている。

電子計算機の導入は早くから計画されていたが、事務所の拡張によりいよいよ実現のはこびになり目下その準備中である。当初は在庫管理、売上管理(販売)、従業員の賃金、事務管理等に活用するが、次第に品質管理、生産管理と全社的に活用する方針である。

販売面では国内だけでなく、現在パラグアイ国へ家庭用・携帯用ラジオ及び自動車用ラジオを輸出している。また目下アフリカのボトガル領アンゴラからの商談もありほぼ成立を見ている。

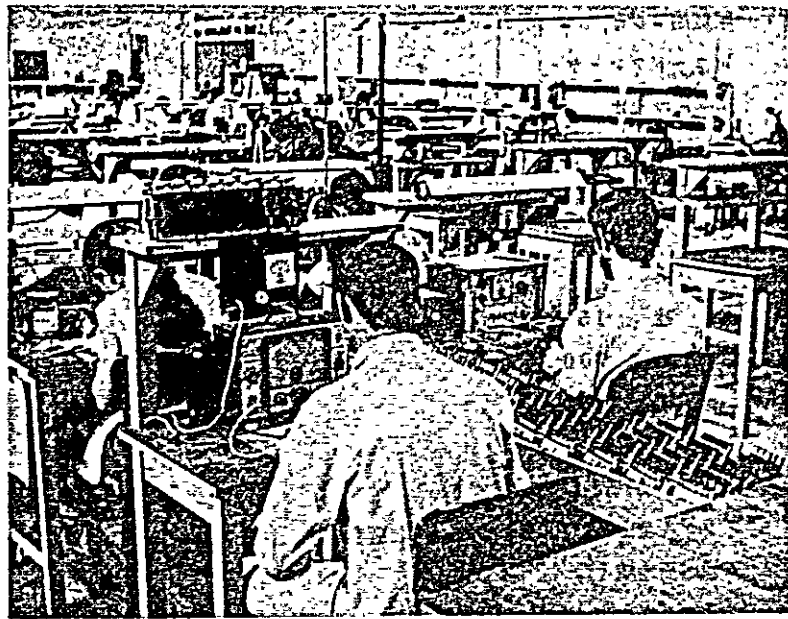
一方、特別プロジェクトによる自動車製造会社からの注文はまずGM社、CHRYSLER社に3年前より供給し、現在VOLKSWAGEN社との商談も進行している。

日本からの企業進出もいよいよ軌道にのり現地日系会社との合併も活発の折、日本のソニーと提携がなり、ソニー・モトラジオ輸出入販売会社を設立、ソニー製品の現地製作も準備中である。

また日本のアルプス電気(株)との合併も成立し現在急ピッチで工場完成に邁進している。



機 械 工 場 内 部



組 立 工 場 内 部

会 社 概 要

- 1 会 社 名
MOTORADIO S.A. COMERCIAL E INDUSTRIAL
- 2 所 在 地
(本社) Rua General Jardim, 267 à 277, São Paulo
(機械・組立工場) Rua Fortunato Ferraz, 75, Vila Anastacio, São Paulo
(木工工場) Rua João Tibiriça, 980, Vila Anastacio, São Paulo
- 3 創 立
1963年3月
- 4 資 本 金
CR\$ 9,500,000.00 (437,000,000円)
- 5 経 営 者
取締役社長 深間 宏
財務取締役 深間 正和
生産担当取締役 ARBERTO 河野
営業担当取締役 山中 光男
総務取締役 深間 寿男
- 6 生 産 品 目
自動車用ラジオ 月 産 20,000 台
家庭用ラジオ " 3,000 台
レコードプレーヤー " 2,000 台
携帯用ラジオ " 15,000 台
通信機 試作中
- 7 月平均売上高
CR\$ 7,500,000.00 (345,000,000円)
- 8 従 業 員
本 社 150 名
組立工場 700 名
機械工場 300 名
木工工場 50 名
- 9 主 要 取 引 先
ブラジル全土に約6,000の販売代理店を有す。
主要販売地域
サンパウロ州 45 %
グアナバラ州 30 %

その他の州 25 %

全国に販売店をもつGENERAL MOTOR 社

CASA ANGLO BRASILEIRA DUCAL S.A.

ELETRORADIO BRAS, MESBLA S.A. etc.

10 工場規模

敷地 25,016m²

建築済 10,000m²

木工工場 3,600m²

機械工場) 10,000m²

組立工場

事務所(本社)将来建築敷地 3,000m²

現事務所 400m²

輸送用機械器具製造業

1 ブラジル石川島造船所(株)

第二次大戦直後からブラジル海軍と深い関係にあった石川島播磨造船会社が、ブラジル政府の重工策建政政策からブラジル進出を要請され数次にわたる調査、会合ののち1959年1月ブラジル石川島造船所が発足した。

造船工業は400種以上の各種工業技術を集めての複合産業であるが、ブラジル石川島は独自の方式で開発、一方で必要産業の発達を助成し、市場に求められないものについては自家製造を行なって、名実ともに南米最大の新式設備を誇るものに発展した。

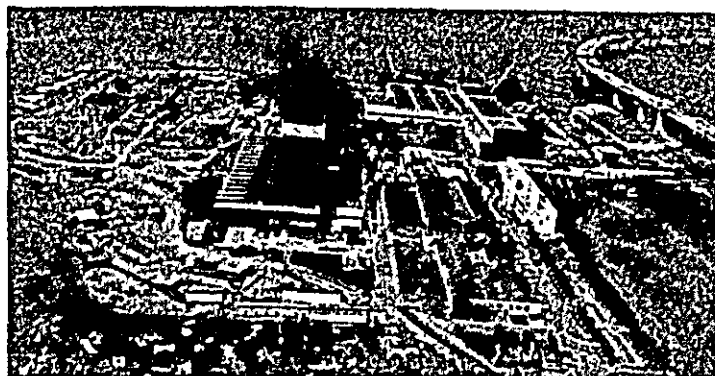
営業部門は海上ばかりでなく、陸上部門にも及び、鉄骨橋梁・天井クレーン・ローラーゲート・LPタンク・インゴットケース・シリンダー等の各種機器を生産し、製鉄・石油化学・電力会社などの受注に応じその技術は高く評価されている。

ブラジル石川島は、南米各国からその存在を注目され、現在まででもすでに、メキシコ、トリニダードに対し1万トン級の船舶の輸出と浮ドックの建造を行なっている。中南米諸国は、メキシコまで含めて何れも重工業、特に大型船舶造船分野では全くの後進国であり、さらにこれらの諸国は今まで貧弱な商船隊しか持たず、今後、これらの諸国が海外貿易を強化するためには、何とにしてもその商船隊の強化が必要となってくる。一方、ラテンアメリカ共同市場の成立を始めとしてこの外国貿易の要請は強まるばかりである。

グアナバラ湾、ポント・デ・カジュ-に位置するイニョウ-マ造船所は、単にブラジルだけでなく、広く中南米諸国間に大きな重要性を占めている。



工場入口



石川島造船工場 全景 (1970年)

会 社 概 要

- 1 会 社 名
ISHIKAWAJIMA DO BRASIL ESTALEIROS S.A. "ISHIBRAS"
- 2 所 在 地
(本 社) Av. Presidente Antonio Carlos, 607, Rio de Janeiro,
Est. da Guanabara
(造船所) Rua General Gurjão, Nº 2, Ponta do Cajú, Rio de Janeiro,
Est. da Guanabara
- 3 創 立
1959年1月
- 4 資 本 金
CR\$ 208,000,000.00 (9,568,000,000円)
- 5 経 営 者
代表取締役社長 ORLANDO BARBOSA
代表取締役副社長 大堀 義信
理 事 MINORU YAMAMOTO
- 6 営 業 種 目
各種形式船舶建造・修理, 船舶用 DIESEL 主補機の製造並びに修正, 陸用 DIESEL タンク高
圧容器, 起重機, 鉄骨, 橋梁, 水門及び各種産業機械の製造及び修理。
- 7 1972年売上高
CR\$ 48,764,000.00 (2,243,144,000円)
- 8 従 業 員
2789 名

内 訳	ブラジル人	2,557名
	日本人	202名
	外国人	30名

9 販 売 先

ブラジル中央電力会社
 ミナスジェライス中央電力会社
 サンパウロ中央電力会社
 グアナバラ州電力会社
 サンパウロ市水道会社
 FUR NAS中央電力会社

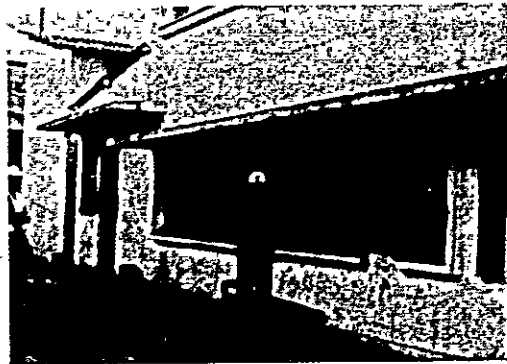
10 工 場 規 模

建造ドック	版1	4,000m ²
	版2	22,750m ²
船 設 工 場		11,400m ²
溶 接 工 場		6,100m ²
機 械 工 場		5,200m ²
ディーゼル工場		2,700m ²
陸上鉄構工場		4,100m ²
鋳 鍛 工 場		4,160m ²
電 気 工 場		1,200m ²
そ の 他		14,534m ²
合 計		76,144m ²

2 昭和機械工業(有)

同社は1964年8月、ブラジル石川島の要請もあって設立された。

石川島造船所のリオ・デ・ジャネイロ進出当時、造船工程を受けもつ各種の下請け工事施工会社が完全でなく、石川島はそれらの育成と指導に相当な努力を必要とした。昭和機械工業もこのような経緯から設立されたため、石川島の



本工場の事務所(工場長 鹿田氏)

作業拡大化とともに次第に発展してきている。

会社の創立当時、ちょうど1964年の経済不況期にあり、政府の造船工業に対する態度も明確でなく、仕事の量その他で問題があったが、1965年末からはブラジル石川島も十分な受注量をかかえ、昭和工業も従業員を急増せねばならぬという膨大な作業量と取り組み現在に及んでいる。

同社の事業内容は配管、溶接、組立てなど鉄工関係である。



鉄船の修理中

会 社 概 要

1 会 社 名

INDÚSTRIA MECÂNICA SHOWA LTDA.

2 所 在 地

(本社) Rua 7 de Setembro, 43, Rio de Janeiro, Est. da Guanabara

(工場) Rua Carlos Seide, 460, Cajú, Rio de Janeiro,

Est. da Guanabara

3 創 立

1964年4月

4 資 本 金

CR\$ 200,000.00 (9200,000円)

5 経 営 者

社 長 村上 尹也

工場長 鹿田 明義

6 生 産 品 目

船舶改造修理、一般土木工事鉄鋼関係、エレベータ鉄骨関係

7 1972年度月平均売上高

CR\$ 1,800,000.00 (82,800,000円)

8 従 業 員

136名(日系人25名)

9 販 売 先

石川島造船所, 日本電気, PETRO BRAS, VALE DO RIO DOCE製鉄所

10 工 場 規 模

敷 地 4,800m²

3 中 田 商 工 (株)

ブラジルの工業化は何と言っても自動車産業が原動力となって展開されてきたといえるが、実に世界のトップメーカーが早くより進出し、互いに競っている。

VOLKSWAGEN, MERCEDES-BENZ, GENERAL MOTORS, FORD-WILLYS, CHRYSLER など代表的メーカーの市場となっている。特にVOLKSWAGENは全生産台数の5割強を年々生産しており、"カブト虫"の愛称で広くブラジル国民の間で親しまれている。このVOLKSWAGENに重要な自動車部品であるタイロットをほとんど一手で納入しているのが、この中田商工である。同社は資本金Cr\$24,000,000.00従業員900名、年商約3億円の規模で、過去10年間で400倍の超高度成長を遂げた日系コロニア屈指の企業である。

昭和31年ある自動車メーカーの下請会社としてスタートを切った。創立当初資本不足のため幾多の困難があったが、自動車ブームとブラジリア建設ブームの到来とともに昭和38年春VOLKS社より商談がもちかけられ同社の躍進が始まった。そして他のメーカー(FORD, GM, MERCEDES-BENZ, FABRICA NACIONAL DE MOTORES, MASSEY FERGSON DO BRASIL)からも注文を受けた。



中田商工(株)工場全景

ライバル会社にはアメリカ系企業のトムソン社があり、親会社より既製の専用機を導入し生産にあたっている。

中田商工はこのトムソン社に比べバックアップを望めないだけに、自社製のものに創意工夫を積み重ね各種の専用機を生み出している。また必要に応じ外国の技術も取り入れ、西ドイツのタイロット専門メーカー「エレン・ライト社」と技術提携しタイロットの生産にあたっている。

同社の製品にはこのタイロットの他、ボール・ジョイント、ショック・アブソーバーなどがある。

同社には特に最近日本からの工業技術移住者が多く就労し同社の技術革新に参加している者が少なくない。移住者の子弟でもある中田社長も優秀な技術移住者に期待している。

ブラジル全土に2000に及ぶ販売店を有し、世界でも信用度が高いVOLKS WAGEN社に認められた同社は、今後も注目され発展していくことが期待されている。

会 社 概 要

1 会 社 名

NAKATA S.A. INDÚSTRIA E COMÉRCIO

2 所 在 地

Av. Plastispuma, Nº 200, Bairro de Piradorinha, Diadema,
Est. de São Paulo

3 創 立

1952年11月

4 資 本 金

CR\$ 204,000,000.00 (9,384,000,000円)

5 経 営 者

代表取締役	中田 俊
取締役副社長	中田 勝秀
専務取締役	平野 一郎
営業担当理事	中田 英治
工程	中田 博登
財務	JORGE 近藤

6 生 産 品 目

タイロット、ボールジョイント、その他、エンジン及び車体部品

7 従 業 員

900名

8 販 売 先

- VOLKSWAGEN

MERCEDES - BENZ

GENERAL MOTORS

FORD - WILLYS

CHRYSLER

FÁBRICA NACIONAL DE MOTORES MASSEY FERGSON DO BRASIL

9 工場規模

(1) 敷地 90,000m²

(2) 建物 22,000m²

4 新潟プラス(株)

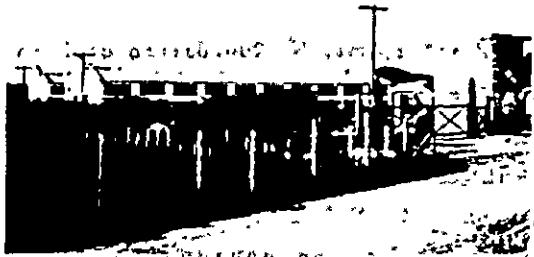
貿易商社を別にすれば、第二次大戦後のブラジルへの日本よりの進出企業としては最も早かったものの一つである。

新潟プラスは、日本の親会社である新潟鉄工所がリオ山県建設との共同で進出を企画、両者資本金50%ずつの比率、その他の条件が決まり1957年1月設立された。

日本の新潟鉄工の広範な事業のうち主な活動は小型造船、および大型内燃機関であり、当時、日本

から日本冷凍、大洋漁業等の漁業会社のブラジル進出もあった事から、新潟プラスにおいても事業の中心はその二種目となった。

リオ・デ・ジャネイロ州サンゴンサロに機械工場があり、船舶用補助機械類の修理及び部分品の製作を行なっている。始めは石川島造船所からの注文が中心で他にあまり知られなかったが、最近では一方でブラジル造船界が活気を呈した事、他方新潟プラスの知名度が上昇した事と重なって石川島の他にも大手の顧客が増加してきている。



機械工場全景



製作品の積出(船舶部品)

会 社 概 要

- 1 会 社 名
NIIGATABRAS ENGENHARIA S.A.
- 2 所 在 地
(本社) Rua Conceição, 13, Niteroi, Est. do Rio de Janeiro
(工場) Travessa Menezes Alcantara, São Gonçal, Est. do
Rio de Janeiro
- 3 創 立
1957年1月
- 4 資 本 金
CR\$ 3,535,353,31 (162,626,252円) (1973年1月現在)
- 5 経 営 者
山 県 武 男, 山 県 富士男
- 6 事 業 内 容
ハッチカバー, 船舶部品, 鋼管タンク類, 板金関係
- 7 1972年度月平均売上高
CR\$ 3,000,000.00 (138,000,000円)
- 8 従 業 員
87名 (日系人10名)
- 9 販 売 先
石川島造船所(株)
PETROBRAS
FURUMINENSE ELECTRICA
ROYD BRASILEIRO
その他6社
- 10 工 場 規 模
第1工場 2,430m²
第2工場 1,600m²
そ の 他 30,500m²

5 ブラジルトヨタ自動車(株)

ブラジルの自動車工業は、サンパウロ市およびサン・ベルナルド・ド・カンポ市にGM, FORD, CHRYSLER, VOLKSWAGEN, MERCEDES-BENZ など世界の強豪が競い合っている状態で



ブラジルトヨタ自動車(株)工場全景

あるが、日本のトヨタ自動車も 1958 年より進出し各種ジープを生産している。

現在の月産生産台数は 100 台程度であるが、ディーゼルエンジンに加えてシャーシの堅牢性で優れており、燃料・維持費の経済性と悪路に強い車として定評がある。

同社の月産生産能力は、定時で 250 台であるが、エンジンを始めとして、大部分の部品を外注しており、社内生産は、ボデー、フレーム、リアアクスル部品、フロントアクスル、ミッション、トランスファー関係部品である。

表 1 は、同社製自動車の仕様であるが、最近国内大都市を結ぶ幹線道路をはじめ各地の道路整備が充実し、普通車の活動範囲が著しく広範囲になったためトヨタ車の販売先はサンパウロ州内奥地から次第に州外内陸地域に移動しつつある。

実際、サンパウロ市内等大都市では、4～5 年以前までは多数を占めていた、1945 年型シボレーのタクシーに代って、国産車の DKW、VOLKSWAGEN が台頭し、ステーションワゴン（ベルア）も姿を消している。メーカーの合併も激しく、今やブラジルの自動車界も大衆車時代を迎えた感がある。

同社は、各国の自動車メーカーに先鞭をつけて進出したため、創業以来 16 年を経過した老舗であるが、表 2 に示すとおり、現在では欧米系各社に完全に追い越された状態となっている。

今後、こうした状態を挽回するためには、エンジンの自社生産、思いきった新型車の生産、販売態勢の確立など数多くの難問をかかえているが、GM、FORD、CHRYSLER、VOLKSWAGEN がそれぞれ 1 億ドル以上の追加投資をするなど各社の功勢が辛辣なだけにきびしいものがある。

表1 トヨタ自動車製各車種の仕様

型	ジ-ブ	ワゴン	ワゴン	小型トラック
	OJ 50L	OJ50WV	OJ50V-B	OJ55LP-B
全 長	3,795mm	3,795mm	4,265mm	4,860mm
全 幅	1,665mm	1,665mm	1,665mm	1,715mm
車 高	1,950mm	1,920mm	1,965mm	1,910mm
重 量	1,580kg	1,710kg	1,760kg	1,810kg
シリンダー (数)	4	4	4	4
シリンダー (容量)	3,784cc	3,784cc	3,784cc	3,784cc
馬 力	94HP	94HP	94HP	94HP
ミッション	前進 4段 後進 1段	前進 4段 後進 1段	前進 4段 後進 1段	前進 4段 後進 1段

会 社 概 要

1 会 社 名

TOYOTA DO BRASIL S.A. INDÚSTRIA E COMÉRCIO

2 所 在 地

(本社・工場) Estrada de Pirapórinha, Km - 23,

São Bernardo do Campo, Est. de São Paulo

3 創 立

1958年1月

4 資 本 金

CR\$ 23,631,741.00 (1,087,060,086円)

5 経 営 者

代表取締役社長 酒巻 和男

財務担当取締役 布村 明二

工業担当取締役 加藤 和男

6 生 産 品 目

各種ジ-ブ

7 従 業 員

430名, 派遣職員3名

8 販 売 先

ブラジル全土に85店

9 工場規模

敷地 192,363m²

建物 21,328m²

設備 定時で1カ月250台の生産能力を有する。

旋盤80台、形彫刻盤2台、ボール盤70台、鋳造設備1ライン、フライス盤30台、鍛造設備1ライン、研削盤11台、プレス15台

表2 ブラジル自動車会社の生産数

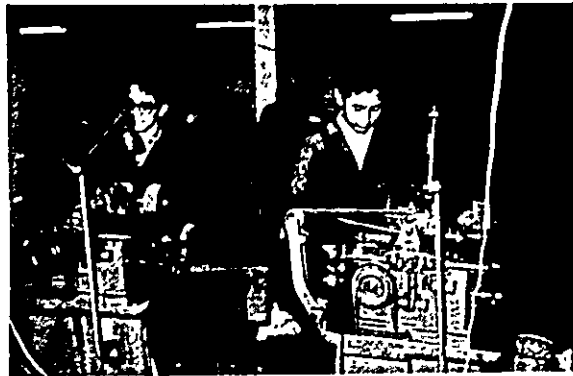
会社名	年度別生産数		
	1968	1969	1970
CHRYSLER	8,564	11,842	10,088
F.N.M	2,356	2,212	2,040
FORD	69,379	88,797	55,637
GENERAL MOTORS	24,987	52,805	51,280
MAGIRUS-DEUTZ	648	425	303
MERCEDES-BENZ	16,736	17,278	12,872
RUMA	151	272	162
SAAB-SCANIA	973	999	698
TOYOTA	949	890	475
INTERNATIONAL			
VEMAG			
VOLKSWAGEN	154,972	178,180	170,678
計	279,715	353,700	304,233

時 計 製 造 業

1 ブラセイコー (株)

1938年現社長羽瀬氏を中心とする事業家のグループが日本のセイコー時計をブラジルにおいて代理販売開始したのが同社のはしりである。

第2次世界大戦が始まり、その輸入が不可能になると、羽瀬グループは時計製造を手がけた。すなわち、“インレブラ時計”のスタートである。この工場の最初の製品はブラジル人好みの“鳩時計”であったが、販売開始後ブラジル国内市場に人気を博し全国的によく売れた。そこで同社では、施設の拡充とともに新製品の開発・研究に踏み切った。



就 労 中 の 技 能 者

そして純国産品としての壁時計、卓上時計の製造を始めるとともに、性能の高い型を求めて開発研究を重ねていった。



時計を組立てる女子工員

1966年国内市場が伸び需要が大きくなった頃、世界のトップメーカー“SEIKO”の技術協力を得ることになった。日本SEIKOとの技術提携が成ると新しいトランジスタ壁時計を生産、これが100%国産品として国内市場で爆発的な売れ行きを示しブラジルのメーカーの声価を得るに至った。

1970年同社は“セイコー”と合併して、更に効率的な企業としての成長を期した。ここに現“ブラセイコー”が誕生した。

同社では現在、トランジスタ壁時計、目覚し時計、卓上時計、オルゴール付時計等を生産しているが、これらは日本のセイコーの製品と変わら

ない優秀な製品となっている。

なお、1973年8月、近代的な新工場がグアルーリョス市 DUTRA 街道 386km の地点に完成し、
繰進を期している。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
BRASEIKO S.A. INDÚSTRIA E COMÉRCIO
- 2 所 在 地
(本社・工場) Av. Jaímer Pereira, 144, Guarulhos, Km-386,
Via Dutra, São Paulo
(サンパウロ支店) Rua Scuvero, 215, 1^o and.,
(リオ支店) Av. Rio Branco, 154, 24^o and., S/2426
- 3 創 立
1970 年
- 4 資 本 金
CR\$ 2,300,000.00 (105,800,000 円)
- 5 経 営 者
社 長 羽瀬 作良
副社長 羽瀬 太一, 飯野 光栄
- 6 生 産 品 目
柱時計, 目覚し時計, 置き時計
- 7 従 業 員
250 名
- 8 工 場 規 模
敷 地 40,000m²
建 物 4,200m²

その他加工製造業

1 鬼塚商工 (有)

同社はプラスチックまぶし(蒺)の生産に主力をおき、ブラジルの養蚕の需要性と世界の養蚕ブームが起こっている時、同社の7年間(旧オーシャン・プラスチック(有)時代)の実績が物語るように日進月歩市場の開拓に成功した。

なかでも、国内に於けるサンパウロ、パラナ両州の養蚕生産高は年々増加している。隣国パラグァ



工場内部



工場内部

イにいたっては養蚕は国家産業といわれる様になりつつある現在、同社で生産されるプラスチックまぶしは日本の回転まぶしよりも少ない労働力で収穫量をはるかに多く得ることができるという大きな特典をもっている。養蚕家は同社のまぶしを使用して国内の需要はもちろん、パラグァイ国にも輸出するくらい年々生産高をあげている。

そのほか下請としてN.G.Kのペーラ用のツベッテヤイチゴ用のプラスチック籠もコチア産業組合、中央産業組合等に一手納入している。

会社概要

1 会社名

ONZUKA & CIA. LTDA.

2 所在地

Rua Benedito Campos de Moraes, 212, Vila Anasfácio, São Paulo

3 創 立

1970年10月

4 資 本 金

CR\$ 150,000.00 (6,900,000円)

5 経 営 者

社 長 鬼塚 嘉一

副社長 鬼塚 末弘

工場長 石見 和生

6 生 産 品 目

養蚕用マブシ 月産 1,000,000 個

ブラジル特殊陶業 月産 2,000,000 個

イチゴ籠 年間 300,000

7 月平均売上高

CR\$ 180,000.00 (8280,000円)

8 従 業 員

① 工 場 30 名

② 事 務 所 3 名

9 取 引 先

ブラジル特殊陶業、コチア産菜組合、中央産菜組合、プラタク製糸、一般養蚕農家

10 工 場 規 模

① 敷 地 550m²

② 建 物 330m²

③ 設 備

旋盤 ブラジル製 1台

セーパー 1台

成型機 8台

エスツルゾール 1台

ブレンサ 1台

コルタドール(チウベッチ) 5台

ミスツラドール 1台

2 佐藤電気メッキ(合)

サンパウロには現在、大小のメッキ工場は約2500社ある。同社の規模は其中で5番以内に入っており、メッキ仕上げ工程ではブラジル第1位を保っている。

同社では顧客の要求するメッキの厚さ・密着力・ピンホール硬度・耐食性・光沢などに最大の注意を払い、納品することをモットーとしている。

現在工場敷地は2,260m²、従業員数は165名である。また、今年中に掘抜き井戸と480m²の工場を増築する予定である。

受注先としては、自動車メーカーのVOLKSWAGEN, CHEVROLET, CHRYSLER, FORD, TOYOTA, 強電気弱電気電話機メーカーのSIMENS, BOSCH, TELEFUNKEN, BRAST-

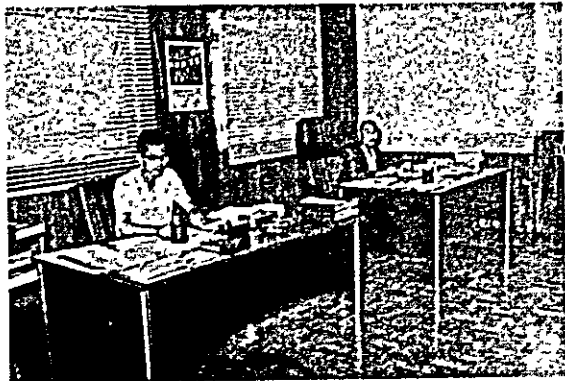
EMP, PHILCO, PHILIPS, TAMURA, MOTORADIO など、全社あわせて250社に達する。

メッキの範囲は、電気メッキ、銀、ニッケル、クロム、スズ、銅、亜鉛、カドミニウム、鉄である。

同社は昨年末より輸入許可を取得し、メッキ液の口遊には日本フィルターと西ドイツ製品を使用している。分析用器具は全て国産品であり、メ



佐藤メッキ工場内部



佐藤メッキ
代表取締役専務

ッキの膜厚計器とPH測定器は中央製作所のものを、ガステスト器具は国産品を使用している。
なお同社は主発施設として変電所300KW2基と18万リットルの貯水タンクを所有している。

会 社 概 要

- 1 会 社 名
K. SATO & CIA. LTDA.
- 2 所 在 地
Av. de Pinedo, Nº 730 e 740 Santo Anore, Est. de São Paulo
- 3 創 立
1951 年
- 4 資 本 金
CR\$ 2,600,000.00 (119,600,000 円)
- 5 経 営 者
代表取締役 佐藤 角寿
専務 佐藤 公男
工場長 矢野 義久
- 6 生 産 品 目
金, 銀, ニッケル, 銅, クローム, 亜鉛, 錫, メッキ, カドミウム着色
- 7 従 業 員
165 名
- 8 販 売 先
VOLKSWAGEN, FORD, CHEVROLET, CHRYSLER, TOYOTA etc.
- 9 工 場 規 模
敷 地 3,260m²
建 物 2,260m²

3 日光電気メッキ工業所 (合)

サンパウロ市から50kmのモジダスクルゼス市にある同社は、同市内の豊和工業、ブルドーザーメーカーのHUBERWARCO社、トラクターメーカーのVALMENT社等から受注をうけている。また、それとともにサンパウロ方面の開拓も徐々に進行している。

1969年と比較して資本金は約3倍の増、工場も拡張され、設備もほぼ倍増された。

メッキは技術と正直によって信用を得ること



日光メッキ工場前景

と、即ち容易にメッキが剥げない堅牢なメッキ仕上げをすることによって発注者に信頼されることが必須条件である。同社はこのような考え方のもとに努力を積み重ねている。

なお同社は今後の方針として、日本の進んだ専門技術を取り入れ、もっと新しい、広い工場を建設、設備の改善、従業員の福利厚生を主なものとしてあげている。また日本からの、同業の進出企業の要望があれば、合併して経営することも考えている。

会 社 概 要

1 会 社 名

CROMAÇÃO NIKKO LTDA.

2 所 在 地

Rua Dona Getrudes Conseq̃ão Cabral, 583, Mogi das Cruzes,
Est. de São Paulo

3 創 立

1957年7月

4 資 本 金

CR\$ 56,000.00 (2,576,000円)

5 経 営 者

代表者 吉永 宗一郎

工場長 吉永 陸奥夫

6 生 産 品 目

シリンダーの硬質クロームメッキ、ニッケルクロームメッキ、亜鉛メッキ

7 従 業 員

50名

8 主 要 取 引 先

初田工業、HUBERWARCO、日本特殊陶業、MUNCK

9 工 場 規 模

敷地 1,000m²

建物 800m²

〈サービス業〉

調査業

アイコン インターナショナル コンサルタント (有)

調 査 業

1 “アイコン”インターナショナル・コンサルタント・アソシエート

同社は、1970年1月ブラジル人と日本人の両者の結合によって創設された。

時々刻々変化する経済界においては、今や優良企業は単に国内だけでなく世界戦略の上に立って物事を考えて処理しなくてはならない。

従って同社もこの流れに遅れる事なく、国内では調査・プロジェクト作成・通関・為替保険業務・倉庫運送等の諸業者中の優良会社と業務提携を行なう事によって業務の総合化をはかるとともに、国外では北米、欧州、日本の一流コンサルタント会社と契約を結んでノウハウ、情報の交換、人材の交流ひいては世界のネットワークを通じて“アイコン”のコンサルティング業務の拡大をはかる事を計画しその方向に進みつつある。

会 社 概 要

1 会 社 名

“AICON” ASSOCIADOS INTERNACIONAIS DE CONSULTORIA ADMINISTRATIVA, TÉCNICA E REPRESENTAÇÕES LTDA.

2 所 在 地

Rua Nestor Pestana, 125, 4^a and., Conjunto 42, São Paulo

3 創 立

1970年1月

4 資 本 金

CR\$ 110,000.00 (5,060,000円)

5 経 営 者

社 長 HORACIO SABINO COIMBAR

副 社 長 加藤 潜, BENEDICTO RIBEIRO

専務取締役 山田 唯資

6 事 業 内 容

- ① ブラジル社会・政治・法律・経済の分析・調査
- ② ブラジルにおいての特定商品に対する生産・市場および消費者調査。
- ③ 企業進出のための買収、合併、合弁、単独進出についての調査・あっせん・分析・評価・推進ならびに採算試算の作成。
- ④ 機械設備・原料を含めての無税輸入申請のためのプロジェクト作成から、通関運送その他該品

目が工場敷地へ到着するまでの一貫サービス。

- ⑤ ブラジル国内外の金融機関から企業が金融を取りつけるための種々プロジェクトの作成。
- ⑥ その他一切のコンサルタント業務。

7 従 業 員

大学卒社員 15 名

嘱託各専門分野 数10名

8 主要なサービス依頼会社

ブラジル中央銀行、サンパウロ州開発銀行、ジェトロ、日本商工会議所、ブラジル住友銀行、ブラジル三菱、ブラジルトーメン、ブラジル伊藤忠、ブラジル三菱重工業、新潟鉄工所、ジャチック、その他多数。

